

第6回 第4次静岡市総合計画策定会議

日時：2022年2月1日（火）

10時30分から11時30分

会場：静岡庁舎8階 市長公室

1 開会

2 市長挨拶

3 議題

(1) 基本構想について [資料1](#)

(2) 4次総の体系について [資料2](#)

(3) （仮）7つの柱について [資料3](#)

(4) パブリックコメントについて [資料4](#)

4 報告事項・その他連絡事項

(1) 市民アンケートの結果報告 [資料5](#)

(2) データ調査・分析業務の結果報告 [資料6](#)

(3) 3次総 分野別計画の政策・施策評価結果 [資料7](#)

(4) スケジュール [資料8](#)

5 閉会

次回会議（予定）

・ 4月下旬頃 第7回4次総策定会議

4次総における「基本構想」の考え方

1 方針

具体的な事項は基本計画で示し、普遍的な考えのみ記載するものとする。

2 3次総と4次総（案）の比較

	3次総	4次総（案）
文字数	約2,300字	約1,400字（現時点での文字数）
議決日	平成26年12月12日	令和4年12月（予定）
構想の期間	定めない	定めない ただし、おおむね2040年頃を見据える
まちづくりの目標	「世界に輝く静岡」の実現	「世界に輝く静岡」の実現
構成		1 策定の趣旨
	1 まちづくりの目標	2 まちづくりの目標
	2 目指す都市像 (1)「歴史文化のまち」づくり (2)「健康長寿のまち」づくり	3 まちづくりの目標を達成するために目指す都市像 (1) 静岡市が擁する地域資源を磨き “輝かせ”、世界から注目され、 人々が集まるまち (2) 静岡市に暮らす市民一人ひとりが “輝いて”自分らしい人生を謳歌 できるまち
	3 市政のさらなる展開 (1)「創造する力」による「都市の発展」 (2)「つながる力」による「暮らしの充実」	
	4 基本計画の策定	4 基本計画の考え方

静岡市基本構想（案）

1 策定の趣旨

時代は今、かつてないほどの目まぐるしい速さで変化を続けています。

世界情勢は刻々と変わり、情報通信技術の進化は、我々の生活や働き方を大きく変容させました。また、地球規模での気候変動を始めとする環境問題や、我が国の人口減少と少子高齢化は、より深刻さを増しています。そしてこの先も、世の中は我々の想像を超えて変化を続けていきます。

そうした変化に柔軟かつ迅速に対応していく一方で、どれだけ技術が進歩し、環境が変化しても、私たちが内面に秘める本質や人間らしさを求める思いは変わることはありません。

私たちは今、かつての形あるものに価値が置かれ、その豊かさが重視された成長・拡大の時代を抜け、情報や体験、心の豊かさといったことに価値が置かれ、個人の幸せを追求する成熟・持続可能な時代にいます。

こうした時代にあって、静岡市は今後、市民のためにどのようなまちを目指すのか。静岡市の今後を切り開く指針として、基本構想を定めます。

2 まちづくりの目標

静岡市は、静岡県のほぼ中央に位置し、北に標高 3,000m 級の南アルプスの壮大な山々が連なり、南に水深 2,500m の日本一深い駿河湾が広がる類い稀な自然を有しています。一年を通じた温暖な気候と豊富な日照時間がもたらす住みやすい生活環境の下、長い歴史において、先人たちにより多彩な文化が培われてきました。

歴史的には、古くは登呂遺跡に代表される弥生時代から、今川文化が花開いた室町・戦国時代を経て、大御所徳川家康公の時代には駿府城が築かれました。また、東海道二峠六宿が東西交通の要衝として発達し、現在も地域の核となっています。このような長い歴史と地勢的な利点から、多くの人が行き交い、多様な産業が育まれてきました。

そして、発達した交通ネットワークを基礎に、商都として発展し賑わいを見せる静岡都心や、港湾都市として発展し海の玄関口である清水都心、教育機関が集積され今後の発展が見込まれる草薙・東静岡を軸に高度な都市機能を備え、県中部の中核都市として発展を遂げています。

このように静岡市は、まちと海、山、川などの豊かな自然、東海道の歴史文化などがバランス良く融合し、世界的にも恵まれた環境にあります。

新しい時代を切り開く要素を豊富に備えた静岡市が目指すのは、人口や産業が過度に集積し、時間の流れが急速に進む大都市ではなく、一定の経済力を有しながら固有の歴史や文化、自然と調和した、人々が人生を謳歌できる持続可能な都市です。

市民 1 人ひとりが幸せに満ちた人生を送り、静岡市の資源（静岡らしさ）を最大限に生かすことで世界に存在感を示す、「『世界に輝く静岡』の実現」をまちづくりの目標に掲げます。

3 まちづくりの目標を達成するために目指す都市像

「『世界に輝く静岡』の実現」のため、以下の 2 つの都市像を目指します。

静岡市が擁する地域資源を磨き“輝かせ”、世界から注目され、人々が集まるまち
静岡市に暮らす市民一人ひとりが“輝いて”自分らしい人生を謳歌できるまち

4 基本計画の考え方

この基本構想に則した基本計画を策定し、政策・施策を円滑かつ着実に推進していきます。

推進にあたっては、市民、企業、行政が互いに手を取り、あらゆる場面で活躍できるシチズンシップに富んだ人材や企業・団体と新たな価値を生み出し取り組んでいきます。

加えて、国籍や性別、障害の有無など、人々の多様性を尊重し、わたしたちが暮らす地球の豊かな環境や生態系を守りながら、経済、社会、環境が調和したまちづくりを進めます。

そして、本市を訪れ、本市と関わる人の輪を広げ、まちの活力を高めていきます。

まちづくりの目標 世界に輝く静岡の実現

まちづくりの目標を達成するために目指す都市像	～ “まち” が輝く～ 静岡市が擁する地域資源を磨き“輝かせ”、世界から注目され、人々が集まるまち	～ “市民” が輝く～ 静岡市に暮らす市民一人ひとりが“輝いて”自分らしい人生を謳歌できるまち
基本計画の考え方	>あらゆる場面で活躍できるシチズンシップに富んだ人材や企業・団体と新たな価値を生み出す >人々の多様性を尊重し、経済、社会、環境が調和したまちづくりを進める >本市を訪れ、本市と関わる人の輪を広げ、まちの活力を高める	

概ね 2040年



重点目標

～人口活力を高め、まちを活性化させる～

人口減少社会を見据え、定住人口の減少を最小限に抑えつつ、交流人口や関係人口を増やし、持続的な経済成長と市民の暮らしの充実を図る

持続的な経済成長

市民の暮らしの充実

指標案：市内GDP、市民満足度など
 計画終期の定住人口目安：およそ65万人

横断的視点
（時代の要請や国際社会の期待に応えるために意識する視点）

SDGsの推進

グリーン社会の実現

DXの推進

重点目標を達成するための取組

（仮）7つの柱

（4次総におけるリーディングプロジェクト）

持続的な経済成長

市民の暮らしの充実

歴史文化の地域づくり
（静岡都心）

海洋文化の地域づくり
（清水都心）

まなびの文化の地域づくり
（草薙・東静岡臨都心）

森林文化の地域づくり
（オクシズ）

まちは劇場の推進

健康長寿のまちの推進

安全・安心のまちの推進

観光・交流

農林水産

商工・物流

文化・スポーツ

子ども・教育

都市・交通

社会基盤

健康・福祉

防災・消防

生活・環境

各分野の取組を推進するための基本認識

市民との協働

民間活力の導入

アセットマネジメントの推進

広域行政の推進

多文化共生の推進

男女参画の推進

計実施

基本計画に基づく個別の事務事業

3 (3) (仮) 7つの柱 ロジックモデル作成 今後のスケジュール (案)

資料 3-1

年度	日程	会議等	具体的検討事項	決定事項	備考
R3 年度	2/1(金)	第6回 4次総策定会議	・第1回電子会議室報告 ・パブリックコメント①案について協議	パブコメ①案	ロジックモデルの修正案は、パブコメ①の結果も踏まえ5月の策定会議で示します。
	2～3月	第6回～7回 作業部会	・ロジックモデルの検討 (最終アウトカム、中間アウトカム・事業の検討)	ロジックモデル 骨子案作成	
	3月	パブリック コメント①	・基本構想 ・4次総体系 ・7つの柱の概要 など		パブコメ期間：3/1～3/31
R4 年度	4/下旬 (予定)	第7回 4次総策定会議	・令和3年度に検討したロジックモデル骨子案について報告(事業まで)		
	4月	第8回 作業部会	・パブコメ①を踏まえ、ロジックモデルの検討 ・SDGsの組み込み検討		
	5/中旬 (予定)	第8回 4次総策定会議	・パブコメ①を踏まえ、7つの柱のロジックモデルについて作業部会からの報告・協議		作業部会員も含め7つの柱のロジックモデルについて、説明・協議
	6月～7月	第9回～10回 作業部会	・ロジックモデル検討 ・SDGsの組み込み検討		
	7/中旬 (予定)	第10回 4次総策定会議	パブコメ②案について協議	パブコメ②案	
	8月	パブリック コメント②	・4次総全体		パブコメ期間：8/1～8/31
	9月	第11回 作業部会	・パブコメ②を踏まえ、ロジックモデル検討 ・SDGsの組み込み検討		
	9/下旬 (予定)	第11回 4次総策定会議	・パブコメ②を踏まえ、ロジックモデル協議 ・議決内容の検討	ロジックモデル完 成	
	11月	11月議会	議決事項(基本構想・基本計画)		

電子会議室での意見	対応
<p>基本構想の文章化 基本構想と7つの柱の関係性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくりの目標」として、具体的に目指すところを共有した上で、そこに到達するために特出しすべきものを5つでも7つでも柱にするのが順序だと言いたい。「まちづくりの目標」を共通認識とするために、早めの文章化をお願いしたい。 ・そもそもロジックツリーの上位に基本構想・基本計画があるのだから、できるだけ早く提示し整理する必要がある。 ・これまでの会議等で何度も出されている計画の根本に関わる意見については、今一度、二役等の意向を確認していただいてから進めていただければありがたい。 	<p>前回会議においても、基本構想の文章化についてご意見いただいております。次回会議（第6回策定会議）にて、基本構想の文章化案を示し、ご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>また、7つの柱は、基本構想のまちづくりの目標である「世界に輝く静岡」の実現のために4次総期間中に特に注力する分野横断的な取組となります。皆様ご指摘のとおり、「世界に輝く静岡」の実現に結びつくような表現を、工夫していくことを検討していきます。</p>
<p>世界に輝く静岡の実現との結びつき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各柱は、10の分野別計画の上位にあるものであるため、より基本構想の「世界に輝く静岡の実現」に結びつくものであるべき。 ・柱の目指す姿に「世界に輝く静岡の実現」に結びつける表現ができるかどうか。各柱の目指す姿が、目指すものとの関連がわかりやすく記載されていることは、最低限必要。 ・「世界に輝く」ということでありながら、国際貢献や国際協力、平和への取組みが全く触れられていないのは疑問。「世界に輝く」に直接つながるようなものは必要ではないか。 ・まちづくりの目標に掲げる「世界に輝く静岡の実現」のもとに、7つの柱があるが、今の各柱の目指す姿の表現では、「世界」に繋がる表現になっていない。 	
<p>10の分野との関係</p> <p>市民目線で7つの柱のタイトルだけ見た場合、10分野と重複する部分も多く、柱と分野のすみ分けをはっきりすべきであり、3つのアウトカムごとの体系づくりがより尖ったものになっていないと感じた。</p> <p>基本構想の理念等と7つの柱の関係性、7つの柱と10の分野との切り分けをよくよく整理したうえで進めてもらいたい。</p>	<p>ご指摘のとおり「教育・スポーツ文化の地域づくり」と「文化・スポーツ分野」、「健康長寿のまちの推進」と「健康・福祉分野」など7つの柱と各分野の名称が似ているものがあり、わかりにくいものとなっていると認識しています。柱や分野の名称を工夫したり、説明の仕方を工夫するなど、7つの柱と10の分野との関係性についても整理していきます。</p> <p>【検討案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「教育・スポーツ文化」を「まなびの文化」に変更 ■文化の定義 <ul style="list-style-type: none"> 歴史"文化"、教育スポーツ"文化"・・・地域に根差すものとしての文化（広義）、 文化・スポーツ分野・・・文化活動として文化（狭義） ■健康長寿のまち・・・住み慣れた地域で健康に生き活きと暮らすことに重点を置いた政策 健康・福祉分野・・・健康福祉全般の政策
<p>7つの柱のエリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7つの柱について、尖ったプロジェクトにするのか、地域づくりのエリアはどうするのか、森林文化、安全安心の範囲をどこまでにするのか、などがはっきりしない中で、作業部会で体系づくりがされていることで後戻りが生じるのではないかと危惧している。 ・都心、副都心というエリア性すら感じられなくなっている。 ・7つの柱のうち、エリア限定とそうでないものなどが混在しているため、わかりづらい。これまでの3都心づくりをさらに進めていくのであれば、シンボリックなエリアとして括った方がわかりやすい。 また、5大構想では「拠点づくり」で、7つの柱では「地域づくり」、この表現の変更の意図はどのようなものか。 ・海洋文化と森林文化以外はエリアを限定しない記載の方が好ましい。あるいは拠点機能を表現するとしても、そこから広がりをもたらすような表現ができないか。 ・7つの柱の目指す姿の前に、都市全体の目指す姿があり、その中心となるものが各柱の目指す姿となるイメージと認識しているが、地域づくりの4つの柱が地域の色が濃く、地区以外の方向性がわかりにくい。 	<p>7つの柱のうち、歴史文化、海洋文化、教育・スポーツ文化、森林文化の4つの柱は、市内の3つの都心・副都心（静岡、清水、東静岡・草薙）と市域の80%を構成する中山間地域を重点エリアとし、それぞれの地域の経済活性化を図るために、地域の特色である、「歴史」、「海洋」、「教育・スポーツ」、「中山間地の地域資源」を磨き上げ、世界に「輝かせる」ことを目指すものとしています。（それぞれの地域づくりの柱名称の後ろに、静岡都心、清水都心、草薙・東静岡都心、オクズを表記することとします）</p> <p>また、市域全体で「安全安心」な暮らしと、「健康で長生き」できる環境を整備することで、市民生活の基礎となる部分を充足させ、さらに「まちは劇場」の推進により、芸術文化活動などの市民生活を彩る要素を加えることで市民が心豊かに暮らせる社会環境を整備し、市民一人ひとりが「輝いて」自分らしい人生を謳歌することを目指していきます。</p>
<p>SDGs、グリーン、デジタルとの関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsとグリーン、DXの視点をもって作成するとなっているが、あまり感じられない。2023からの計画だということをもっと意識する必要があるのでは。 ・DXは手段と捉えることもできると思うが、グリーン（環境）は手段ではなく目標として安心安全や健康長寿に並ぶ要素と捉えるべきで、安心安全などにもっと盛り込むべきでは。 	<p>SDGsとグリーン、DXの視点の7つの柱への組み込みについて、部会の中で再度意識し、検討していきます。</p>
<p>子育て施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7つの柱を改めてみると、健康長寿のまちの推進はあっても、子育てしやすいまちや若者を連想させるものがなく躍動感がない印象。見せ方を工夫する必要がある。 ・本市の人口減少を考えた時、7つの柱の中に、子育て世帯や子どもに関する施策がもっとあっても良い。 	<p>安全・安心の柱の作業部会の中で、本市がこれから人口活力の向上を図っていくためには、将来の社会を支える担い手である「子ども」の安全が図られ、安心して暮らし育つ環境が整っていることが必要不可欠である、との意見が多く出たことから、子どもの安全安心に焦点を当て、アウトカムを設定しています。安全・安心の柱を含め、子どもに関する施策について引き続き考え方を整理していきます。</p>
<p>根拠、定義など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指す姿や最終アウトカムを導き出すための、現状や客観的な資料は、どのようなものが示され、検討されたのか。 ・4つの地域づくりについて、各文化の定義を整理しておく必要があるのではないか。 	<p>各部会の中で、それぞれの関係課と協議の上、現状等の整理を行っています。また客観的資料は、部会において各課から提示していただいたものを参考としたり、次回の会議資料に添付する調査結果などを参考にしていきます。</p> <p>また、各文化の定義や言葉の定義なども部会で再度検討し、整理していきます。</p>

(仮) 7つの柱 電子会議室での意見への対応 (各柱への意見)

		電子会議室での意見	対応
歴史文化の地域づくり	他の歴史資源との連携について	駿府公園周辺に絞った歴史や回遊ということだが、他の歴史資源との連携について、何か考えているのか。	市内に点在する他の歴史資源を目的に来訪した方が、歴史博物館など駿府城公園周辺にも回遊する仕掛けづくりなどを、最終アウトカム1「歴史資源を求めて駿府城公園周辺の来訪者が増える」に対する手段として入れることなどを考えています。
	対象エリアについて	「駿府城公園周辺」とは、具体的にどこを指すのか。例えば、臨濟寺は、駿府城公園周辺かどうか。	"静岡都心"の活性化を図るために、地域の特色である「歴史資源」を磨き上げ、他の柱と共に世界に輝かせることを目指しています。さらに、歴史資源の中心となるテーマとして「駿府城公園周辺」「徳川氏・今川氏」を設定しています。4次総期間の8年間で重点的に取り組むものとして、上記2点を出していますが、静岡都心の活性化と関係する歴史関連事業については、当柱に紐づく事業となることを想定しています。
		「徳川氏、今川氏を中心とした歴史資源」と限定しているが、「登呂エリア」の扱いはどうするのか。	
		他の歴史資源も多くある中で、駿府城周辺に限定することが市民理解を得られるのか。	
	歴史認識とは	「歴史認識」とは何をどう認識することなのか。現在の静岡市と徳川氏、今川氏とのつながりを認識することなのか、歴史上の静岡市が持つ独自性や価値を認識することなのか不明。	「歴史認識」とは、市民が「静岡市が徳川氏・今川氏にゆかりのあるまち」ということを認識し、また、日常や身の回りのものとの関連性を認識し、それらに愛着や誇りを持つことをイメージして記載しています。
	「来訪者」と「回遊者」の区分け	駿府城公園周辺の「来訪者」と「回遊者」を区分してアウトカムとして別立てしているが、両者を明確に区分するのは難しい。それぞれ検討の経緯を教えてください。	最終アウトカム1の「来訪者」は、「駿府城公園周辺を訪れる人の数」が増えることを目標としています。最終アウトカム3の「回遊」は、「駿府城公園周辺を訪れる人の滞在時間」が増えることを目標としています。
	子どもの学び、市内外の区分け	市民の歴史認識の醸成がアウトカムに反映されていない。子どもたちの学びについて触れても良い。	最終アウトカム2に対する中間アウトカムとして「市民への教育・啓発」「市外へのPR」を設定し、「子どもたちの学び」と市内外の対応の区分けについて触れることを考えています。
		アウトカムを「市内外」で括っているが、市内外によって関わり具合は違うのでは。	
歴史資源の集積について	市民意識の醸成から郷土愛育成につなげていくべき。郷土の誇りとなる歴史文化が本市にあふれているということをしっかりと記載すべき。	駿府城公園周辺が、歴史資源が集積しているエリアであることを記載していくことを考えていきます。	
歴史資源の定義	「歴史資源」で良いか。「歴史的資源」、「歴史文化資源」という言い方も考えられる	他の柱を含め、言葉の使い方や定義を検討します。（"資源"や"魅力"の使い分けなど）	
地域洋文化の	対象エリア・三保半島の扱い	希少な海洋環境である「駿河湾」と言っておきながら、「清水港」だけに限定していいのか。	"清水都心"の活性化を図るために、地域の特色である「海洋文化」を磨き上げ、他の柱と共に世界に輝かせることを目指しています。さらに、海洋文化の中心となるテーマとして「国際海洋文化都市」・「清水港周辺」を設定しています。4次総期間の8年間で重点的に取り組むものとして、上記2点を出していますが、清水都心の活性化と関係する海洋関連事業については、当柱に紐づく事業となることを想定しています。また三保半島の位置づけについては、引き続き検討していきます。
		「三保半島」全体は、世界文化遺産構成資産である三保松原を代表として、もっと高い位置付けがあってもよい。	
	海洋関連産業について	①「海洋関連産業」について、「食品・加工」は"まぐろ"、"ツナ缶"等イメージが浮かぶが、「造船」、「関連機器」及び「海洋工事・潜水業」が何なのか、分からない。中間アウトカムが最終アウトカムとしている「海洋産業」と結び付かず、整合がとれていない。「海洋文化」というフレーズに囚われ、厳しい言い方をすれば『外見だけ整えた』だけである。再検討が必須である。	3次総や、海洋文化都市推進本部の役割・体制から、目指す姿と最終アウトカムはこのままでよいのでは、と考えました。それぞれの指標や中間アウトカム以下は、さらに検討していきます。
	しずまえについて	水産資源の活用として、「しずまえ」という本市ならではのキーワードを入れたらどうか。	「しずまえ」を用いることで、由比や用宗といった「漁港」や「鮮魚」を連想させ、「国際海洋文化都市」をぼやけさせるのではないかと考えており、目指す姿等の前面には出さない考えです。
教育・スポーツ地域づくり文化の	まなびの定義について	生涯にわたって「まなび」続けられることで、心豊かに生活を送ることができるとなっているが、「学び=心豊か」が、しっかりこない。	「駿河まなびのまちづくりグランドデザイン」のまちづくりの理念を「まなびに親しみ、文化を創り、心豊かに暮らす」と定めており、多様な体験=まなびとして位置づけています。多様な体験は生活の質を向上させ、心豊かになるとの考え方で進めていきたいと思えます。
		「まなび」という言葉をどの範疇で使っているのか。「学び」は、「教育」以外の場でも行われるので、柱に教育という言葉は入っているが、文化活動や、ボランティア活動など、あらゆる場で行われるまなびを通して、地域、まちづくりを進めてほしい。	
		趣味やレジャーも「まなび」では市民からすると少し硬すぎるのではないかと。	
		全体を通じて、なぜ「教育スポーツ文化」が「まなび」に繋がるのかが分かりにくい。「教育文化」と「スポーツ文化」の定義を明確化する必要がある。	
	スポーツについて	考え方によれば、「まなび」には「スポーツ」が含まれているが、文章の全体的なトーンからは「スポーツ」が抜け落ちている印象を受ける。	スポーツが含まれていることがわかるよう、部会で議論し修正します。
		目指す姿の考え方の中のスポーツが、アリーナやスタジアムを想定しているのであれば現状で書ける範囲で記載したほうがいいのではないかと。	アリーナについては、最有力候補地を東静岡としているため、事業の進捗状況を踏まえ修正を検討します。
	対象エリアについて	4つの地域づくりのうち、教育・スポーツについては地域に拘束されない普遍的なものであることから、「東静岡・草薙地区」に絞るのであれば、最終アウトカムのうち②(学びの意欲向上)、③(コミュニティ活性化)は「東静岡・草薙地区」に限定した内容になっていないので、この地区に特化したアウトカムに修正する必要がある。	"草薙・東静岡副都心"の活性化を図るために、地域の特色である「教育」・「スポーツ」を磨き上げ、他の柱と共に世界に輝かせることを目指しています。このエリアにおいて4次総期間の8年間で重点的に取り組むものとして、上記2点を出していますが、草薙・東静岡副都心の活性化と関係する教育・スポーツ関連事業については、当柱に紐づく事業となることを想定しています。
		生涯学習の色合いが強いが、これは市域全域が対象では。	
「教育・スポーツ文化」という柱であるなら、エリアを限る表現は避けるべきではないかと。			
「経済の活性化」と「暮らしの充実」	このエリアで、豊富で個性的なプログラムと人事交流(学生、企業、社会人、高齢者など様々な交流)ができるキャリア教育やリカレント教育などを他都市よりも充実させ、教育(学び)のシンボリックなエリアとしてアピールするのであれば限定してよい。	ただ、草薙・東静岡副都心地区の「地域づくり」ではあるものの、市域の「まなび」をけん引するという「仕組みづくり」の視点もあるため、「地域づくり」と「仕組みづくり」の整理について部会で検討していきます。なお、指標についても今後検討していきます。	
	想定されている内容に経済的な要素がまったくなく、目指す姿も「～市民が心豊かに生活をおくることができている」となっているため「経済の活性化」ではなく「暮らしの充実」の方が合っている。また、集客についても、「④場づくり」の中で少し触れられているが、学びの創出といった視点で記載されており、経済活性化ではなく、文化を高めるといった視点になっている。	教育・スポーツを分野として捉えたと「暮らしの充実」が適していると考えますが、教育・スポーツ等に関する施設が集積するエリアの特徴を生かして草薙・東静岡副都心を活性化していくという「地域づくり」の柱であるため、それがわかるような書きぶりに修正します。	

	電子会議室での意見		対応
地 域 林 づ 文 化 の 森 林 の 文 化 の 推 進	地域資源を世界基準に磨き上げることにについて	「世界基準に磨き上げられ」というところが、ユネスコエコパーク、世界農業遺産の次の狙いがあるならよい。考え方には「急激な人口減少、少子高齢化が進み」としながら、目指す姿は、現在の住民の暮らしを維持する色合いが強い。 「住民の生活環境の維持向上」が「多様な地域資源を世界基準に磨き上げ」というロジックは、まったく理解できない。その反対で、地域循環共生圏でいうところの「都市」から資金や人材が流入して、「山村」の自然資源や生態系サービスが磨き上げられ、提供される、その流れが住民の生活環境を維持向上させるとのことだと考える。	ご指摘及び部会内での検討を踏まえ、まずは静岡市内において、オクシズと市街地が支え合う枠組みが構築されることが重要であると整理しました。その中で環境省が掲げる地域循環共生圏の考え方を取り入れていく方向で検討しています。
	世界基準とは	「世界基準」という言葉があるが、「基準」とは何か。一般的に「世界水準」という言葉は使われるが、あえて、「世界基準」とするのは何か意図があるのか。また、「企業誘致など」とあるが、オクシズにも「企業誘致」はアリなのか。「既存産業の振興」であればわかるが、違和感がある。 「世界基準」について、オリンピックのようにスポーツの世界ならば記録という明確なものがあって、それが世界基準なり世界標準になるが、まちづくりにおいて「世界基準」とは一体何なのか。北京、ロンドン、ロサンジェルスなど、世界的に有名な都市は多くあるが、これらはすべて「世界基準」の都市なのか。 多様な地域資源を世界基準に磨き上げるとは、今後何をどのような状態にするのかイメージがわからない。	「地域資源が世界基準に～」については、オクシズの多様な地域資源が磨き上げられることで世界に広がっていく、発信されていくといった意味を持って取り入れましたが、いただいたご指摘を踏まえ、今後文章の表現を部会内でも検討していきます。
	住民の生活環境の維持向上について	「住民の生活環境の維持向上が図られることで」とあるが、最終アウトカム③では、医療や買い物、交通などをはじめとした生活機能の維持、住み続けるための地域コミュニティを形成・維持していくことが必要としており、生活環境の維持向上を図るためのアウトカムが見当たらない。 ・住民の生活機能やインフラが整備され→災害時における人流・物流の確保のための交通ネットワークが整備されとした方がより安心した生活になるのでは。	「生活環境」について、今あるものを維持していくことも向上に寄与していることと見え、現在の標記としております。一方でどこを延ばすのか、力点を置いていくことが向上に繋がるかなど部会内でも議論を図り、アウトカムの考え方を示していきます。 日常の生活機能としての交通の他、発災時における交通ネットワークについても重要な視点であることから、最終アウトカム以降でご指摘いただいた要素を取り入れるよう検討していきます。
	森林文化の目指すところ	「わさび」「お茶」「森林」「南アルプス」のような伝承されてきた資源を活かしてヒトやモノの交流が活発になるとか、伝承されるものに新たな知恵を付け加え、世界からも注目される中山間地を目指すなど、「柱」として尖らせたほうがいいのではないのか。 尖ったものや力点を置いているところが明確になっていない。そうした中でロジックが組み立てられるのか疑問。まずは、この柱で何をやっていきたいのかを明確にする必要がある。	頂いたご意見を参考に部会内でも協議し以下の3点を力点としてとらえました。 ・多様な地域資源の更なる磨き上げ ・オクシズと市街地の支え合う枠組みの構築 ・それらを下支えするための暮らし これらに力点を置き、持続可能な中山間地域の実現を図っていくよう部会内で議論を深めてまいります。 また、現時点では、これまでの中山間地振興課の取り組んできたことと異なるのではなく、関係・関連する各課の事業を磨き上げていくことが重要であると整理しています。
	森林文化を柱とする意義	今回総合計画の柱に入れることで、農林水産部中山間地振興課がこれまで時間をかけて取り組んできたことと何が違うのか。何か足りない部分や十分に進められていないことがあるのか整理されていない。 目指す姿・「世界基準」とは何かがわかりづらい。そこに新しい視点があり、わかりやすくアウトカムに反映されれば、柱として加わったことに納得できる。	なお、森林文化の地域づくりを柱として掲げ、4次総では中山間地域の活性化に力を入れていくという市の姿勢を広く周知するという意味でも、新たな柱とすることの意義があるものと考えています。
	オクシズの打ち出し	「森林」はわかりづらいので、「オクシズ」を打ち出した方がよい。	「オクシズ」の打ち出しについては、他の柱と同様、エリアを明確に定めることで打ち出していきます。
健康長寿のまちの推進	健康長寿のまちづくり計画の時にも指摘したが、「住み慣れた自宅ですっと暮らすことが目標」というのは、市民ニーズに合っていない。厚労省の調査でも、7割くらいは自宅願望があったが、設備も整い、食事の面倒もみてもらえて友人が作りやすい施設などで晩年を過ごしたい、という国民も無視できない程度の割合でいるのは事実。市があたかも「在宅で生涯を過ごすことこそが最善の人生」と誘導するのはよくない。また、今の健康長寿の計画は、その母体が高齢者と介護の計画なので、心の面の健康が薄い。身体だけ健康でも、高齢者ならではの孤立感や虚無感、自殺願望などにも配慮していく必要がある。目指す姿は、「市民が心身ともに健康で、それぞれが望む環境で人生を楽しく送ることができる」などはどうか。 「自宅ですっと」について 「自宅ですっと」は、健康長寿の一施策としては良いが、本当にこれを目指す姿として良いのか、再検討が必要。市民一人ひとりが望む暮らし方ができる、望む暮らし方の多様性を受け入れられる社会の構築を目指すこととした方がよい。 「できる限り」という語は必要か。行政が「総合計画」で使うとやや消極的な感じがする。 住み慣れた「自宅ですっと」自分らしく暮らすことができているという目指す姿を実現できる人の割合は、どのくらいなのか。ライフスタイルが多様化してく中では「自分が望むところで、自分らしく暮らす」ことができるほうがよい。	目指す姿の表現について、「自宅ですっと」「できる限り」などを改め「市民が、健康で人生を楽しむことができ、住み慣れた地域で、自分らしく暮らすことができている」などへ修正予定です。	
まのち推し進劇場	「地域に根付いた大道芸や演劇・音楽などの芸術文化の力」とあるが、まちは劇場の定義では「静岡市に根付いた大道芸や演劇、音楽などの芸術文化等」となっている。芸術文化の範囲を広く捉えているのなら「等」があることでかえって混乱する。 365日誰もが輝いている・・・はあまりに抽象的で、柱の全体像が市民に伝わらない。まちは劇場の定義（目的とツール）を踏まえ「市民が主役のまちづくりやシビックプライドの醸成、交流人口の増加による経済の活性化」が目的で、そのツールとして「地域に根差した大道芸・・・などの文化の持つ力を活用する」ということがイメージできる目指す姿の表現であってほしい。	「芸術文化」を『文化』に変更し、芸術だけではなく、広範囲に「文化」をとらえることとし、その他の表現についても、検討していきます。	

	電子会議室での意見	対応	
安全・安心 のまちの 推進	「不安」と「心豊かに」について	「不安を感じることなく＝心豊かに暮らす」に読めるが、不安を感じないことと心豊かに暮らすことは、少し次元が違うのでは。安全安心が担保されていることは、市民の望むベーシックな部分で、これに芸術であったり、スポーツであったり、生活を彩る要素が加味されて都市の魅力が向上するのではないか。 「市民生活を脅かす様々な要因に対して、市民が不安を感じることなく、心豊かに暮らすことができている」について、「不安」は人により尺度が異なる主観であって、マイナス表記を総合計画に掲げるよりは、「安心感をもって」のような表記が適当である。	より市民生活のベーシックな部分に取り組むことを意識しつつ、他の柱の目指す姿とのバランスも考慮し、「心豊かに」の表現は削除します。 総合計画の目指す姿としてよりふさわしい表現とするため、「不安を感じることなく」は「安心感をもって」といった前向きな表現に修正します。
	安全・安心の柱で「子ども」に特化することについて	②で「子ども」を前面に出したのは、面白い試みであるが、特殊詐欺の被害が日本一だったり、高齢者の交通死亡事故が増加中であることなどを考えると、「子ども」に特化するのはどうなのか。本市が子どもに対する犯罪や事故の件数が著しく多いということであれば、ありだが。	本来、犯罪や事故などの対策は、ご指摘のように市民全体を対象として捉えるべきと考えます。その中で、今回の7つの柱については、時代の潮流などを踏まえ、4次総の8年間に特に取り組むべき施策を検討しています。 これまでの作業部会の中で、本市がこれから人口活力の向上を図っていくためには、将来の社会を支える担い手である「子ども」の安全が図られ、安心して暮らし育つ環境が整っていることが必要不可欠である、との意見が多く出ました。 このことから、近年社会問題となっている子どもの安全安心（通学路の安全対策、いじめ、不登校、SNS利用、子どもの貧困など）に焦点を当て、現在の最終アウトカムを設定しています。（ただし、他都市と比較して、本市が子どもに関する犯罪、事故の件数が突出しているというデータは確認できていません。） 特殊詐欺や高齢者の事故については大きな社会問題となっているものの、県（警察）で対策を行う部分も大きく、かつ高齢者の健康的な暮らしについては、健康長寿の柱でも位置付けていくことから、安全安心の中では「子ども」を意識した施策を考えています。 しかしながら、なぜ子どもを前面に出していくのか、については、対外的に説得力のある説明ができるよう、引き続き考え方を整理していきます。
		②で、「犯罪や事故」の対象を子どもに限定する必要はない。子どもを安心して育てられる街としては、待機児童の解消や子どものための公園等の施設、医療機関等の充実が良く言われることだが、子育てのための安全安心は、これらの視点からも言うことができるのではないか。	
		「安全・安心」は、子どもに特化することなく、市民全体に係ることとして捉えたほうが良い。	
		7つの柱どの柱においても「子ども」を対象とした施策は必要であり、安心・安全で特出しするのではなく、むしろSDGsやグリーン、DXと同様に政策・施策立案の視点に加えるか、分野別計画に委ねた方がよい。	
	この柱は、いうまでもなくハードとしての安全対策からソフト的な安心の充実も包含している。②はリスク対応で③は自分らしく暮らすことであるため、②と③は性質が違い区別がされており、②の意義はある。「子ども」を出すのではなく、子どもも含めた社会的弱者全般に対するリスク対応という考え方はできないか。		
「防災」と「感染症」について	修正後の3つのアウトカムのうち、①が消防、防災、感染症対策など、かなり広範囲での施策になることに対して、②と③は、ピンポイントな施策を指定しており、「安全・安心のまちの推進」として、バランスが悪い。修正前のように「消防・防災面」と「感染症対策面」は、分けて表現すべきではないか。 ②「子どもに関わる犯罪や事故などの日常リスクへの対応が図られる」ことは施策として必要であるが、7つの柱としては、修正前の風水害と感染症を2つに分け取上げた方がよい。	新型コロナウイルスについては、収束時期が見通せず、1年程度で収束に向かう可能性、数年を要する可能性、いずれも考えられる状況と認識しています。そのような中で、個別の最終アウトカムとして「感染症対策」を立て、8年間をかけて取り組んでいくことを打ち出すのが適切かどうか、現時点では判断が難しいと考えています。 このため、最終アウトカムは現在のような表現としつつ、中間アウトカムで、「自然災害」「感染症」への対策を分けて位置付けることを想定しています。	
安全・安心の柱について	この安全・安心は柱として立てるのではなく、すべての市が行う事業や施策に必ず求められることではないかと考える。そういう意味から柱ではなく、すべてのベースになるものだと考える。	時代の潮流などから、「安全安心」の重要性、市民の関心は高まっており、4次総の8年間の重点的な柱として掲げることは、市民の暮らしの充実、生活の質の向上といった観点から、意義があると考えています。しかしながらご指摘のように、安全安心は市民生活のベーシックな部分であり、他の柱とは性質が異なることから、表現や見せ方については、引き続き検討していきます。	

歴史文化の地域づくり

目指す姿	<p>市民の歴史認識が醸成され、静岡に誇りと愛着を持つとともに、徳川氏・今川氏を中心とした歴史資源を活用し、世界中から人が集まり駿府城公園周辺が賑わっている</p>
	<p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none">・3次総の「歴史文化の拠点づくり」の目標や方針を前提としつつ、「何が」「どのように変化する」を市民と共通認識を持つことができる記載になることを重視した。・本市には数多くの“歴史資源”があるが、時代や対象エリアをある程度絞ることで、取り組みを体系的に整理したいと考えた。そのため、3次総の流れや主要事業となる歴史博物館を意識し、対象を“駿府城公園周辺”、“徳川氏・今川氏”を中心とすることとした。
最終アウトカム	<p>① 歴史資源を求めて駿府城公園周辺の来訪者が増える</p>
	<p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none">・作業部会で「歴史資源」として挙げたものは主に以下の3分類であり、“休日余暇を過ごす上での魅力”という要素が強かった。<ul style="list-style-type: none">①まちなりの成り立ちや変遷を感じることができるもの（町割り、道・辻、水路・堀など）②現在まで継続されている営みを体感・体験できるもの（食、工芸、祭り、木遣など）③いわゆる“有形文化財”と呼ばれるもの（神社、寺、遺跡など） <p>そのため、目指す姿の“賑わっている”状態を達成するための重要な要素として、休日余暇を過ごすために訪れる人が増えることを最終アウトカムに設定した。</p>
	<p>② 市内外に徳川氏・今川氏にゆかりのあるまちということが認知される</p>
	<p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none">・歴史資源を求め人が集まるために重要な要素として、歴史資源の価値や魅力が広く知れ渡ることや、市民に歴史資源の価値が認識され、大切にされていることなどが作業部会で挙げた。・本市には都市ブランドとして世界に存在感を示すことができる“歴史資源”はあるが、そのことがまだ国内に広く認知されていない、語れるほどの知識や愛着を持つ市民がまだ多くないため、4次総期間8年間の最終アウトカムとしては、“市内外”と設定した。
<p>③ 駿府城公園周辺に多くの回遊が生まれる</p>	
<p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none">・駿府城公園周辺の魅力として、歴史資源だけでなく、“過ごしやすさ”や“居心地の良さ”などが作業部会で挙げた。また、すぐ近くにある商都の賑わいと連携することで、歴史資源が主目的ではない人たちも歴史資源に触れ、魅力を知ってもらうことができるとの考えから、回遊が生まれることを最終アウトカムに設定した。・歴史文化の地域づくりで取り組む“回遊”は、駿府城公園周辺と中心市街地や浅間神社周辺を、歩行や自転車、公共交通などで回遊することをイメージしている。	

海洋文化の地域づくり

<p>目指す姿</p>	<p>世界的にも希少な海洋環境である「駿河湾」、多様な海洋資源が集積する「清水港」を活かし、産業・研究・観光が生まれ高めあう「国際海洋文化都市」として、清水港周辺が賑わっている</p> <p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3次総の「海洋文化の拠点づくり」の目標や方針を前提とした。 ・作業部会で“海洋資源”として出たキーワードは、以下の2つに分類できた。 <ul style="list-style-type: none"> ①港湾としての魅力（産業、物流、客船、脱炭素、研究・教育） ②休日余暇を過ごす人にとっての魅力（レジャー・アクティビティ、自然・景観・歴史、食、乗り物 など） <p>これらのことから、清水港周辺の賑わいについて、“仕事・産業による賑わい”と“遊びによる賑わい”の両方を重要な要素とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋文化の拠点づくりとして取り組むエリア“清水港周辺”は、「みなとまちづくりランドデザイン」の対象エリアをイメージしている。（興津～三保）
<p>最終アウトカム</p>	<p>① 海洋関連産業が集積する</p> <p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“仕事・産業による賑わい”が生まれるためには、「古くから続いてきた清水の産業が発展する」、「出荷・商業船が増える」、「海のニュービジネスが生まれる」、などが必要であると考えた。これらをまとめる表現として、この最終アウトカムを設定した。 ・海洋関連産業とは、「食品・水産加工」、「造船」、「関連機器」、「海洋工事・潜水業」などをイメージしている。 ・この最終アウトカムに対する中間アウトカムには、「選ばれる（進出する、留置する）ための清水港ならではの魅力・価値がある」などを設定し、達成するための手段には、「進出しやすい環境整備（マッチング・補助金等）」「カーボンニュートラルポート化」「産学官連携がしやすい環境整備」などを設定することをイメージしている。 <p>② 海洋に関する教育・研究が生まれる</p> <p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国際海洋文化都市」として認知されるための要素として、海に関する特許や商標、新商品などの「新しい価値」が生み出されていることが重要な要素と考え、「教育や研究が生まれる」ことを最終アウトカムに設定した。 ・海洋に関する教育や啓発により、海への関心・愛着を持つ市民を増やし、海を訪れる、海の環境を保全する、海に関する仕事に就く市民を増やす。 ・海洋に関する研究が盛んになり、他の地域との交流やMICEが活発になる。 <p>③ 海の魅力を求めて国内外から来訪者が増える</p> <p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“遊びによる賑わい”を意識した最終アウトカムとして設定した。 ・レジャー・アクティビティ、自然・景観・歴史、食、乗り物など、来訪者が楽しむことができるコンテンツの充実や、魅力や価値を広めることなどにより、清水港周辺に遊びにくる人を増やす。

教育スポーツ文化の地域づくり

目指す姿	東静岡・草薙地区を中心に生涯にわたって「まなび」続けられる環境が整い、市民が心豊かに生活をおくることができる
	<p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3次総の「教育文化の拠点づくり」、令和3年3月策定の「駿河まなびのまちづくりランドデザイン」を踏まえ、東静岡・草薙地区を中心に教養やスポーツなどの幅広い「まなび」を若年層から高齢層まで生涯に渡って学ぶことが出来る環境を整え、それによって市民の生活の質が向上することを目指すこととしている。 (※東静岡・草薙地区を中心とした「地域づくり」の視点であるが、教育・スポーツはエリアを限らない取組「仕組みづくり」の要素もあるため、どのように位置づけるか検討中)
最終アウトカム	① 文化的な都市空間が形成され、来街者が増加する(場づくり)
	<p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学や文化施設が立地する東静岡・草薙地区に、さらに「まなび」を感じられる場所や施設が増え、文化に興味関心がある人々が集まる街にすることが必要であると考え設定した。(このアウトカムについては仕組みづくりではなく地域づくりの視点から設定している。) ・ハードの視点からは、大学等の高等教育機関、文化施設、図書館等のまなぶ場所を創出するもの。ソフトの視点からは、大学の公開講座、リカレント教育等のまなぶ機会を創出するもの。と考え「場づくり」としている。
	② 「まなび」に触れ、市民のまなびに関する意欲が向上する(人づくり)
	<p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まなぶことに興味関心がある方だけではなく、まなびに触れる機会がなかった方にも、興味関心を持っていただき、自らまなびたいと感じて貰えるよう意欲を向上させることが必要であると考え設定した。(地域性もあるが、全市に関連することであるため、仕組みづくりの視点として考えている。) ・様々な情報が溢れ「まなび」のニーズも多様化していることから、その幅広いニーズに対応できるよう、多種多様な事業・カリキュラム(趣味やレジャーに加え、教養、仕事につながるスキル)を提供する必要があると考えている。また、個人のニーズとともに、社会課題(就職氷河期・再スタート)に対する取り組みも含め考える必要があると考えている。
	③ まなびに関するコミュニティが活性化され、交流が活発になる(コミュニティ形成)
<p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まなびの活性化・すそ野拡大のためには、市民等でコミュニティが形成され、自発的にまなびに繋がる取組が行われることが必要と考え設定した。 ・コミュニティがより活発に活動することで、市民がまなびに触れる場、多様なまなびが提供されるとともに、サードプレイスにもつながるものと考えている。 ・そのコミュニティを活性化する人材の育成をしていく必要もあると考えており、そのコミュニティを活性化するための役割も重要だと考える。 	

森林文化の地域づくり

目指す姿

市域の80%を占める「オクシズ」において、森林や農地の保全や、住民の生活環境の維持向上が図られることで、多様な地域資源が世界基準に磨き上げられ、有効に活用されている。

【考え方】

- ・本市のおよそ80%を占める中山間地域（オクシズ）では、地域特有の風習や伝統芸能、お茶やワサビなどの豊富な地域資源を有し、豊かな自然が今でも多く残されているが、急激な人口減少、少子高齢化が進み、産業や伝統の担い手不足、地域コミュニティの存続が危ぶまれている。
- ・一方、南アルプスのユネスコエコパークの登録を皮切りに、梅ヶ島温泉の国民保養温泉地の指定、「静岡水わさびの伝統栽培」が世界農業遺産へ登録されるなどオクシズへの関心は高まっている。
- ・そうした背景を鑑み、4次総では、改めてオクシズ地域を「森林文化」という新たな柱として掲げることにより、オクシズへの来訪者の増加をはじめ、移住定住、企業誘致など、あらゆる面から持続可能な中山間地域の実現を目指す。
- ・また、目指す姿を実現する上では、「経済の活性化」、「環境の保全」2つが重要なポイントであると整理した。この2つのポイントは、1つのアウトカムで達成されるものではなく、下記3つの最終アウトカムを達成することが、2つのポイントの達成につながるものと考え、アウトカムの設定を行った。

最終アウトカム

① 地域資源や森林・農地を有効に活用し、経済活動が活発化する（産業）

【考え方】

- ・オクシズの基幹産業は林業や農業であり、オクシズの経済活動の中核を成している。また、オクシズを含めた静岡市の市域を守っていくためには、経済活動とともに森林や農地が適正に管理されることによる水源涵養や土砂流出の防止など【多面的機能の発揮】が非常に重要である。
- ・経済活動を継続的に進めていくうえでは、担い手や後継者を育てることが必要である。農林業をやりたいと思う新規就農林業者がオクシズに増えることで経済活動が活発化するという考えのもと、最終アウトカムとして設定した。
- ・また、森林や農地を適正に管理することができる状態にするために、林道、農道などの基盤整備を図ることも重要であるとの意見があった。

② オクシズの楽しさや大切さが広く知られることで、観光や自然体験、環境保全活動が盛んに行われる（観光・交流）

【考え方】

- ・持続可能な中山間地域の実現のためには、林業や農業などの基幹産業と同様、豊富な地域資源を活用した、観光・交流も重要な視点である。
- ・まずはオクシズの魅力を知ってもらわなければオクシズに訪れようとならないことから、オクシズの楽しさや大切さが広く知られる「認知度」を向上させるという視点をしっかり持つべきであるという考えから最終アウトカムとして設定した。
- ・また環境保全活動は、本来の環境保全という役割以外にも、活動により多くの人がオクシズを訪れ、関ることにより交流が生まれるという側面もあることから、環境保全活動が盛んになることをアウトカムとした。

③ 住民の生活機能やインフラが整備され、安心した生活を送ることができる（住環境）

【考え方】

- ・目指す姿を実現するためには、まず中山間地域に市民が安心して住み続けられることが非常に重要であると考えた。中でも、医療や買い物、交通などをはじめとした生活機能の維持、住み続けるための地域コミュニティを形成・維持していくことが安心な生活に必要であると考え最終アウトカムとして設定した。
- ・また、道路や水、通信環境などの生活インフラの整備は安心な住環境に必要な不可欠であるためアウトカムとした。

健康長寿のまちの推進

目指す姿	<p>市民が、できる限り、健康で人生を楽しむことができ、住み慣れた「自宅ですっと」、自分らしく暮らすことができている</p>
	<p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none">・5大構想に掲げられた健康長寿のまちの実現に向けて「静岡市健康長寿のまちづくり計画(以下「健康長寿のまちづくり計画」)」を策定し、市を挙げて各種取り組みを進めてきた。・4次総においても引き続き健康長寿のまちの実現に取り組むため、その基となる「健康長寿のまちづくり計画」に掲げられている基本目標を目指す姿として設定した。
最終アウトカム	<p>① 健康で長生きするための切れ目のない支援体制が構築される</p>
	<p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none">・「健康」がカバーする範囲や年代が広く、限定するべきという意見を踏まえ、「高齢者」を対象とするという考えのもと、アウトカムを設定。・健康で長生きするためには、病気や怪我などにより支援が必要になった時に、気軽に必要なサービスを受けられる環境が整備されることが望ましいという議論になり、「切れ目のない支援体制の構築」とし、アウトカムとして設定した。
	<p>② 地域での支え合い体制が構築される</p>
	<p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none">・住み慣れた「自宅」ですっと暮らし続けるためには、地域との関わりや協力が必要であり、増加する高齢者世帯への見守りや近隣住民との関係希薄化といった地域課題にも対応するため、「地域での支え合い体制の構築」をキーワードとしてアウトカムを設定。・ここで言う「支え合い」は老若男女の分け隔てなく地域において住民同士が「支える側」にも「支えられる側」にもなることをイメージしている。
	<p>③ 市民が自主的に健康長寿のために取り組む</p>
<p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none">・健康で暮らすためには、自分自身の健康に対する意識を高める必要があることを強調するため、「自主的に」というワードを用いている。・行政から市民に取り組みを促すだけでは不十分であるとの意見を踏まえ、市民が主体的に健康長寿のために取り組んでいる状態を目指しアウトカムとして設定した。なお、ここでいう市民は高齢者に限定せず、全世代を対象としている。	

まちは劇場の推進

目指す姿	<p>地域に根付いた大道芸や演劇・音楽などの芸術文化の力により、一人ひとりの心を豊かに満たし、365日誰もが輝いている</p>
	<p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none">・まちは劇場推進課で作成したまちは劇場「ロジックツリー」を基に設定。「まち」は市全体。・静岡市に根付いた芸術文化に触れることで、ひとり一人の心を豊かにする。・まちに行けば楽しいこと、もの、ホッとする場があり、人と人とが交流することで心が満たされる。・まちには誰もが主役となれる場があり、多様な人たちの生き様にスポットがあたる舞台としてのまちづくりを進め、誰もが輝けるまちになるよう設定。 <p>【まちは劇場の定義】</p> <p>静岡市に根付いた大道芸や演劇、音楽など芸術文化等の持つ創造性を活かし、誰もが気軽に楽しむことができる仕掛けづくりを通じて、市民の芸術文化等への参加や活動を促すことで、市民が主役のまちづくりを進め、シビックプライドの醸成及び交流人口の増加による経済活性化を図ること</p>
最終アウトカム	<p>① 市民が日常的に芸術文化に触れ、楽しむことで、静岡市に対する誇りや愛着を持つ</p>
	<p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none">・市民の目指す姿として設定。・まちなかで行われている行事やパフォーマンス等に気軽に参加できる「隙」があり、参加することで、子どもも大人も市民の一員という誇りや人と人とのつながりを市民が感じることができ、心の豊かさを感じられることとして設定。・市民が愛着を持ち、市の魅力を自ら情報発信することで、多くの人が静岡市に興味を持ち、訪れ、賑わい創出につながることも視野に設定。
	<p>② 地域の魅力・芸術文化を求めて国内外から多くの人々が来静し地域経済が活性化する</p>
	<p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none">・来訪者の目指す姿として設定。(地域経済の活性化を入れているため、今後「来訪者の姿」の表現は変わる可能性あり)・地域に根付いた大道芸やまちの雰囲気求めて、世界だけでなく国内からも多くの人々が訪れ、まち全体がにぎわい、また、それにより経済が活性化されている状態を目指すとしたため、世界ではなく国内外とした。・芸術文化だけではなく、その場の雰囲気や地域に根付いているイベントなど、芸術文化に限らないものも含まれるとして「地域の魅力・芸術文化」とした。
<p>③ まちに「ヒト・モノ・コト」との出会いがあり、心が豊かになる場所があふれている</p>	
<p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none">・まちの目指す姿として設定。・まちには、楽しい場所、ホッとする場所があり、嬉しいときも少し気分が落ちているときも、まちに行けば元気になれる場所がある。・場所だけではなく、そこにいる人、イベント、建造物等色々な出会いがあることを「ヒト、モノ、コト」で表現した。・市民の心を豊かにするまちとなるよう設定。	

安全安心のまちの推進

目指す姿	<p>市民生活を脅かす様々な要因に対して、市民が不安を感じることなく、心豊かに暮らすことができている</p> <p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界に輝く静岡」の実現のためには、「市民のQOLの向上」が不可欠であり、市民が不安なく、安心感をもって暮らしていることが必要。 ・一方、近年、世界的な気候変動に起因する激甚災害の頻発、新型コロナウイルスの感染拡大、少子高齢化など社会経済状況の変化といった要因から、市民生活を脅かすリスクが多様化しており、迅速かつ効果的な対応が強く求められている状況にある。 ・市民の安全・安心の確保は、行政に課せられた基本的な責務であると同時に、「世界に輝く静岡」を実現するための、大きな取組の柱の一つとして捉えていく必要があると考え、上記の「目指す姿」を設定し、「安全安心のまちの推進」に取り組んでいく。 <p>※言葉の定義:「安全」とは「許容不可能なリスクが存在しないこと(国際安全規格)」、「安心」とは「気にかかることなく落ち着いている(大辞泉)」として整理。 →「安全」は事実や科学的根拠に基づくもの、「安心」は人それぞれの判断や感情に委ねられるもの。 (「安全」が確保されていることは、「安心」の確保のための条件の一つ)</p>
	<p>① 静岡市が災害や感染症に強いまちであることが認知される</p> <p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民生活におけるリスクの中で、近年発生可能性が高く、かつ影響が大きい「自然災害」への対策と、昨年来大きな世界的問題となっている、新型コロナウイルスなどの「感染症」への対策を図っていく必要があるとの考えから、アウトカムを設定。 ・新型コロナウイルスについては、感染者数が減少しているものの、完全な収束の見通しは立っていないため、まずは感染拡大以降の本市の取組について検証し、次なる感染症が到来した際の備えを進めていく必要があると考える。 ・また、対策を講じるだけでなく、それを効果的に情報発信し、市民に伝えていくことで、市民一人ひとりが「静岡市は災害や感染症への対策がなされているまちである」ことを認識し、不安を感じることなく暮らせる状態を目指す。
最終アウトカム	<p>② 子どもに関わる犯罪や事故などの日常リスクへの対応が図られる</p> <p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能なまちづくり、人口活力維持のためには、「子どもが安全安心な環境で育つまち」であることが、大きな要素の一つであるとの考えから、アウトカムを設定。 ・なお、ここでは、単純な子育て関連施設(保育所など)の整備ではなく、近年社会問題として取り上げられることの多い、通学路の安全対策、いじめへの対応、ICTの普及などに伴うネット犯罪、子どもの貧困など、子どもが被害者となる犯罪や事故などへの対応を図っていくことをイメージ。 ・他の(仮)7つの柱について、いずれも現時点では、「子ども」に関する施策を前面に打ち出すアウトカムを設定していないことも考慮。
	<p>③ 市民が地域の中で孤立することなく、自分らしく暮らせる</p> <p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民一人ひとりが、誰一人取り残されることなく「心豊かに暮らす」ためには、例えば外国人、LGBTQなど、多様な市民が互いに尊重し合い、自分の個性を自分らしく、ストレスなく表現できる環境が必要である、との考えから、アウトカムを設定。 ・また、コロナ禍においては、リアルな人的交流の制限に伴う、地域内でのコミュニケーション機会の減少や、感染者、医療関係者等への差別、偏見なども大きな社会問題となったことから、市民を孤立させない環境づくりをあわせて進めていく必要があると考える。 ・こうした課題、問題への対応として、地域でのコミュニティ形成や、差別や偏見をなくすための啓発、その他、良好な生活環境の構築に取り組むことをイメージ。

柱名	内容
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・教育スポーツの目指す姿では「・・・市民が心豊かに生活をおくる・・・」となっているが、「まちは劇場の推進」には「・・・一人ひとりの心を豊かにし・・・」という表現が、「安全安心のまちの推進」では、「・・・市民が不安を感じることなく、心豊かに暮らす・・・」というくだりがある、それぞれ一つ一つは正しいと思うが、繰り返されて目障り。7つの柱の間のデコボコは調整していく必要がある。 ・森林文化には、「産業」「観光・交流」「住環境」といったわかりやすい表現のワードを後ろにつけている。7つの柱全体で、どうするのか決めた方がよい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・各柱は、10の分野別計画の上位にあるものであるため、より基本構想の「世界に輝く静岡の実現」に結びつくものであるべき。各柱の「目指す姿」の記載は、それをわかりやすく記載してほしい。歴史文化には「世界中から人が集まる」、海洋文化には「国際海洋都市」というわかりやすいキーワードが入っている。例えば、まちは劇場では「地域に根付いた大道芸や演劇・音楽などの芸術文化に、本市を訪れた誰もがふれあい、楽しむことができる成熟したパリのようなまち」のような、道端で大道芸やストリートミュージシャンや市民がスケッチしている姿が見受けられるまちのイメージ。例えば、健康長寿では「平均寿命が世界一の日本にあって、静岡市はそのトップになる（もしくはトップ10に入る）ことを目指している。」など。 ほかの柱の目指す姿に「世界に輝く静岡の実現」に結びつける表現ができるかどうか。各柱の目指す姿が、目指すものとの関連がわかりやすく記載されていることは、最低限必要だと思う。 ・毎年度評価するときに「成果を数値をもって説明できるものかどうか」の視点で選定した方がわかりやすい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・7つの柱を並べて見ると、「森林文化…」と「まちは劇場…」のアウトカムは、一所懸命説明しようとしている感じが、それは中身を詰め切れていないからではないかと考えてしまう。繰り返しにはなるが、やはり「まちづくりの目標」として、具体的に目指すところを共有した上で、そこに到達するために特出しすべきものを5つでも7つでも柱にするのが順序だと言いたい。「まちづくりの目標」を共通認識とするために、早めの文章化をお願いしたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・5大構想の検証によるPDCAが4次総の7つの柱にどう結びついていくのかが理解しづらい。 ・7つの柱のそれぞれのアウトカムから「地域経済の活性化」「暮らしの充実」とどう結びつくのか市民にはわかりにくい。 ・市民（議会）に説明するにあたり、全体としてもう少しわかりやすい表現がよいのではないかと。【考え方】まで読み込まないと趣旨がよくわからないものもあった。「どのような街にしたいのか」が具体的にイメージできるとよい。（議会の側にいる職員としての意見）
	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋文化と森林文化以外はエリアを限定しない記載の方が好ましい。あるいは拠点機能を表現するとしても、そこから広がりをもたらしうような表現ができないか。 ・「国内外から人が集まる」⇒交通基盤整備に係るキーワードがどの柱にも見当たらない。 東西軸…新幹線、新東名 南北軸…中部横断道、井川へのトンネル その他…清水港、静岡空港 分野別計画で登場するから7つの柱レベルでは不要か。 ・全ての柱に共通する「市民の気持ちに訴え行動変容を促す」⇒基本構想で表現する予定か。
	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく2本の柱を立てる以上、そこに市として力を入れた政策を進めていく意思表示である。しかし、財政的に非常に厳しい中で、これから2本の柱にどれだけ財政的措置や優先性を持たせられるのかを予め見込んでおく必要がある。柱は立てたが、新規の事業が組み立てられないことがないようにしなければならない。 ・「世界に輝く」ということでありながら、国際貢献や国際協力、平和への取組みが全く触れられていないのは疑問。力を入れるべきところだとは思わないが、「世界に輝く」に直接つながるようなものは必要ではないか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・7つの柱のうち、エリア限定とそうでないものなどが混在しているため、わかりづらい。これまでの3都心づくりをさらに進めていくのであれば、シンボリックなエリアとして括った方がわかりやすい。また、5大構想では「拠点づくり」で、7つの柱では「地域づくり」、この表現の変更の意図はどのようなものか。7つの柱を改めてみると、健康長寿のまちの推進はあっても、子育てしやすいまちや若者を連想させるものがなく躍動感がない印象。見せ方を工夫する必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの目標に掲げる「世界に輝く静岡の実現」のもとに、7つの柱があるが、今の目指す姿の表現では、「世界」に繋がる表現になっていない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は7つの柱についての目指す姿と最終アウトカムの意見募集だが、そもそもロジックツリーの上に基本構想・基本計画があるのだから、できるだけ早く提示し整理する必要がある。 ・7つの柱の目指す姿の前に、都市全体の目指す姿があり、その中心となるものが各柱の目指す姿となるイメージと認識しているが、地域づくりの4つの柱が地域の色が濃く、地区以外の方向性がわかりにくい。 ・4つの地域づくりについて、各文化の定義を整理しておく必要があるのではないかと。 ・目指す姿で、「心豊かに」というフレーズが複数あるが、このフレーズはまちづくりの目標の定義に使用したほうがいいのでは。 ・SDGsとグリーン、DXの視点をもって作成するとなっているが、あまり感じられない。2023からの計画だということをもっと意識する必要があるのでは。 ・DXは手段と捉えることもできると思うが、グリーン（環境）は手段ではなく目標として安心安全や健康長寿と並ぶ要素と捉えるべきで、安心安全などにもっと盛り込むべきでは。
	<ul style="list-style-type: none"> ・①～③については、ロジックモデルの地域が限定され、対象も限定的であるのに対して、④～⑦は概念的で対象がぼやけている ・同じ柱の中で違和感を感じる ・柱の下にすべての事業が紐づけされるのであれば、「目指す姿」が限定的では、市民に対して説明しづらい ・⑥まちは劇場について、これ以外の6つの柱のネーミングが、歴史、海洋、教育などなどといった分野別のカテゴリーになっているのに対し、⑥だけが概念的表現である。逆にそこを狙って、差別感を出すのならその表現方法や説明があったほうがいいのではないかと。
	<p>7つの柱のうち、②「海洋文化の地域づくり」と③「教育スポーツ文化の地域づくり」の順番を入れ替えて、そのあとに④「森林文化の地域づくり」を配置したほうが「海」と「山」（森林）のイメージがしやすいのではないかと思います。</p>

柱名	内容
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの会議等で何度も出されている計画の根本に関わる意見については、今一度、二役等の意向を確認していただいてから進めていただければありがたい。 ・「前提条件についての確認事項」※第3回会議で示された7つの柱のロジックモデルの前提のうち、下記2点については、変わりなく前提としているものなのか。7つの柱は、4次総期間（2030年まで）に重点的に取組むことを絞り込んだものである。各柱における言葉の定義（範囲）、重点エリアを整理し、柱の全体像を誰にもわかりやすくする。 ・「柱全体についての確認事項」 上記の前提に立ち、地域づくりの柱4本は、重点エリアを整理し、この8年間で重点的に取組むことを絞り込むものである。 「歴史文化の地域づくりは、駿府城公園周辺」「海洋文化の地域づくりは、清水港周辺」「教育・スポーツ文化の地域づくりは東静岡・草薙周辺」「森林文化の地域づくりは、オクシズ」に対する「尖った」政策を行っていく。といくことでよいのか。 ・目指す姿や最終アウトカムを導き出すための、現状や客観的な資料は、どのようなものが示され、検討されたのか。 ・いくつかの指摘があるように、7つの柱のうち、地域づくりの4柱と、それ以外の柱を同一の扱いとすることに違和感が残る。 全てが横並びのようなイメージと捉えがちだが、それぞれが重なりあうことで、都市の形をイメージすることができる。7柱の重なりを示すことで、立体感のある手段や事業が発生する。 ・7つの目指す姿に対して、3つづつの最終アウトカムの必要性も、如何か。 ・7つの柱について、尖ったプロジェクトにするのか、地域づくりのエリアはどうするのか、森林文化、安全安心の範囲をどこまでにするのか、などなど、これまで意見した内容がはっきりしない中で、作業部会で体系づくりがされていることで後戻りが生じるのではないかと危惧している。 特に、市民目線で7つの柱のタイトルだけ見た場合、10分野と重複する部分も多く、柱と分野のすみ分けをはっきりすべきであり、3つのアウトカムごとの体系づくりがより尖ったものになっていないと感じた。都心、副都心というエリア性すら感じられなくなっている。 基本構想の理念等と7つの柱の関係性、7つの柱と10の分野との切り分けをよくよく整理したうえで進めてもらいたい。
歴史文化	<ul style="list-style-type: none"> 【目指す姿】このままだと「歴史認識が醸成される＝静岡に誇りと愛着を持つ」と誤解される。「まちは劇場の推進」では、目指す姿ではなく、最終アウトカムに「市民が日常的に芸術文化に触れ、楽しむことで、静岡市に対する誇りや愛着を持つ」というくだりがあり、7つの柱の間でも未調整である。7つの柱における「目指す姿」や「最終アウトカム」を、水平方向で調整する必要がある。 【最終アウトカム】「世界中から人が集まり駿府城公園周辺が賑わっている」と掲げた目指す姿と、最終アウトカムにギャップがある。また、駿府城公園周辺の来訪者と回遊者を区分してアウトカムとして別立てしているが、両者を明確に区分するのは難しい。それぞれ検討の経緯を教えてください。 【目指す姿】3次総の拠点づくりを前提とし、対象を駿府公園周辺に絞った歴史や回遊ということだが、他の歴史資源との連携について、何か考えているのか。 【目指す姿】「駿府城公園周辺」とは、具体的にどこを指すのか市民はイメージできるのか。例えば、臨済寺は、駿府城公園周辺かどうか。 【最終アウトカム】③に「回遊を生む」とあるが、そもそも測定できるのか。 【最終アウトカム】 ・「②市内外に徳川・今川氏にゆかりのあるまちということが認知される」について、目指す姿が「市民の歴史認識が醸成され、静岡に誇りと愛着を持つ」のであれば市民一人一人には「歴史資源の価値を認識」し、「大切に」に加え、「育んでいく」ことが必要。アウトカムを「市内外」で括っているが、市内外によって関わり具合は違うのでは。 ・掲載順について、①と②を入れ替え、「①市内外に徳川氏・今川氏にゆかりのあるまちということが認知される」ことで、「②歴史資源を求めて駿府城公園周辺の来訪者が増える」とこととなり、「③駿府城公園周辺に多くの回遊が生まれる」方がおさまりがいいのでは。 【全体】市民意識の醸成から郷土愛育成につなげていくべき。郷土の誇りとなる歴史文化が本市にあふれているということをしかりと記載すべき。 【全体】 ・駿府城公園周辺の範囲を明確にしたい。 ・「歴史資源」で良いか。「歴史的資源」、「歴史文化資源」という言い方も考えられる。 【最終アウトカム】③商都の賑わいと連携するという表現は、もう少し丁寧に表したい。 【目指す姿】市民の歴史認識の醸成がアウトカムに反映されていない。子どもたちの学びについて触れても良い。 【目指す姿】葵歴史のまちづくりランドデザインの対象エリアは、駿府城公園周辺であるものの、目指す姿に「駿府城公園周辺が賑わっている」と限定することに違和感あり。 【全体】時代や対象エリアを絞りたいことは理解できるが、他の歴史資源も多くある中で、駿府城周辺に限定することが市民理解を得られるのか。 【目指す姿】「徳川氏、今川氏を中心とした歴史資源」と限定しているが、行革審でも答申のあった「登呂エリア」の扱いはどうするのか。 【目指す姿】 ・一文が長くまた言葉が省略されていて前段と後段・結びのつながりがわかりにくくなっている。例えば、『市民の中に「静岡に誇りと愛着を持てる歴史認識」が醸成されるとともに、徳川氏、今川氏を中心とした本市の歴史資源を活用した取り組みにより、世界中から人が集まり駿府城公園周辺がにぎわっている。』などはどうか。 ・「歴史認識」とは何をどう認識することなのか。現在の静岡市と徳川氏、今川氏とのつながりを認識することなのか、歴史上の静岡市が持つ独自性や価値を認識することなのか不明。 【最終アウトカム】 ・このアウトカムで図るものが何かがわからないが、①と③の違いが分かりにくい。目指す姿が、歴史認識の醸成、歴史資源の活用策、対象エリアに人が集まるの3点なので、歴史資源の活用が図れるアウトカムの設定が必要。最終アウトカムの考え方が示されているが、根拠がどこから来ているのかわからないものもあり、納得感がない。（特に②） ・歴史に基づいた誇りと愛着を持つことを目指す中で、言葉にもう少し重厚感が欲しい。平仮名続きで読みにくいことから、最終アウトカムの②「市内外に徳川氏・今川氏にゆかりのあるまちということが認知される」を「市内外に徳川氏・今川氏ゆかりの地ということが認知される」とするのはどうか。

柱名	内容
海洋文化	<p>【目指す姿】「集積」というワードが最終アウトカムでも出てくるため、「・・・多様な海洋資源を有する清水港・・・」のように言葉の重複を避けたほうが良いのではないかと。</p> <p>【最終アウトカム】「海洋関連産業の集積」について、既にこのような見込みが立っているのか。</p>
	<p>【最終アウトカム】海洋文化の魅力が大事なため、最終アウトカムの③「海の魅力・・・」を「海洋文化の魅力・・・」としたほうがよい。</p> <p>【目指す姿】考え方に「興津～三保」と記載のあるとおり、三保は一つのエリアとして位置付けられているが、「三保半島」全体は、世界文化遺産構成資産である三保松原を代表として、もっと高い位置づけがあってもよい。「考え方」の中に加筆してもよい。</p>
	<p>【最終アウトカム】</p> <p>①「海洋関連産業」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「古くから続いてきた清水の産業が発展する」、「出荷、商業船が増える」、「海のニュービジネスが生まれる」をまとめる表現として、海洋関連産業を最終アウトカムに設定し、「食品・水産加工」、「造船」、「関連機器」、「海洋工事・潜水業」などをイメージしているとのことだが、「食品・加工」は"まぐろ"、"ツナ缶"等イメージが浮かぶが、「造船」、「関連機器」及び「海洋工事・潜水業」が何なのか、分からない。修正前のアウトカムには「港湾物流産業」を据えていたが、今回はこれを排除し、港の拡張以前から地元根付いた産業を発展させることをアウトカムに修正したため、このようなアウトカムになったと推測されるが、「出荷、商業船が増える」のは寄港数が増加するのか、新造船の受注件数が増えるのか、また、「関連機器」とは何で、どのような状況になるのか、同様に「海洋工事・潜水業」もどのような状況になるのか、そもそも、海洋工事・潜水業は港湾事業の発注件数に左右され、潜水業に至っては就労者の高齢化、人材不足が深刻化しており、実際、今後飛躍的に業務が改善することは想定し難い。 ・その一方で中間アウトカムには「進出しやすい環境整備」、「CNP化」、「産学官連携しやすい環境整備」の設定をイメージしているとあり、「進出しやすい環境整備」これは物流倉庫等の誘致を図る土地造成や確保であり、「CNP化」は物流機器のエネルギー転換を図るものであり、「産学官連携しやすい環境整備」に至っては、ハードなのかソフトなのか、そもそも「産学官が連携しやすい」とはどのような状況なのか分からない。そして、このような中間アウトカムが最終アウトカムとしている「海洋産業」と結び付かず、整合がとれていない。 ・「海洋文化」というフレーズに囚われ、厳しい言い方をすれば『外見だけ整えた』だけである。再検討が必須である。 <p>②「海洋に関する教育・研究が生まれる」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終アウトカムに設定することについては、異論はないが、定量的な指標をどうするのか検討が必要。 ・情報発信や啓蒙活動、アンケート調査等、ありきたりな指標ではなく、最終アウトカムに繋げることができる実効性のある指標を十分検討して欲しい。
	<p>【全体】「海洋資源」を本来の意味とは違う使い方をしているようだが誤解を招かないか。</p>
	<p>【全体】水産資源の活用として、「しずまえ」という本市ならではのキーワードを入れたらどうか。</p>
	<p>【全体】希少な海洋環境である「駿河湾」と言っておきながら、「清水港」だけに限定していいのか。</p>
教育・スポーツ	<p>【最終アウトカム】ここだけ「来街者」と意識して使い分けしているが、全体から見ると、「歴史文化」では駿府城公園周辺という狭いエリアを意識していても「来訪者」としており、違和感がある。また、「場づくり」「人づくり」「コミュニティ形成」とサブキャッチをつける工夫をしていますが、この柱だけ（少し違う形で森林文化もつけていますが。）なので扱いは検討した方がよい。</p>
	<p>【目指す姿】生涯にわたって「まなび」続けられることで、心豊かに生活を送ることができるとなっているが、「学び＝心豊か」が、しっかりこない。</p>
	<p>【最終アウトカム】4つの地域づくりのうち、他の地域づくりはある程度、地域を限定した取組でも特段支障はないと考えるが、教育・スポーツについては地域に拘束されない普遍的なものであることから、「東静岡・草薙地区」に絞るのであれば、最終アウトカムのうち②、③は「東静岡・草薙地区」に限定した内容になっていないので、この地区に特化したアウトカムに修正する必要がある。</p>
	<p>【目指す姿】考えによれば、「まなび」には「スポーツ」が含まれているようだが、文章の全体的なトーンからは「スポーツ」が抜け落ちている印象を受ける。</p> <p>【全体】人口活力を意識するならば、そこにつながるような移住施策を教育の面からも考える必要がある。それは、高等教育機関があるか否かということではなく、移住希望者が満足できるレベルの教育を提供できるかという視点。移住希望者の属性は、希望しない人より高学歴のポイントが高いという調査（三菱総研）がある。ただし、この柱が地域づくりを意識しているのであれば、この視点は、分野別計画での検討でもよい。</p>
	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたっての「まなび」は生涯学習をイメージするが、生涯学習をどこまでとらえるか。各生涯学習センター・交流館でも生涯学習として、「まなび」の機会が提供されると共に、市民自らが学ぶ場としても提供され、コミュニティが形成されている。そのような中で、東静岡・草薙地区を中心とした「地域づくり」との関係性（東静岡・草薙地区がけん引役？）や役割分担がどうなるのか。 ・高齢化が進み、身近な場面で「まなび」が続けられる環境も必要。 ・軸足が東静岡・草薙といった地区づくりなのか、そもそも市民全員が生涯「まなび」続けられる環境整備なのか少し整理してもいいのではないかと。
	<p>【全体】「まなび」というくりでまとめてあるが、「スポーツ」の視点が欠けてしまっている印象がある。後半の「考え方」の中で出てくるが、タイトルにするのであれば、もう少し前面に出してもよい。また趣味やレジャーも「まなび」では市民からすると少し硬すぎるのではないかと。</p>
	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ色が弱い、Jリーグエスパルスのホームタウンは東静岡、草薙とは繋がらない。 ・生涯学習の色合いが強いが、これは市域全域が対象では。
	<p>【最終アウトカム】②中、「個人のニーズとともに、社会課題(就職氷河期・再スタート)に対する取組も含めて考える」の特に就職氷河期の部分のまなびとの関連が分かり難い。</p>
	<p>【目指す姿】考え方の中には「スポーツ」という言葉が用いられているが、最終アウトカムの中には「スポーツ」に関連する文言等に触れられていないことに違和感を感じる。目指す姿の考え方の中のスポーツが、アリーナであったりスタジアムを想定しているのであれば現状で書ける範囲で記載したほうがいいのではないかと。</p>

柱名	内容
教育・スポーツ	<p>【全体】スポーツについて具体的に触れられていない。また、エリアを限定するわけではないとのことだが、これまでの教育文化の拠点づくりはどのようなのか。このエリアで、豊富で個性的なプログラムと人事交流（学生、企業、社会人、高齢者など様々な交流）ができるキャリア教育やリカレント教育などを他都市よりも充実させるのであれば、市外の方々からも魅力的なエリアとなるのではないか。そのような教育（学び）のシンボリックなエリアとしてアピールするのであれば限定してよいと思う。</p>
	<p>【目指す姿】「スポーツ」の文言が入っていない。『「まなび」続けられる環境が整い』だけでは、スポーツ文化の地域づくりには繋がらない。アリーナを念頭に考えているのであれば、目指す姿の中に表現した方がよい。</p>
	<p>【全体】教育に関する記述が中心で、スポーツに対する方向性（姿、アウトカム）がわからない。</p>
	<p>【最終アウトカム】東静岡・草薙地区を中心にとあるが、考え方からは、特定の地域という印象がしない。あくまで東静岡・草薙ということであれば指標が違う。またスポーツに関する指標があってもよい。</p>
	<p>【全体】「教育・スポーツ文化」という柱であるなら注意書きにもあるように、エリアを限る表現は避けるべきではないか</p>
	<p>【目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリアは東静岡・草薙としているので、柱の名前が大きすぎることと、分野別計画との違いがわかりにくい。このテーマであっても、きちんと地域づくりに落とし込まないと、前提との齟齬が生じてしまう。（資料の、※以下に記載しているとおり） ・東静岡・草薙地区という具体的な地域の「地域づくり」であるから、ハード整備的な要素を明確にする必要があるため、施設や機関の集積といったフレーズを明記する方がよい。その上で、同地区から全市へ効果が波及する様子を表現するとよい。そのため、「東静岡・草薙地区を中心に生涯にわたって「まなび」続けられる環境が整い、市民が心豊かに生活をおくることができている」を全文修正し、「東静岡・草薙地区に関係施設や機関が集積し、教育・スポーツ文化の中核となり、市民が「まなび」続けるまちになっている」または「東静岡・草薙地区に関係施設や機関が集積し、教育・スポーツ文化の中核となり、市民が「まなび」続けられる環境が整い、市民が心豊かに生活をおくることができている」とする方がよい。 <p>【最終アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心豊かに生活をおくることができている」という目指す姿を図る客観的なアウトカムの設定が難しいのではないか。来街者と来訪者は用語を使い分けているのであれば、定義を示してほしい。学びに関するコミュニティとは、どのようなものをイメージしているのか伝わらない。 ・②「市民のまなびに関する意欲」については、測定が困難。仮に市民アンケートのようなものを実施したとしても、どのような設問をすれば測れるのか不明。また、現状がどうであるのかも分からない。そのため、「「まなび」に触れ、生涯学習を行っている市民の割合を増やす」に修正する。「生涯学習を行っている市民の割合」であれば、行っているかどうかの事実を問う設問なので市民アンケートで市民に訊くことができる。また、生涯学習推進大綱の指標として既に測っている。 ・③「まなびに関するコミュニティが活性化され、交流が活発になる」について、「コミュニティの活性化」、「交流が活発」は、測定が困難である。仮に市民アンケートのようなものを実施したとしても、どのような設問をすれば測れるのか不明。また、現状がどうであるのかも分からない。そのため、「学んだことを地域や社会での活動に活かしている市民の割合を増やす」に修正する。「学んだことを地域や社会での活動に活かしている市民の割合」であれば、行っているかどうかの事実を問う設問なので市民アンケートで市民に訊くことができる。また、生涯学習推進大綱の指標として既に測っている。 <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業部会に教育委員会が入っていないのはなぜか。 ・「まなび」という言葉をどの範疇で使っているのか。「学び」は、「教育」以外の場でも行われるので、柱に教育という言葉は入っているが、文化活動や、ボランティア活動など、あらゆる場で行われるまなびを通して、地域、まちづくりを進めてほしい。 ・想定されている内容に経済的な要素がまったくなく、目指す姿の案も「～市民が心豊かに生活をおくることができている」とされているので「経済の活性化」ではなく、「暮らしの充実」の方が合っている。また、集客についても、「①場づくり」の中で少し触れられているが、学びの創出といった視点で記載されており、経済活性化の視点ではなく、文化を高めるといった視点になっている。 ・「目指す姿」の「生涯にわたって「まなび」続けられる環境が整い」という記述などがあるが、全体を通じて、なぜ「教育スポーツ文化」が「まなび」に繋がるのかが分かりにくい。そのため、「教育文化」と「スポーツ文化」の定義を明確化する必要がある。定義案として「教育やスポーツを体験する機会が多数あり、教養や職業能力など（教育）と健康や身体能力など（スポーツ）を向上させる「まなび」が市民生活に定着している社会」としたらどうか。
森林文化	<p>【目指す姿】「世界基準に磨き上げられ」というところが、ユネスコエコパーク、世界農業遺産の次の狙いがあるならよい。「・・・住民の生活環境の維持向上が図られることで、多様な地域資源が世界基準に磨き上げられ・・・」と手段－目的の関係になっているが、何を意味しているのか。また、考え方には「急激な人口減少、少子高齢化が進み」としながら、目指す姿は、現在の住民の暮らしを維持する色合いが強い。「・・・有効に活用されて、地域が持続的に発展している。」と書きたいところだが、ある程度覚悟を持たないと難しい。</p>
	<p>【目指す姿】「多様な地域資源が世界基準に磨き上げられ」とあるが、世界基準とは何をさしているのか。また、考え方に、医療や交通、生活インフラの整備や維持、地域コミュニティの存続が危ぶまれているとあるが、アンケート結果では、市街地に比べオクシズの満足度は高いが、どのように考えているのか。</p>
	<p>【目指す姿】「住民の生活環境の維持向上」が「多様な地域資源を世界水準に磨き上げ」というロジックは、まったく理解できない。その反対で、地域循環共生圏でいうところの「都市」から資金や人材が流入して、「山村」の自然資源や生態系サービスが磨き上げられ、提供される、その流れが住民の生活環境を維持向上させるということだと考える。</p>

柱名	内容
森林文化	<p>【目指す姿】考え方にある、「産業や伝統の担い手不足」について、産業面については「新規就農林業がオクシズに増えることで経済活動の活性化」と意識されているが、風習や伝統芸能の継承についても考え方を示す必要があるのではないか。例えば、最終アウトカム「②オクシズの楽しさや大切さが広く知られることで・・・」の考え方に「風習や伝統芸能が継承される」こともオクシズの認知度向上につながり、観光が盛んとなると考えられるのではないか。</p>
	<p>【目指す姿】「世界基準～」という言葉があるが、「基準」とは何か。（その言葉だけでは意味が通じない）これまで、一般的に「世界水準」という言葉は使われてきたが、あえて、「世界基準」とするのは何か意図があるのか。また、「企業誘致など～」とあるが、オクシズにも「企業誘致」はアリなのか。「既存産業の振興」であればわかるが、違和感がある。</p>
	<p>【目指す姿】「文化」という言語と目指す姿との関連がイメージできない。「経済活動の活発化」「環境保全」「住環境の維持」が「文化」と結びつかない。またこれらのことをやることで「多様な地域資源が世界基準に・・・活用される」とはどのようなことなのか、もう少しわかりやすくした方がよいのではないか。</p>
	<p>【目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各委員からの意見のとおり、目指す姿の記載は論理的にどうか。また多様な地域資源を世界基準に磨き上げるとは、今後何をどのような状態にするのかイメージがわからない。 ・総花的な目指す姿になっているので、「わさび」「お茶」「森林」「南アルプス」のような伝承されてきた資源を活かしてヒトやモノの交流が活発になるとか、伝承されるものに新たな知恵を付け加え、世界からも注目される中山間地を目指すとか、方向性は検討するにしても、「柱」として尖らせたほうがいいのではないか。 <p>【最終アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①の（産業）に多面的機能の発揮があり、②（観光・交流）に①の産業に含まれる観光と、保全につながる啓発、交流が混在しているように見える。オクシズ条例の理念は保全と活用であるため、保全と活用のそれぞれの側面からの整理とできないか。
	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尖ったものや力点を置いているところが明確になっていない。そうした中でロジックが組み立てられるのか疑問。まずは、この柱で何をやっていきたいのかを明確にする必要がある。 ・今回総合計画の柱に入れることで、農林水産部中山間地振興課がこれまで時間をかけて取り組んできたことと何が違うのか。何か足りない部分や十分に進められていないことがあるのか整理されていない。 ・「世界基準」ということについて、上下水道局長のとおり。オリンピックのようにスポーツの世界ならば記録という明確なものがあって、それが世界基準なり世界標準になるが、まちづくりにおいて「世界基準」とは一体何なのか。北京、ロンドン、ロサンジェルス、ソウル、ラスベガスなどなど、世界的に有名な都市は多くあるが、これらすべては「世界基準」の都市なのか。
	<p>【目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「住民の生活環境の維持向上が図られることで」とあるが、最終アウトカム③では、医療や買い物、交通などをはじめとした生活機能の維持、住み続けるための地域コミュニティを形成・維持していくことが必要としており、生活環境の維持向上を図るためのアウトカムが見当たらない。 ・「住民環境の維持向上が図られることで、多様な地域資源が世界基準に磨き上げられ、」というロジックは少し無理がある。そもそもどのような状態が世界基準に磨き上げられた状態なのかイメージできない。
	<p>【最終アウトカム】①「・・・重要であるとの意見があった。」とあるが、ここだけ一部の人の意見を取り上げたような表現となっているのは、違和感を感じる。</p>
	<p>【目指す姿】住民の生活環境の維持向上→維持及び向上とした方が分かりやすい。</p> <p>【最終アウトカム】住民の生活機能やインフラが整備され→災害時における人流・物流の確保のための交通ネットワークが整備されとした方がより安心した生活になるのでは。</p>
	<p>【全体】</p> <p>「森林」はわかりづらいので、「オクシズ」を打ち出した方が良い。ただ、目指す姿がわかりづらく、「世界基準」とは何か、そこに新しい視点があり、わかりやすく表現されアウトカムに反映されれば、柱として加わったことが納得できる。また、企業誘致が挙げられているが最終アウトカムには触れられていないこと、最終アウトカム③についてどのような指標となるか想像ができない点も、説明が必要。</p>
	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林文化の表現自体に違和感を感じる。住んでいる人たちは森林文化とは表現しないと思う。オクシズをイメージできる表現にすべき。 ・地域特有の有形・無形文化財など、特性が感じられない。 <p>【目指す姿】「多様な地域資源が世界基準に磨き上げられるため」に、森林や農地の保全と住民の生活環境の維持向上が挙げられているが、前者はエコパークや茶畑・ワサビ田の景観とイメージしやすいが、後者（生活環境の維持向上）でどのように世界基準になっていくのかがイメージしにくい。</p>

柱名	内容
森林文化	<p>【目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「森林や農地の保全」「住民の生活環境の維持向上」が図られることと「多様な地域資源が世界水準に磨き上げられ有効に活用される」ことの因果関係がわからない。例えば、「森林や農地の保全や住民の生活環境の維持向上を図りつつ、オクシズの持つ多様な地域資源を世界水準に磨き上げて有効活用することで、オクシズにおいて賑わいが生まれるとともに、住民が安心して生活をおくれている」などはどうか。 ・考え方の3つ目「そうした背景を鑑み、4次総では、改めてオクシズ地域を「森林文化」という新たな柱として掲げることにより…」の部分がわかりにくい。 <p>【最終アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①基幹産業で食べていける状況を作り出すための施策を打ち出すということか。8年間の重点事業として、どこまでのイメージができていくのか。新規就農業者が増えることで・・・とあるが、現在は経済的にやっていけないので継続や新規参入が少ないことや、参入自体に壁があるのではないか。 ・「経済の活性化」、「環境の保全」と住民の生活機能の関係が分かりにくい。経済の活性化や環境の保全のためには、それを支える生活機能が必要であり、地域コミュニティが維持されることが必要であるという関係性かと思う。また、目指す姿に「環境の保全」とあるが、そのアウトカムが観光・交流ということでのよいのか。 <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料中に、オクシズ・中山間地域（オクシズ）・中山間地域が混在しているので、統一したらどうか。（目指す姿の欄の書き出し【市域の80%を占める「オクシズ」において・・・】のオクシズをオクシズ（中山間地域）として、以降の説明はオクシズで統一する。 ・7つの柱には歴史文化、海洋文化、教育スポーツ文化、森林文化の4つの地域づくりがある。歴史文化は駿府公園（歴史博物館）、海洋文化は清水港（海文施設）、教育スポーツ文化は東静岡・草薙。それぞれの文化拠点があり、それを軸に地域づくりを進めようとしているのでわかりやすい。一方、森林文化はオクシズというエリアを包括しているだけで、軸となる拠点がないため、施策の絞り込みが難しいように感じる。 ・森林文化は地域づくりというより、健康長寿のまち、安全安心のまちと同じようなイメージ。その広いエリアで文化を創造していくというイメージが掴みにくい。（単純に伝統文化や生活文化を守るというだけの地域づくりではなく、文化を継承し、新たな文化を創造するという地域づくりになる。） ・オクシズは「中山間地域」の呼称なので、オクシズ地域という表現はおかしい。 ・そもそも、森林文化とは何を指すのか。テーマが掴みにくい。単純に市民が「森林文化の地域づくり」という言葉に触れたとき、イメージするのは林業ではないか。 ・「改めてオクシズ地域を「森林文化」という新たな柱として掲げる」という表現は、長年、市民に親しまれてきた「オクシズ」という呼称をやめて、新たに4次総から「森林文化」という柱を立てて施策を展開していくようにも感じる。（ここで表現したいのは、オクシズに「森林文化」という新たな柱を掲げることで、目指す姿を実現するという意味かとは理解するが・・・） ・オクシズの経済や生活環境で構成されているが、「文化」という意味では担い手を育成するための環境教育や気候変動対策の取組を含めた方が良い。
健康長寿	<p>【目指す姿】健康長寿のまちづくり計画の時に、策定者（厚労省出向職員）にも指摘したが、「住み慣れた自宅ですっと暮らすことが目標」というのは、市民ニーズに合っていない。厚労省の調査でも、7割くらいは自宅願望もあったが、バリアフリーで設備も整い、3度の食事の面倒もみてもらえて友人が作りやすい施設などで晩年を過ごしたい、という国民も無視できない程度の割合でいるのは事実。市があたかも「在宅で生涯を過ごすことこそが最善の人生」と誘導するのはよくない。厚労省が、高齢者の増加を予測して、社会保障費の観点から施設介護から在宅介護に早くから方針変更したことは重々承知しているが、市は国の出先機関ではない。また、今の健康長寿の計画は、その母体が高齢者と介護の計画なので、心の面の健康が薄い。身体だけ健康でも、高齢者ならではの孤立感や虚無感、自殺願望などにも配慮していく必要がある。目指す姿のワードを入れ替えたりし、「市民が心身ともに健康で、それぞれが望む環境で人生を楽しむことができる」などはどうか。</p> <p>【最終アウトカム】目指す姿の核心の部分に意見を言ったので、仮に修正するのであれば、連動してアウトカムも見直しが必要になるかと思う。</p> <p>【目指す姿】「自宅でずっと」は、健康長寿の一施策としてはいいと考えるが、本当にこれを目指す姿として良いのかどうか、再検討が必要ではないか。市民一人ひとりが望む暮らし方ができる、望む暮らし方の多様性を受け入れられる社会の構築を目指すこととした方がよい。</p> <p>【最終アウトカム】①は、高齢者を対象とするという考え方のことだが、健康上の支障から必要とされる支援は、必ずしも高齢者に限られるわけではなく、若年層から高齢者まで、必要な時に必要な支援が切れ目なく提供される体制の構築を目指すことが必要だと考える。</p> <p>【目指す姿】「できる限り」という語は必要か。現実はそのとおりであることを理解できるが、行政が「総合計画」で使うとやや消極的な感じがする。「健康」でない人に配慮した言い方か。</p> <p>【全体】医療政策、医療体制の充実をこの柱の中で記載すべきではないか。</p> <p>【目指す姿】住み慣れた「自宅でずっと」自分らしく暮らすことができているという目指す姿を実現できる人の割合は、どのくらいなのか。ライフスタイルが多様化してく中では「自分が望むところで、自分らしく暮らす」ことができるほうがいいと感じる。</p> <p>【最終アウトカム】①生涯スポーツや生涯教育などは、健康長寿との関連も強いと思うが、具体的な取組のイメージを示すためにも、参加率などを活用してはどうか。</p> <p>【目指す姿】「健康で人生を楽しむ」を実現するため、最終アウトカムに、「自分の能力を発揮し、社会参画や働くことができる。」旨の要素を明確にすべきではないか。その場合、①か②に盛り込むことが良いのではないか。</p>
まちは劇場	<p>【目指す姿】「・・・365日誰もが輝いている」というポエミーな表現は、個人的には嫌いではないが、他の柱とのバランスは考慮すべき。</p> <p>【最終アウトカム】シビックプライドの部分は歴史文化と調整した方がよい。また、③で目指す姿で使っている「心が豊か」というフレーズが繰り返されているが、重複を避けた方がよい。</p>

柱名	内容
まちが劇場	<p>【全体】今年度実施された市民意識調査の結果を見ても、「まちは劇場」の市民認知度は極めて低い。それは、新型コロナでイベントが中止になる前から同様の傾向であり、イベント中止が要因と分析しているようでは、大幅な向上は望めないであろうし、市民の望むまちづくりの方向性に合致しているのか、あらためて確認しなければならないと考える。地域に根付いている大道芸や祭りをはじめとする「ハレ」の場を通じて、賑わいや人の一体感を創り出そうとすることには異論はない。</p> <p>【目指す姿】「地域に根付いた大道芸や演劇・音楽などの芸術文化の力」とあるが、まちは劇場の定義では「静岡市に根付いた大道芸や演劇、音楽などの芸術文化等」となっている。細かい指摘ということではなく、芸術文化の範囲を広く捉えているのならば等があることでかえって混乱する。</p> <p>【目指す姿】365日誰もが輝いている・・・はあまりに抽象的で、柱の全体像が市民に伝わらない。まちは劇場の定義（目的とツール）を踏まえ「市民が主役のまちづくりやシビックプライドの醸成、交流人口の増加による経済の活性化」が目的で、そのツールとして「地域に根差した大道芸・・・などの文化の持つ力を活用する」ということがイメージできる目指す姿の表現であってほしい。</p> <p>最初に「目指す姿」でまちは劇場の"まち"は市全体と定義しているが、その後の文章では、まちが"市全体"を指しているものと"まちなか"を指しているものが混在しているため、もう少し丁寧に表現や使い分けができるのと良いのでは。</p>
安全・安心	<p>【目指す姿】「不安を感じることなく＝心豊かに暮らす」に読めてしまうが、不安を感じないことと心豊かに暮らすことは、少し次元が違うのではないか。安全安心が担保されていることは、市民の望むベーシックな部分で、これに芸術であったり、スポーツであったり、生活を彩る要素が加味されて都市の魅力が向上するのではないか。</p> <p>【最終アウトカム】②で「子ども」を前面に出したのは、面白い試みであるが、特殊詐欺の被害が日本一だったり、高齢者の交通死亡事故が増加中であることなどを考えると、「子ども」に特化するのはどうなのか。本市が子どもに対する犯罪や事故の件数が著しく多いということであれば、ありだが。</p> <p>【最終アウトカム】「② 子どもに関わる犯罪や事故などの日常リスクへの対応が図られる。」とされているが、ここで「犯罪や事故」の対象を子どもに限定する必要はない。子どもを安心して育てられる街としては、待機児童の解消や子どものための公園等の施設、医療機関等の充実が良く言われることだが、子育てのための安全安心は、これらの視点からも言うことができるのではないかと。また、子どもに関わる犯罪等は、未然の防止が必要と考えるため、「対応を図る」という表現についても疑問がある。</p> <p>なお、「安全安心のまちの推進」の部会員の中に子ども未来局がありませんが、子どもに関わることをアウトカムにするのであれば入れてもらった方がよい。</p> <p>【最終アウトカム】修正後の3つのアウトカムのうち、①が消防、防災、感染症対策など、かなり広範囲での施策になることに対して、②と③は、ピンポイントな施策を指定しており、「安全・安心のまちの推進」として、バランスが悪い。修正前のように「消防・防災面」と「感染症対策面」は、分けて表現すべきではないかと。</p> <p>また、「市民が地域の中で孤立することなく、自分らしく暮らせる」というアウトカムは、「健康長寿のまちの推進」の目指す姿と重なっているように感じます。あえて「安全・安心のまちの推進」へ組み込むなら、表現などももう少し検討が必要ではないかと。</p> <p>更に「子どもに関わる犯罪や事故などの日常リスクへの対応が図られる」を今回、新たに「安全・安心のまちの推進」に入れているが、7つの柱に「子ども」に関する施策を組み込むのであれば、「教育スポーツ文化の地域づくり」の柱に入れるべきではないかと。</p> <p>「安全・安心」は、子どもに特化することなく、市民全体に係ることとして捉えたほうが良い。</p> <p>【最終アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①の「災害」には、発生が懸念される地震も含まれていることを念のため確認した上で、外からも見えやすく仕立ててもらいたい。 ・②の通学路の交通安全対策は、特に重要になっていると感じるため、ここで打ち出すのは時宜にかなっている。一方、広い交通安全対策では、自動車や自転車のマナー向上施策にもつなげることも必要（常々、交通マナーは最悪だと感じているため）で、その結果、市民の「安全」につながるのではないかと。ハードだけに偏り過ぎないことが重要。 <p>【最終アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②「子どもに関わる犯罪や事故などの日常リスクへの対応が図られる」ことは施策として必要であるが、7つの柱としては、修正前の風水害と感染症を2つに分け取上げた方がよい。 ・7つの柱に「子ども」に関する施策を前面に打ち出すアウトカムが設定していないことを一つの理由としているが、どの柱においても「子ども」を対象とした施策は必要であり、安心・安全で特出しするのではなく、むしろSDGsやグリーン、DXと同様に政策・施策立案の視点に加えるか、それとは意味合いが違うのであれば、4次総の横串として別に打ち出すか、または、分野別計画に委ねることの方がよい。

柱名	内容
安全・安心	<p>【目指す姿】この8年間で目指す姿として、具体的なイメージが持てない。「市民生活を脅かす様々な要因に対して、不安を感じることなく」という表現は、少し乱暴なまとめ方に感じる。例えば、「市民生活を脅かす様々な要因に対して、リスク対策がとられていることで、市民が安心して暮らすことができる」としてはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民生活を脅かす様々な要因に対して、市民が不安を感じることなく、心豊かに暮らすことができている」について、「不安」は人により尺度が異なる主観であって、マイナス表記を総合計画に掲げるよりは、「安心感をもって」のような表記が適当である。「市民生活を脅かす様々な要因に対して、市民が安心感をもって、心豊かに暮らすことができている」などはどうか。 ・激甚災害の頻発、新型コロナウイルス感染拡大などは生命・健康に対するリスクとされるが、「少子高齢化」自体をリスクと表記するより、「少子高齢化に伴う労働力人口減」のような表記が適当。 ・「安全・安心は行政に課された責務である」とあるが、防災では「自助・共助・公助」の考え方があり。行政だけが担うと受け取れない表記とすることを検討されたい。 <p>【最終アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②、③を掲げるのであれば、子ども未来局、教育委員会、市民局（男女共同参画課、生活安心安全課）の部会参加が必要なのではないか。 ・子どもに関するアウトカムの設定をしたとのことだが、安全安心のまちの推進の中に、子ども、外国人、LGBTQなどの記載があり、一方で高齢者の安全安心はというと、健康長寿のまちの実現での対応となるようにも見えて、その二つの柱の関係性やバランスを整理した方がよい。 ・「③市民が地域の中で孤立することなく、自分らしく暮らせる」の【考え方】の記載について、「良好な生活環境の構築」が唐突に表記されている。「良好な生活環境の構築」がごみ屋敷対策を含めた表記と考えると、本市が参考としている京都市ごみ屋敷条例が「原因者でなく要支援者」として捉えていたり、セルフネグレクトの一例として「排除」でなく「支援」が必要との東京都健康長寿医療センターの研究報告（12/21静岡新聞 夕刊）もある。このことから、【考え方】の二つ目に「市民を孤立させない環境づくり」というワードがあるように、ごみ屋敷が疑われる方の状態が進む前に医療的支援・生活支援につなげるイメージをもって最終アウトカムとしたらどうか。 ・③【考え方】の「・・・差別、偏見なども大きな社会問題になった。」を「・・・差別、偏見のほか、良好な生活環境の保全も社会問題になった。」へ、また、「・・・偏見をなくすための啓発、その他、良好な生活環境の構築に取り組むことをイメージ。」を「・・・偏見をなくすための啓発を行うほか、排除ではなく支援といった福祉的アプローチにより良好な生活環境の構築に取り組むことをイメージ。」としてどうか。 <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4次総に使う言葉は「マイナスイメージ」のものではなく、「肯定的表現」を使った方がよい。 <ul style="list-style-type: none"> ○目指す姿：「市民が不安を感じることなく」⇒「市民が安心感をもって」 ○最終アウトカム③「地域の中で孤立することなく」⇒「地域と繋がりながら」 ・「災害」の範囲が分かりにくい。考え方には「自然災害」とあるがアウトカムには「災害」としか記載されていないため、「人為」の扱いが曖昧。
	<p>【最終アウトカム】「①静岡市が災害や感染症に強いまちである・・・」について、一般的に「強い」という表現が使われますが、なんとなくしっくりこない。今回の「強い」の意味は、「自然災害・感染症に対し迅速かつ効果的な対策がされている。」で、「感染症に強い＝感染症にかからない」ではないと解釈した。そうであれば、「・・・災害や感染症に強いまち・・・」ではなく、「・・・災害や感染症への対策がされ、不安なく暮らせるまち・・・」でもいいのでは。</p>
	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この柱は、いうまでもなくハードとしての安全対策からソフト的な安心の充実も包含している。その中で、②の「子ども」の扱いについて意見が出ている。②はリスク対応で③は自分らしく暮らすことであるため、②と③は性質が違い区別がされており、②の意義はある。そこで、ここから「子ども」を出すのではなくて、子どもも含めた社会的弱者全般に対するリスク対応という考え方はないだろうか。 ・高齢者・障害者・女性、という分類のなかで、高齢者の認知症サポートや女性のDV対応など、既存の資源は整っているものもある。
	<p>【目指す姿】「市民生活を脅かす要因」に対し「心豊かに暮らせる」とある。「③地域の中で孤立することなく・・・」の中で、多様性を前提とし、LGBTQなどの人々への配慮が感じられるが、「考え方」だけ読むと、それを許容できない人にとっては行政からの押し付けと受け取られかねない。丁寧な説明と説明の書き方が必要。</p>
	<p>【目指す姿】「考え方」で少子高齢化を激甚災害と感染拡大と並列で扱い、市民生活を脅かすリスクに繋げているが、全く次元が違う話。</p> <p>【最終アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②の「子どもへのリスク」に絞るのは疑問がある。市民全世代を対象にすべき。 ・子どもをどこかの柱に位置付けするなら、健康長寿の柱が馴染みやすいのではないか。
	<p>【全体】この安全・安心は柱として立てるのではなく、すべての市が行う事業や施策に必ず求められることではないかと考える。そういう意味から柱ではなく、すべてのベースになるものだと考える。</p>
	<p>【最終アウトカム】「①静岡市が災害や感染症に強いまちであることが認知されている。」感染症対策は効果的に情報発信することができるが、災害対策は発信しがたく、国土強靱化に絡めて静岡市が強靱でしなやかなまちであることが認知されているとしてみてもどうか。</p>
	<p>【最終アウトカム】自然災害への備えと感染対策については、アウトカムを分けて考えてもよい。また、「強いまちであることが認知される」というのは、どこまで行っても認知されないという気がするため、考え方にあるように「対策がなされているまち」の表現の方が現実的ではないか。</p>
	<p>【全体】安全安心のまちの推進に、子どもに関する施策を打ち出しているが、本市の人口減少を考えた時、7つの柱の中に、子育て世帯や子どもに関する施策がもっとあっても良い。</p>

パブリックコメント用資料
(R4.3.1~3.31 実施)

R4.2.1 Ver

第4次静岡市総合計画 「基本構想」・「基本計画」 骨子案



静岡市 企画局企画課

令和4年2月

【その他参考資料】

- ・ 市民意識アンケート結果
- ・ 3次総期間におけるデータ調査・分析業務結果
- ・ 3次総期間における政策・施策評価の結果

目 次

【1】序論

- (1) 総合計画について.....P 2
- (2) 計画の構成及び期間.....P 2
- (3) 策定体制.....P 3
- (4) 策定スケジュール.....P 3

【2】3次総の振り返り.....P 4 ~ 5

【3】基本構想.....P 6

【4】基本計画

- (1) 時代の潮流.....P 7
- (2) 人口フレーム.....P 8
- (3) 重点目標.....P 9
- (4) 横断的視点.....P 9
- (5) (仮)7つの柱.....P10
- (6) 分野別の取組.....P11

参考 第4次静岡市総合計画 構成案.....P12

参考 用語集.....P13

【1】序論

(1) 総合計画について

総合計画とは、地方自治体が総合的、計画的に行政運営を行っていくための最も基本となる計画です。長期的な視点に立って、まちの目指す姿を定め、その実現に向けた取組などを示す、いわばまちづくりの羅針盤の役割を担う計画であると言えます。

また、人口減少、少子高齢化等に伴い、地方自治体の財政状況が厳しさを増す中で、適正なマネジメントを行いながら、持続的な都市経営を進めていくための指針としての性格も持ち合わせています。

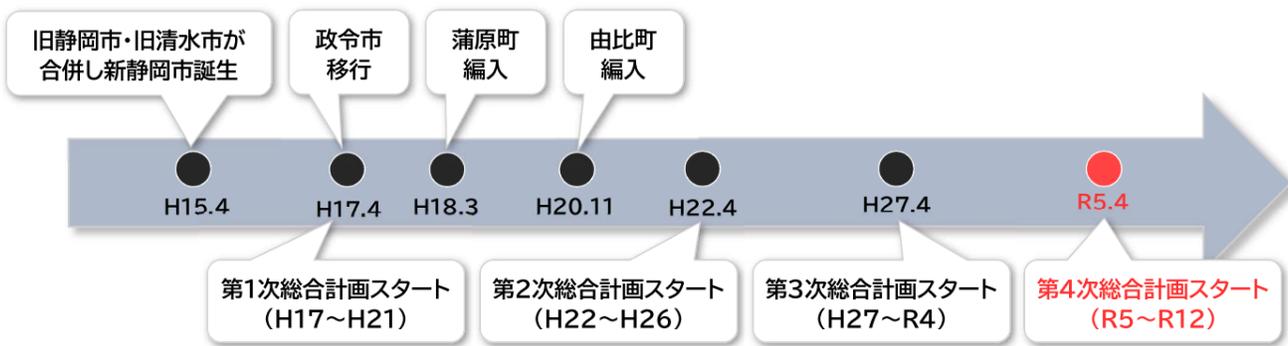
本市では、平成17年の政令指定都市移行に合わせ、地方自治のあり方やまちづくりの方向性を示す「静岡市自治基本条例」を制定しました。この条例の規定に基づき、まちづくりを具体化させるための総合計画を策定し、市政運営を行っています。

【静岡市自治基本条例】

(総合計画の策定)

- 第15条 市は、この条例の目的及び理念に基づくまちづくりの具体化のため、基本構想、基本計画及び実施計画から構成される総合計画(以下「総合計画」という。)を策定しなければならない。
- 2 総合計画は、社会経済状況の変化及び新たな行政需要に対応できるよう常に検討を加えられなければならない。
- 3 各行政分野の計画は、総合計画に即して策定されなければならない。

【これまでの策定経過】



(2) 計画の構成及び期間

第4次静岡市総合計画(以下、「4次総」という。)は、基本構想、基本計画、実施計画の3層で構成します。

また、本市における各分野の個別計画は、4次総の内容に即して策定していきます。

【計画の構成】



基本構想

長期的に変わることのない、まちづくりの目標や目指す都市像を明らかにするものです。4次総では、概ね2040年を見据えて基本構想を定めます。

基本計画

基本構想を実現するために重点的に取り組む政策や、市政全般にわたる取組の体系を定め、その目的や指標などを明らかにするものです。4次総では、令和12(2030)年度までの8年間を計画期間として定めます。

実施計画

財政シミュレーションとの整合を図りながら、基本計画の政策・施策を展開するための個別の事務事業を定めるものです。4次総では前期を4年(令和5~8年度)、後期を4年(令和9~12年度)として計画を定めます。なお実施計画は、社会経済情勢等の変化に対応するため、毎年度見直しを行います。

※4次総は、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく地方版総合戦略と一体のものとして策定する

【計画の期間】

	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	...	R22 (2040)	
基本構想	概ね2040年を見据えて定める										
基本計画	8年間										
実施計画	4年間				4年間						

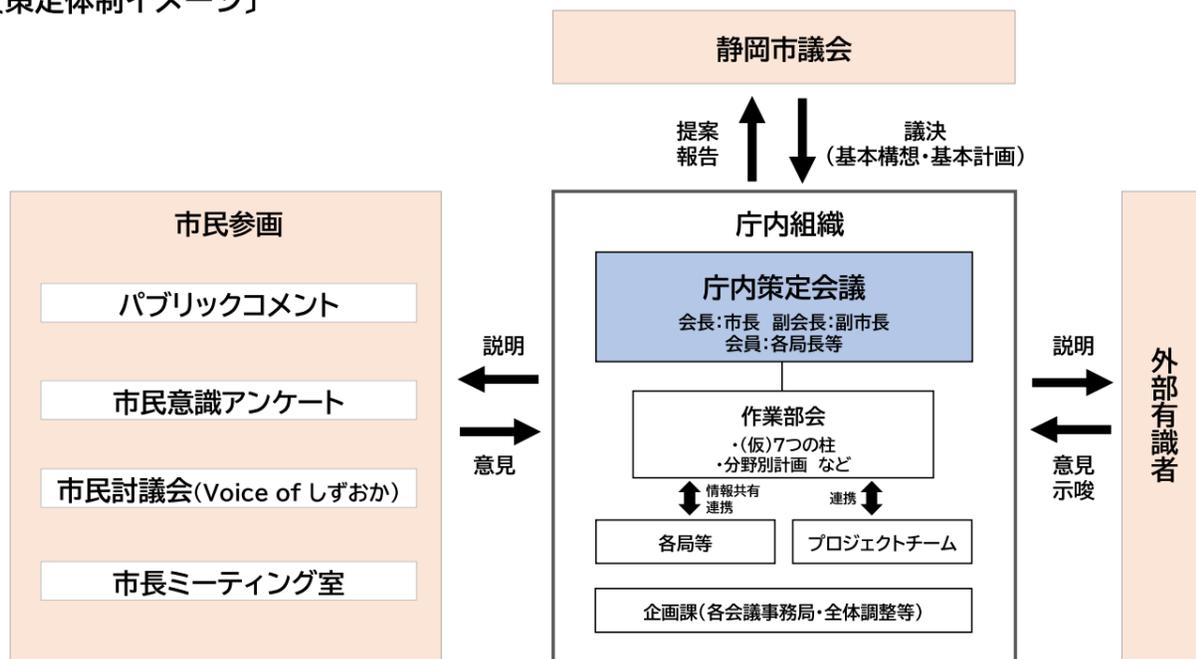
(3) 策定体制

令和3年5月に市長を会長とする庁内策定会議を設置し、以後、副市長、各局長等を含めたメンバーにより、部局横断的な視点で策定に向けた議論を進めています。

また、パブリックコメント、市民意識アンケート、市民討議会（Voice of しずおか）、市長ミーティング室といった多様な手法により、幅広く市民の皆さんの声を聴くとともに、複数の有識者から意見、示唆を受けながら、計画を練り上げていきます。

なお、基本構想及び基本計画については、静岡市議会の議決を得て決定することとなるため、市議会との意見交換を密に行いながら作業を進めていきます。

〔策定体制イメージ〕



市長ミーティング室(R3.10)



庁内作業部会(R3.11)

(4) 策定スケジュール

令和3年6月以降、庁内策定会議を中心として、策定に向けた作業を進めています。

これまで主に、4次総の基本的な方向性を示す基本構想や、基本計画の中核となる取組である「(仮)7つの柱」などについて検討を行い、令和4年2月に骨子案を作成しました。この骨子案について、今回パブリックコメント（1回目）を実施します。

1回目のパブリックコメントでいただいた意見も踏まえ、その後も引き続き作業を進め、令和4年8月に実施予定のパブリックコメント（2回目）を経て、令和4年11月市議会定例会に、基本構想及び基本計画の策定議案を提出する予定です。

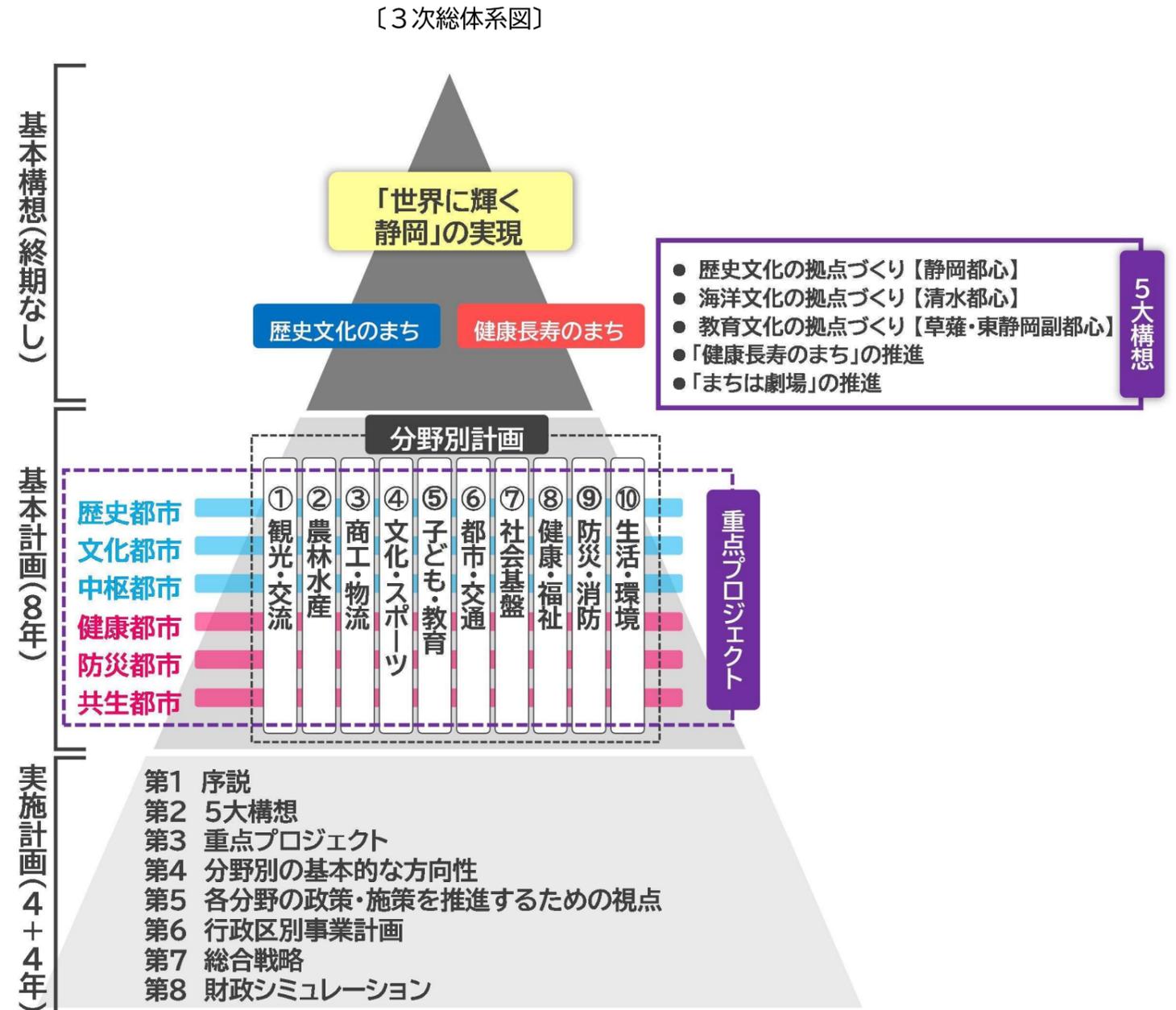
〔現時点での定体スケジュール〕

	R3(2021)年度											R4(2022)年度										
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
庁内策定会議	①	②		③		④	⑤		⑥		⑦	⑧	⑨	⑩	⑪							
全体	基本構想 骨子案検討											原案作成										
	基本計画 骨子案検討											原案作成										
	実施計画											事業検討										
市民参画	パブリックコメント											実施										
	市民意識アンケート											実施										
	市民討議会 (Voice of しずおか)											実施										
	市長ミーティング室											実施										
外部有識者	随時意見聴取																					

【2】3次総の振り返り

平成27(2015)年3月に策定した「第3次静岡市総合計画」(以下、「3次総」という。)は、2015(平成27)年度から2022(令和4)年度までの8年間の計画です。まちづくりの目標として、「世界に輝く静岡の実現」を、目指す都市像として「歴史文化のまち」と「健康長寿のまち」を掲げました。

そして、本市のオンリーワンの地域資源を活かし最優先に進める政策として、「世界に存在感を示す3つの拠点づくり(歴史文化、海洋文化、教育文化)」と、「生活の質を高める2つの仕組づくり(健康長寿のまち、まちは劇場)」の「5大構想」を位置付けるとともに、市政全般にわたる取組として、10の分野別の計画を定めました。

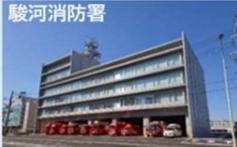
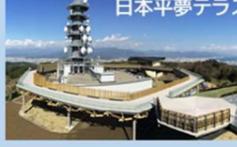
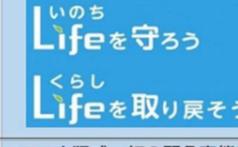


3次総では、「5大構想」を中心として各分野における取組を進めてきました。

例として、「歴史文化の拠点づくり」では、平成27(2015)年の家康公400年祭以降、駿府城公園周辺エリアの魅力高めるための取組を進め、令和4年度には、エリアのシンボルとなる「静岡市歴史博物館」のグランドオープンや、大河ドラマ「どうする家康」の放送開始に合わせた大河ドラマ館の開設を予定しています。「健康長寿のまちの推進」では、「生涯活躍のまち静岡(CCRC)」を目指し、葵区中心市街地と駿河区役所周辺をモデル地区として、健康寿命延伸や地域活性化につなげるためのまちづくりを進めており、令和2年度には、葵区中心市街地エリアに、認知症の方やその家族への総合的な支援を行う「かけこまち七間町」を開設しました。「海洋文化の拠点づくり」では、新型コロナウイルスの影響から一時停止していた「海洋・地球総合ミュージアム」の整備について、事業を再開し、清水地区の新たな賑わい拠点を形成していきます。

また、人口減少に立ち向かうための施策では、東京都に「静岡市移住支援センター」を開設するなど、早くから移住促進に積極的に取り組んできた結果、人口の将来推計が大幅に改善するといった成果を出しています。さらに、子育て分野においては、保育定員の拡大などを進めてきた結果、平成30(2018)年度以降、4年連続での「待機児童ゼロ」を達成しています。

このように、あらゆる分野において「世界に輝く静岡の実現」のための取組を進めてきた一方で、3次総期間中に完了に至らなかった施策や、時代の潮流を踏まえて新たに取り組むべき課題などもあり、それらは新たに策定する4次総に位置付けていく必要があります。

	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31/R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4) ※予定
分野別の政策・施策等	<p>(観光・交流) 家康公四百年祭</p>  <p>家康公四百年祭</p> <p>食の魅力PR(ミラノ国際博覧会)</p> <p>(子ども・教育) 認定こども園開園 結婚支援事業しずおかエンジェルプロジェクト スタート!</p> <p>(都市・交通) 江川町交差点横断歩道設置</p> <p>(社会基盤) 国道362号羽鳥・安西間4車線化 JR安倍川駅舎・東西通路リニューアル</p> <p>JR安倍川駅リニューアル</p> <p>(防災・消防) 駿河消防新庁舎完成 緊急情報防災ラジオ販売</p>  <p>駿河消防署</p> <p>(視点)都市経営 東京都有楽町に静岡市移住支援センター開設</p>	<p>(観光・交流) 第18回日本スペインシンポジウム開催</p> <p>(農林水産) 桜えびの人気急上昇 「お茶」国内外の販路拡大に向けたプロモーション</p> <p>(商工・物流) 新幹線通学費貸与事業開始</p> <p>そうか「新幹線」という手があった!</p>  <p>独り暮らしか、それとも自宅から通うか。 国外の大学等への進学も進んでいるあなたに、静岡市では新幹線通学費をお返しします。</p> <p>(文化・スポーツ) 「まちは劇場」プロジェクト始動</p> <p>ON STAGE SHIZUOKA まちは劇場</p> <p>駿府城跡天守台調査開始 (子ども・教育) ママケアサービス開始 「MSPJ AWARD」自治体部門を受賞 (社会基盤) JR草薙駅リニューアル</p>  <p>JR草薙駅</p> <p>(視点)都市経営 中部5市2町観光地域づくり法人「するが企画観光局」始動</p>	<p>(観光・交流) 梅ヶ島温泉郷国民保養温泉地指定 葵舟の試験運航 清水港に年間最多の客船帆船寄港</p>  <p>清水港:客船誘致</p> <p>(農林水産) マッサーロ氏初の静岡市お茶大使就任</p> <p>(商工・物流) プレミアムフライデー開始</p> <p>(文化・スポーツ) 東静岡アート&スポーツ/ヒロバ グランドオープン 朝鮮通信使記録「世界の記憶」登録</p>  <p>東静岡アート&スポーツ/ヒロバ</p> <p>(子ども・教育) 静岡型小中一貫教育準備開始 結婚新生活スマイル補助金開始</p> <p>(都市・交通) 大谷・小鹿地区まちづくり開始</p> <p>(生活・環境) 水素ステーション静岡運用開始 清水斎場供用開始</p> <p>(視点)都市経営 静岡県中部5市2町での、しずおか中部連携中枢都市圏始動</p>	<p>(観光・交流) カンヌ市「政策研究に関する覚書」締結 豊臣期の天守・金箔瓦出土 日本平夢テラスオープン</p>  <p>日本平夢テラス</p> <p>(農林水産) 「水わさびの伝統栽培」世界農業遺産認定</p> <p>(子ども・教育) 待機児童ゼロ達成</p>  <p>待機児童ゼロ達成</p> <p>(社会基盤) 県道 三ツ峰落合線にトンネル新設決定 国道150号中島高架橋開通、静岡BP4車線化</p> <p>(健康・福祉) 地域福祉共生センターみなくるオープン</p> <p>(防災・消防) 港北消防署完成</p> <p>(視点)都市経営 SDGs未来都市・ハブ都市選定 TOKYOガールズコレクション開催 しずおか中部イベントニュース「GO TO」創刊</p> 	<p>(観光・交流) 今川義元公生誕祭 清水湊開港120周年</p>  <p>120th Anniversary PORT OF SHIMIZU</p> <p>(文化・スポーツ) みほしるべ開館</p>  <p>みほしるべ開館</p> <p>歴史博物館建設地に戦国末期の道と石垣発見 日本平動物園50周年</p> <p>(子ども・教育) 2年連続待機児童ゼロ</p> <p>小中学校で全員給食開始 (都市・交通) 相乗りタクシー実験開始(MaaS)</p> <p>(社会基盤) 日本平久能山スマートIC開通 桜橋の架け替え工事開始</p>  <p>日本平久能山スマートIC</p> <p>(健康・福祉) 働きたいシニア向け就労相談窓口「NEXTワークしずおか」オープン</p> <p>(視点)市民自治 静岡市多文化共生総合相談センターオープン</p>	<p>(観光・交流) シェアサイクル事業「PULCLE」開始</p>  <p>PULCLE (バルクル)</p> <p>静岡市歴史博物館 着工</p>  <p>歴史博物館</p> <p>弥次さん喜多さん駿州の旅、日本遺産に認定</p> <p>(子ども・教育) 3年連続待機児童ゼロ</p> <p>(都市・交通) 駿府ホリノテラス完成</p> <p>(健康・福祉) 認知症ケア推進センター「かけこまち七間町」開設</p>  <p>かけこまち七間町</p> <p>(視点)コロナ対策 コロナからのちと、生活を守る「2つのLife」</p>  <p>いのち Lifeを守る くらし Lifeを取り戻そう</p>	<p>(観光・交流) 葵船の本格運航開始</p>  <p>葵船</p> <p>(文化・スポーツ) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催</p> <p>(子ども・教育) 4年連続待機児童ゼロ</p> <p>(都市・交通) あさはた緑地交流広場オープン 中部横断自動車道 静岡-山梨間の全線開通</p>  <p>中部横断自動車道開通</p> <p>(商工・物流) コ・クリエーションスペース開設 匠宿リニューアルオープン</p>  <p>コ・クリエーションスペース</p> <p>(健康・福祉) 地域・多世代交流型住宅 ココファン静岡南八幡オープン</p> <p>(こども・教育) 中央図書館リニューアル</p> <p>(生活・環境) 2050年温室効果ガス排出実質ゼロに向けた検討の開始</p>	<p>歴史博物館オープン (開館予定:2023年春)</p>  <p>歴史博物館</p> <p>大河ドラマ館の開館 (開館予定:2022年度下旬)</p>  <p>大河ドラマ館</p> <p>イメージ:東京都北区大河ドラマ館(青天を衝け)</p> <p>静岡市民文化会館の再整備へ (開館予定:2026年度末頃)</p>  <p>静岡市民文化会館</p> <p>海洋・地球総合ミュージアムの整備へ (開館目標:2025年度中)</p>  <p>海洋・地球総合ミュージアム</p>
	時事	<ul style="list-style-type: none"> 安全保障関連法が成立 TPP交渉が大筋合意 川内原発が再稼働 戦後70年で安部首相談話 日本人科学者2人ノーベル賞 ラグビーW杯で歴史的勝利 外国人観光客激増、爆買いも マイナンバー法施行 	<ul style="list-style-type: none"> 天皇陛下、退位の意向示唆 熊本地震 米大統領、歴史的な広島訪問 安倍首相、真珠湾慰霊へ 消費増税再延期 日露、北方四島共同経済活動 リオ五輪、過去最多41メダル エスパルス1年でJ1へ昇格 	<ul style="list-style-type: none"> 天皇退位、2019年4月末に「共謀罪」法が成立 九州北部豪雨 死者等41名 将棋の藤井四段が29連勝 電通に有罪、働き方改革へ ミャンマーロヒンギャ難民 国連、各禁止条約採択 笑点司会者が春風亭昇太に 	<ul style="list-style-type: none"> オウム松本元死刑囚らに刑執行 西日本豪雨、北海道地震 安倍首相「2島先行返還」へ 平昌五輪で最多メダル 働き方改革、外国人就労関連法 日銀が政策修正、金利上昇容認 「18歳成人」改正民法成立 さくらももこ氏死去 	<ul style="list-style-type: none"> 令和へ代わり 消費税10%に、軽減税率導入 台風・豪雨で甚大被害 ラグビーW杯で列島熱狂 首里城火災、正殿など消失 東京池袋高齢ドライバー事故 探査船はやぶさ2リュウグウへ 静岡学園全国高校サッカー優勝 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ猛威、初の緊急事態宣言 東京五輪1年延期 九州で豪雨、死者多数 「鬼滅の刃」、大ヒット コロナ対応で混乱 広がる新しい日常 レジ袋有料化スタート あおり運転罪創設 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスワクチン接種開始 熱海土石流 カーボンニュートラル 東京2020オリンピック、パラリンピックの開催 デジタル庁発足 エンゼルス大谷選手二刀流 新たなオミクロン株の感染

4次総へ継承し、更なるまちの発展を図っていきます

※3次総での取組の実績は、その他参考資料「3次総期間における政策・施策評価の結果」も参照してください。

【3】基本構想

基本構想は、将来を展望し、長期的に変わることのないまちづくりの目標や目指す都市像を明らかにするとともに、その実現に向けた方向性を示すものです。

4次総では、3次総で掲げたまちづくりの理念を継承し、引き続き「世界に輝く静岡の実現」をまちづくりの目標とします。また、基本構想は概ね2040年を見据えたものとして定めます。

なお、具体的な取組事項などは、基本計画で示していきます。

【3次総と4次総の比較】

	3次総	4次総(案)
構想の期間	定めない。	定めない。ただし、概ね2040年頃を見据える。
まちづくりの目標	「世界に輝く静岡」の実現	「世界に輝く静岡」の実現
構成	1 まちづくりの目標	1 策定の趣旨
	2 目指す都市像 (1)「歴史文化のまち」づくり (2)「健康長寿のまち」づくり	2 まちづくりの目標 3 まちづくりの目標を達成するために目指す都市像 (1)静岡市が擁する地域資源を磨き“輝かせ”、 世界から注目され、人々が集まるまち (2)静岡市に暮らす市民一人ひとりが“輝いて” 自分らしい人生を謳歌できるまち
	3 市政のさらなる展開 (1)「創造する力」による「都市の発展」 (2)「つながる力」による「暮らしの充実」	
	4 基本計画の策定	4 基本計画の考え方

【静岡市基本構想案】

1 策定の趣旨

時代は今、かつてないほどの目まぐるしい速さで変化を続けています。

世界情勢は刻々と変わり、情報通信技術の進化は、我々の生活や働き方を大きく変容させました。また、地球規模での気候変動を始めとする環境問題や、我が国の人口減少と少子高齢化は、より深刻さを増しています。そしてこの先も、世の中は我々の想像を超えて変化を続けていきます。

そうした変化に柔軟かつ迅速に対応していく一方で、どれだけ技術が進歩し、環境が変化しても、私たちが内面に秘める本質や人間らしさを求める思いは変わることはありません。

私たちは今、かつての形あるものに価値が置かれ、その豊かさが重視された成長・拡大の時代を抜け、情報や体験、心の豊かさといったことに価値が置かれ、個人の幸せを追求する成熟・持続可能な時代にいます。

こうした時代にあって、静岡市は今後、市民のためにどのようなまちを目指すのか。静岡市の今後を切り開く指針として、基本構想を定めます。

2 まちづくりの目標

静岡市は、静岡県のほぼ中央に位置し、北に標高3,000m級の南アルプスの壮大な山々が連なり、南に水深2,500mの日本一深い駿河湾が広がる類い稀な自然を有しています。一年を通じた温暖な気候と豊富な日照時間もたらす住みやすい生活環境の下、長い歴史において、先人たちにより多彩な文化が培われてきました。

歴史的には、古くは登呂遺跡に代表される弥生時代から、今川文化が開いた室町・戦国時代を経て、大御所徳川家康公の時代には駿府城が築かれました。また、東海道二峠六宿が東西交通の要衝として発達し、現在も地域の核となっています。このような長い歴史と地勢的な利点から、多くの人が行き交い、多様な産業が育まれてきました。

そして、発達した交通ネットワークを基礎に、商都として発展し賑わいを見せる静岡都心や、港湾都市として発展し海の玄関口である清水都心、教育機関が集積され今後の発展が見込まれる草薙・東静岡副都心を軸に高度な都市機能を備え、県中部の中核都市として発展を遂げています。

このように静岡市は、まちと海、山、川などの豊かな自然、東海道の歴史文化などがバランス良く融合し、世界的にも恵まれた環境にあります。

新しい時代を切り開く要素を豊富に備えた静岡市が目指すのは、人口や産業が過度に集積し、時間の流れが急速に進む大都市ではなく、一定の経済力を有しながら固有の歴史や文化、自然と調和した、人々が人生を謳歌できる持続可能な都市です。

市民1人ひとりが幸せに満ちた人生を送り、静岡市の資源（静岡らしさ）を最大限に生かすことで世界に存在感を示す、「『世界に輝く静岡』の実現」をまちづくりの目標に掲げます。

3 まちづくりの目標を達成するために目指す都市像

「『世界に輝く静岡』の実現」のため、以下の2つの都市像を目指します。

静岡市が擁する地域資源を磨き“輝かせ”、世界から注目され、人々が集まるまち
静岡市に暮らす市民一人ひとりが“輝いて”自分らしい人生を謳歌できるまち

4 基本計画の考え方

この基本構想に則した基本計画を策定し、政策・施策を円滑かつ着実に推進していきます。

推進にあたっては、市民、企業、行政が互いに手を取り、あらゆる場面で活躍できるシチズンシップに富んだ人材や企業・団体と新たな価値を生み出し取り組んでいきます。

加えて、国籍や性別、障害の有無など、人々の多様性を尊重し、わたしたちが暮らす地球の豊かな環境や生態系を守りながら、経済、社会、環境が調和したまちづくりを進めます。

そして、本市を訪れ、本市と関わる人の輪を広げ、まちの活力を高めていきます。

以上

【4】基本計画

基本計画は、基本構想で掲げる「世界に輝く静岡の実現」を実現するために取り組む政策・施策の目的や目標を定め、その体系などを明らかにするものです。4次総では令和12（2030）年度までの8年間を計画期間として、基本計画を定めます。

（1）時代の潮流

近年、経済、社会、環境など多方面において、世界規模の大きな変化が生じています。4次総の基本計画の策定にあたっては、こうした変化やその影響を認識しながら、時代に即した取組となるよう、検討を進めていく必要があります。

①人口減少・少子高齢化

国の人口は2010年をピークに減少を始め、同時に急速な高齢化が進行しています。人口減少・少子高齢化は、地域活力の低下や経済活動の停滞などの影響を及ぼすことが懸念されます。本市の人口は、国よりも20年早い1990年から減少を続けており、2019年には70万人を下回りました。移住促進など、人口の社会増のための取組を進めているものの、今後も更なる人口減少・少子高齢化は避けられないと見込まれます。

②激甚化する自然災害の懸念

近年、地球規模の気候変動に起因する豪雨災害などが頻発し、日本国内のみならず、世界各地で甚大な被害が生じています。古くから南海トラフ地震による被害が懸念されている本市は、地震をはじめとした災害対策について先進的に取組を進めてきているものの、今後、更なる異常気象の増加や、それに伴う激甚災害が発生する可能性があることから、一層の対策強化が必要となっています。

③価値観・ライフスタイルの多様化

社会構造の変化、科学技術の進化などに伴い、人々の「豊かさ」の価値観や、求めるライフスタイルが多様化しています。また、「人生100年時代」と言われる中、65歳を超えても、生き生きと働きながら暮らすことを望む高齢者が増加しています。本市も、こうした多様な市民ニーズに応えるための、きめ細やかな取組が求められています。

④公共施設のアセットマネジメント

全国的に多くの公共施設の老朽化が進み、更新の時期を迎えています。社会保障などの義務的経費が今後も増加する中、安定的な公共施設の老朽化対策を進めることが必要となっています。人口減少、少子高齢化社会を見据え、単なる建替えのみならず、統廃合や廃止、民間活用などを視野に入れた、持続的なアセットマネジメントが求められています。

⑤グローバル化の進展と多文化共生

近年のグローバル化は、ICTの発展やSNSの利用拡大に伴い、情報の交流が盛んになるなど、あらゆる面で進展を見せています。また、外国籍の住民の増加と定住化が進む中、地域に暮らす人々が多様な価値観を認め合い、共に地域づくりをしていくことが求められています。本市で生活するすべての人々が、互いの文化的違いを尊重し、相互理解と思いやりにあふれ、多様性を活かしたまちの実現が図られるよう、多文化共生のまちを推進していくことが求められています。

⑥SDGsの推進

地球温暖化に伴う異常気象や自然破壊、貧困、格差、差別など、世界は未だ深刻な問題を数多く抱えています。これらに対応するため、2015年の国連サミットにおいて全会一致で採択されたSDGsは、日本においても多くの企業や個人の間で認知され、取組が進められています。SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」は、本市が目指す「世界に輝く静岡の実現」の考えと重なるものであり、持続的な市政運営を進めるため、今後の本市のまちづくりにSDGsの視点を取り入れていくことが求められています。

⑦新型コロナウイルスの感染拡大

2019年12月に中国で出現したといわれる新型コロナウイルスは、瞬く間に世界中に広がり、多くの命を奪う大流行となりました。また同時に、人々のライフスタイル、ビジネススタイルを大きく変える契機ともなっています。本市においても、「2つのLife（生命を守り、生活を取り戻す）」のスローガンのもと、対策を講じており、まずは一日も早い感染収束を目指し、今後も取り組んでいく必要があります。

⑧デジタル技術の進展

特に新型コロナウイルスの感染拡大以降、IoT、AI、次世代通信といった、社会におけるデジタル技術の進展が加速しています。一方で、日本国内の行政活動におけるデジタル化の遅れなどの課題が顕在化しており、国は2021年9月にデジタル庁を発足させるなど、早急な対策を進めています。本市も、国と歩調を合わせ、窓口手続などの行政のデジタル化、デジタルを活用したまちづくり、デジタル人材の確保などの取組を一体的に進めていくことが求められています。

⑨脱炭素社会に向けた取組の加速

近年、気候変動に伴う自然災害が増加、激甚化する中、世界各国がパリ協定に基づき、様々な地球温暖化対策に取り組んでいます。本市も2020年11月、2050年の温室効果ガス排出実質ゼロに向けて取り組んでいくことを静岡市議会において表明しました。今後、経済界や市民と連携し、具体的な取組を加速していくことが求められています。

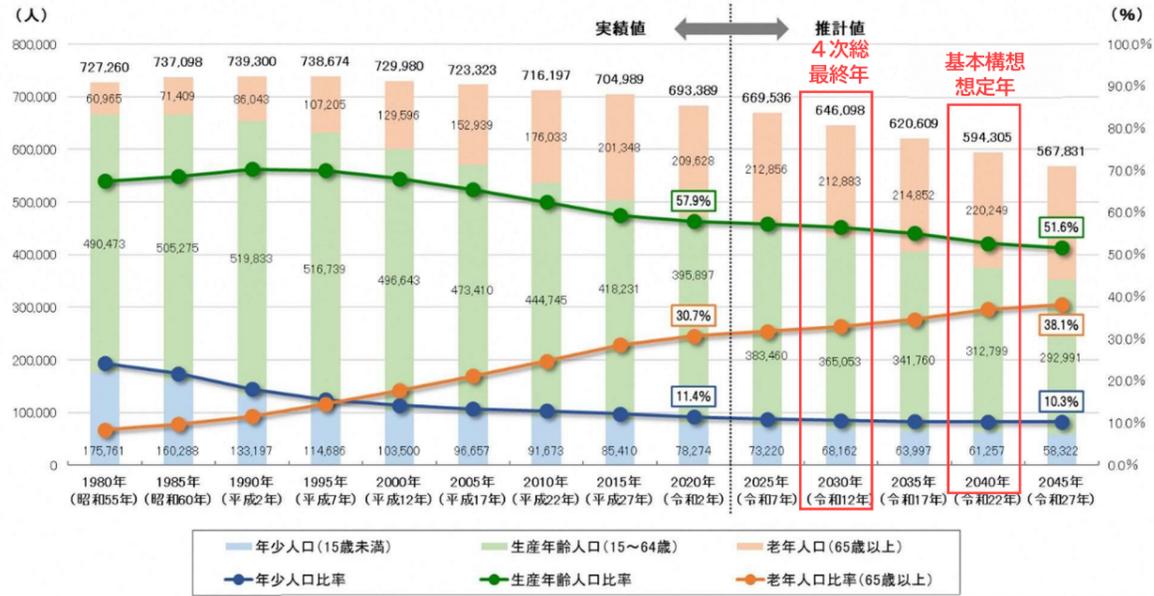
(2) 人口フレーム

人口は、都市活力の源泉の一つであり、基本計画の策定にあたっては、将来の人口フレーム（人口規模）を想定しつつ検討していく必要があります。

国全体の急速な人口減少・少子高齢化傾向が続く中、本市の人口は、平成29年の住民基本台帳登録人口、令和2年の国勢調査人口で70万人を下回りました。さらに、「国立社会保障・人口問題研究所（社人研）」の2018年の推計では、4次総終期である令和12（2030）年の本市の人口は646,098人となるなど、今後も長期的な人口減少は避けられないものと想定されています。（図1、2）

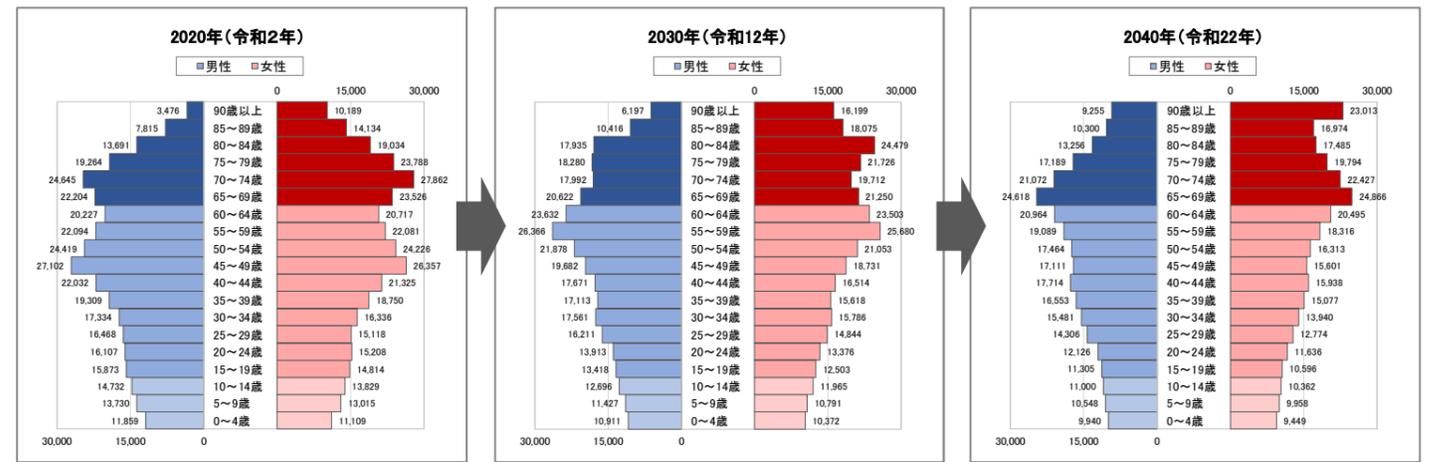
一方、3次総期間において、首都圏からの移住促進、地方創生の取組などを進めてきた結果、平成29年と令和2年には社会増減がプラスとなり、さらに社人研の人口推計は、2013年時点と比較して2018年の推計が大幅に上方修正されるなどの成果が出ています。（図3、4）

〔図1 静岡市の将来人口の予測〕



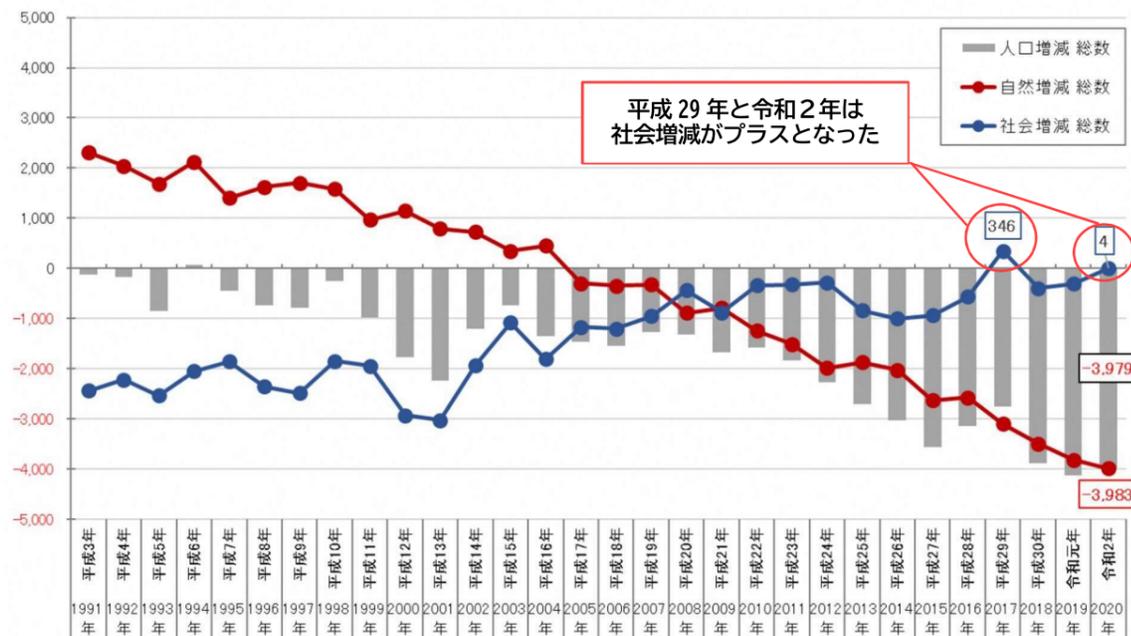
〔出典〕各年国勢調査（総務省）、日本の地域別将来人口推計（国立社会保障・人口問題研究所）

〔図2 静岡市の将来人口の予測〕



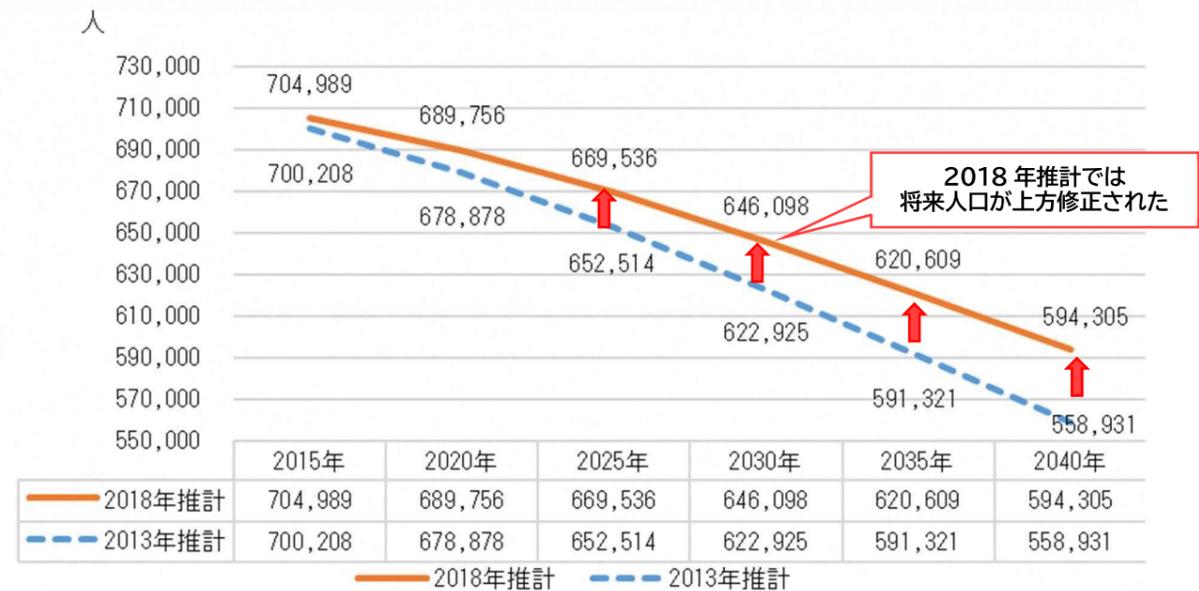
〔出典〕令和2年国勢調査（総務省）、日本の地域別将来人口推計【2018年推計】（国立社会保障・人口問題研究所）

〔図3 自然増減・社会増減の推移〕



〔出典〕静岡市統計書

〔図4 静岡市の将来人口推計の変化〕



〔出典〕国立社会保障・人口問題研究所

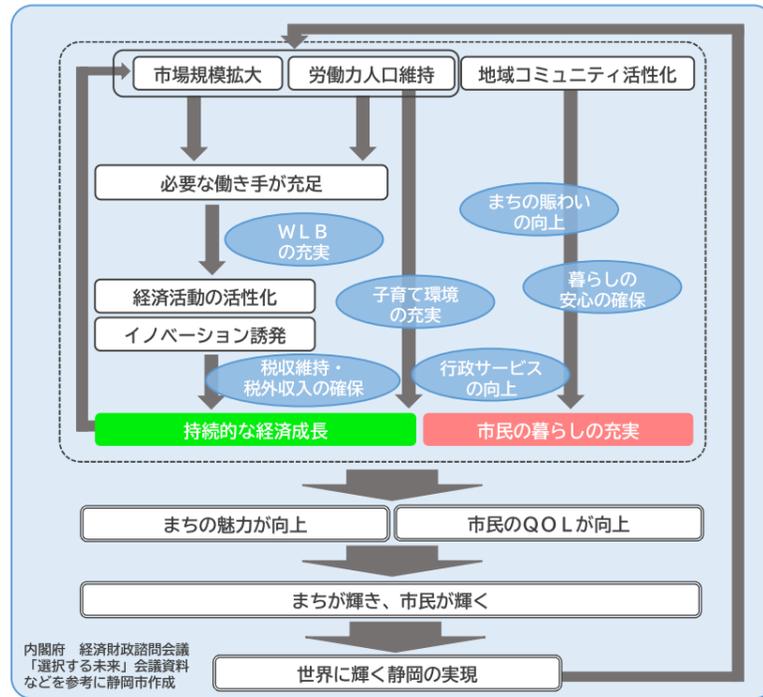
(3) 重点目標 ～人口活力を高め、まちを活性化させる～

3次総では、「2025年の総人口70万人維持」を人口目標に掲げ、取組を進めてきました。一方で、人口減少、少子高齢化の時代の中、基本構想に掲げる「世界に輝く静岡」を実現するためには、定住人口の減少を最小限に抑えつつ、交流人口や関係人口にも目を向けながら、まちの魅力と、市民のQOL（クオリティ・オブ・ライフ=生活の質）をともに向上させる好循環を生み出していくことが重要です。

この考え方のもと、4次総の8年間の重点目標として、「人口活力を高め、まちを活性化させる」ことを掲げ、「持続的な経済成長」と「市民の暮らしの充実」の2つのテーマのもと、取り組んでいきます。また、成果を測るための指標を新たに設定します。

なお、終期である令和12（2030）年時点の定住人口については、現時点での社人研の推計値（646,098人）を上回る「およそ65万人」を目安とし、これまで取り組んできた人口減少対策を引き続き進めていきます。

【「人口活力を高め、まちを活性化させる」イメージ】



※「人口活力を高め、まちを活性化させる」考えは、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく地方版総合戦略としての性格を併せ持つ

【重点目標に設定する指標（案）】

- ・ 市内総生産額
- ・ 市民一人当たり所得額
- ・ 「質の高い生活が送れている」と感じる市民の割合 など

※複数の指標を組み合わせて測ることを想定しています。

(4) 横断的視点

基本構想では、経済、社会、環境に調和したまちづくりの推進を掲げています。

この基本構想の理念を実現するための横断的な視点として、時代の要請や国際社会の期待に応じていくため、基本計画の8年間では、以下の3点を意識し、取組を進めていきます。

また、総合計画以外の各分野の政策立案にあたっては、これらの視点を取り入れていきます。

① SDGsの推進

4次総と同じ2030年を目標年次とするSDGsを推進します。

「SDGs未来都市」、そしてアジア地域で唯一の「SDGsハブ都市」として、率先してSDGsの推進に取り組み、世界における静岡市の存在感を高め、求心力のあるまちづくりを進めていきます。

② グリーン社会の実現

将来に渡り豊かな営みを続けることができるよう、地球環境の保全を図りながら地域経済・社会の発展を両立させることを意識して取組を推進します。

③ デジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進

市の事業を推進する上でデジタル技術の活用を意識するとともに、誰もがデジタル化による豊かさを楽しむ地域社会の実現を目指して取組を推進します。



(5) (仮)7つの柱

基本構想で述べたように、本市は、南アルプスを擁する中山間地や日本一の深さをもつ駿河湾といった豊かな自然を有しており、長い歴史において、先人たちにより多彩な文化が培われてきました。さらに、地域に根付いた大道芸や演劇・音楽などの芸術文化や、歴史文化や海洋文化など風格と個性のある地域資源にもあふれています。あわせて、温暖な気候や多彩な食資源に恵まれるなど、人々が健康的に安心して、いつまでも暮らし続けることができる環境を有しています。

3次総では、こうした数多くの「静岡らしい資源を輝かせることで、静岡都心・清水都心・草薙・東静岡副都心が世界から注目され、人々が集まるまち」と、「市民一人ひとりが輝いて自分らしい人生を謳歌できるまち」を目指す取組として、「5大構想」を掲げました。4次総では、時代の潮流や市民意識の変化などを踏まえ、持続的な経済成長と市民の暮らしの充実をより強化していくため、新たにオクシズにおける「森林文化の地域づくり」、豊かな市民生活の土台となる「安全・安心のまちの推進」の2つを加え、「(仮)7つの柱」として重点的に取り組んでいきます。

歴史文化の地域づくり【静岡都心】

静岡都心では、これまで培ってきた都心としての機能の更新と、徳川氏、今川氏などの歴史資源の活用と経済の活性化を目指したまちづくりが求められています。

これまで、葵舟の運航や駿府ホリノテラスでの空間活用、東御門・巽櫓のリニューアル、歴史博物館の建設などを進めてきました。

4次総では、これまでの取組を発展させ、市民が静岡に誇りと愛着を持つとともに、徳川氏、今川氏を中心とした歴史資源を活用し、世界中から人が集まり駿府城公園周辺が賑わうことを目指し、取組を進めています。



海洋文化の地域づくり【清水都心】

清水港は駿府外港などの長い歴史を経て国際拠点港湾に発展、地域の経済と生活に貢献し、港を介して海に係る清水の海洋文化を育んできました。

これらの特色を活かしたまちづくりを進めるため、これまで、港湾整備や港のブランディング事業、客船による賑わい創出などを進めてきました。

4次総では、これまでの取組を発展させ、「駿河湾」や「清水港」を活かし、産業・研究・観光が生まれ高め合う「国際海洋文化都市」として、清水港周辺が賑わうことを目指し、取組を進めています。



まなびの文化の地域づくり【草薙・東静岡副都心】

静岡・清水2つの都心の中心に位置する「東静岡・草薙地区」にはグランシップや、多くの若者が訪れる「東静岡アート&スポーツ/ヒロバ」、常葉大学や静岡県立大学といった高等教育機関など、多様な“まなび”を経験できる地域資源が集積しています。

4次総では、この地域の特性を生かし、東静岡・草薙地区で、誰もが教育・スポーツ・芸術を体験できる機会を創出し、地域の賑わいを図るとともに、市域全体の“まなび”をけん引する地域を目指し、取組を進めています。



森林文化の地域づくり【オクシズ】

静岡市の約80%の市域を占める中山間地域は、南アルプスをはじめとする豊かな自然と人の営みが共存した貴重な地域であり、「オクシズ」の呼称で市民に親しまれてきました。また、オクシズは、お茶やわさび、みかんなどの農作物や心身を癒す温泉、伝統芸能など多様な地域資源を有しています。

4次総では、それらの地域資源をさらに磨き上げるとともに、都市と山村が支え合い、地域資源が循環する持続可能な中山間地域の実現を目指し、取組を進めています。



「健康長寿のまち」の推進

静岡市は、高齢化が急速に進んでおり、ひとり暮らし高齢者の増加や認知症などの問題の深刻化が懸念されています。一方でライフスタイルや食習慣の変化等により、生活習慣病などの疾病を抱える人が増えていることも指摘されています。

4次総では、世代を問わず、市民一人ひとりが健康に対する意識を高め、未来に向けて元気な静岡市民を増やすとともに、健康で長生きするための切れ目のない支援が受けられる環境を整えることで、「健康長寿のまち」の実現を目指し取組を進めています。



「まちは劇場」の推進

今の時代は、モノの豊かさからココロの豊かさへと人の価値観が変わりつつあります。静岡市には、人々の心を豊かにする大道芸、演劇、音楽などの文化が地域に根付いています。

4次総では、静岡市に根付いた『文化』を通じて、人と人とのつながりによる市民のシビックプライドの醸成やQOLの向上、賑わいの創出を促します。

また、市民1人ひとりの人生にスポットが当たる舞台としてのまちづくりをすすめ、市民の心を豊かに満たすことを目指し、取組を進めています。



「安全・安心のまち」の推進

近年、市民生活におけるリスクは多様化しています。世界的な気候変動に起因する甚大な自然災害、新型コロナウイルスなど感染症の流行、多くの子どもが犠牲となっている通学路での交通事故、コロナ禍で社会問題ともなった差別、偏見に至るまで、暮らしの中の様々なリスクをできる限り回避し、低減することができるまちづくりが求められています。

このため、4次総では、市民生活を脅かす様々なリスクへの対応がなされ、市民が安心感をもって暮らすことができる状態を目指し、取組を進めています。



(6) 分野別の取組

最後に、分野別の取組についてです。

「世界に輝く静岡」を実現するためには、重点的な政策である「(仮) 7つの柱」のみならず、市民の暮らし、事業者の経済活動、社会基盤整備などあらゆる分野に目を向け、多角的に取り組んでいく必要があります。

このため、基本計画において、10の「分野別の取組」を定め、4次総全体の下支えをしていきます。

あわせて、各分野の取組を推進するための基本認識として、「市民との協働」、「民間活力の導入」などの考えを持ち、取り組んでいきます。

〔10の分野〕

- ① 「観光・交流」分野
- ② 「農林水産」分野
- ③ 「商工・物流」分野
- ④ 「文化・スポーツ」分野
- ⑤ 「子ども・教育」分野
- ⑥ 「都市・交通」分野
- ⑦ 「社会基盤」分野
- ⑧ 「健康・福祉」分野
- ⑨ 「防災・消防」分野
- ⑩ 「生活・環境」分野

〔各分野の政策・施策を推進するための視点〕

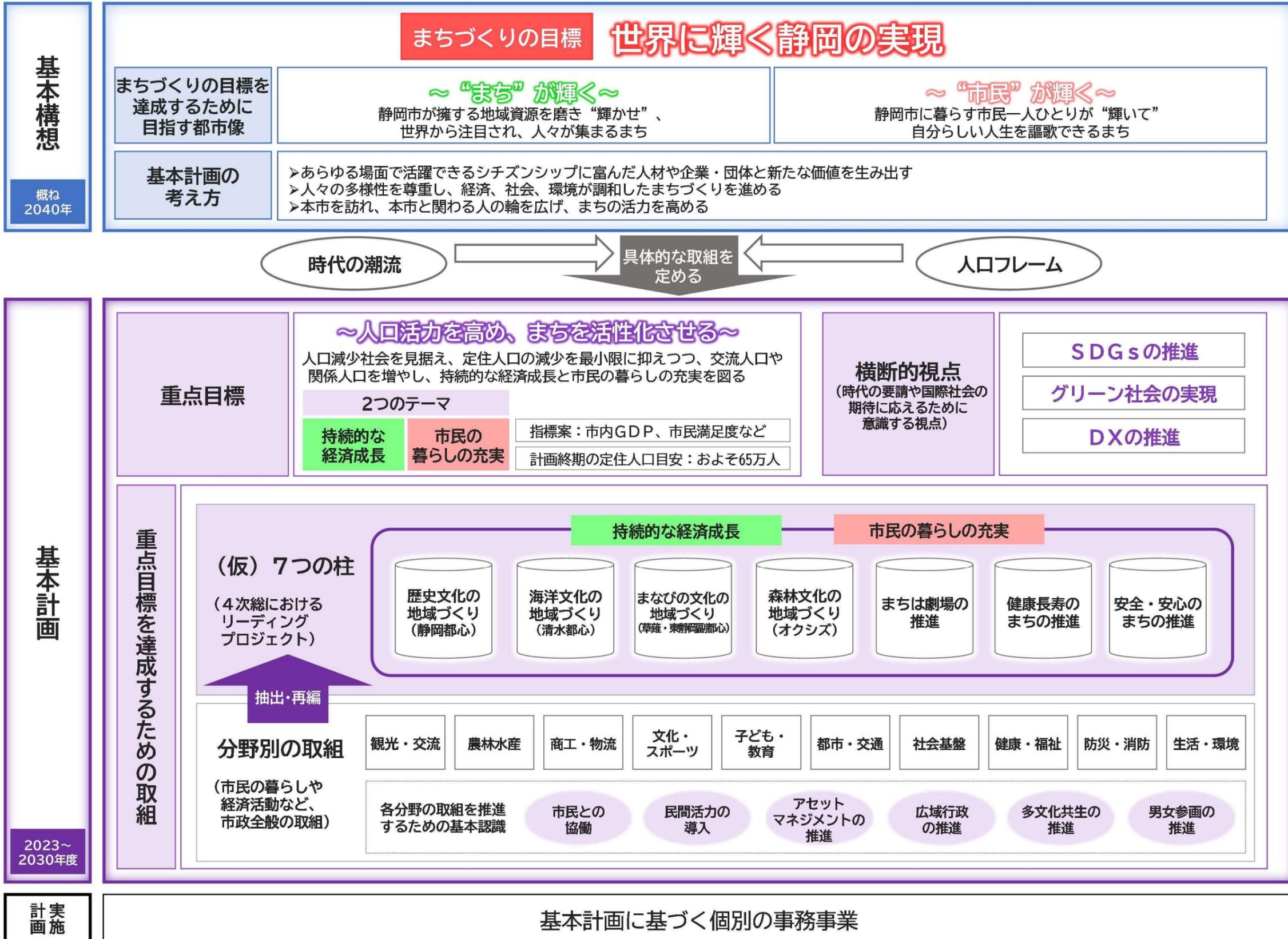
- ・ 市民との協働
- ・ 民間活力の導入
- ・ アセットマネジメントの推進
- ・ 広域行政の推進
- ・ 多文化共生の推進
- ・ 男女参画の推進

※10の分野は、3次総の考え方を継承しています。

※10の分野の順番は、取組の優先順位を示すものではありません。

〔(仮) 7つの柱・分野別の取組の関係性イメージ〕





参考 用語集

頁数	語句	意味
2	財政シミュレーション	今後の財政運営について長期的な視点で、将来の財政収支の傾向や財政的特徴を示すもの。
2	地方版総合戦略	まち・ひと・しごと創生法に基づき、国の「総合戦略」を勘案し、都道府県及び市町村において策定するよう努める将来にわたって「活力ある地域社会」の実現と、「東京圏への一極集中」の是正を共に目指す計画
2	(総合戦略)	①地方における安定的な雇用を創出する②地方への新しいひとの流れをつくる③若年者の結婚や出産、育児に関する希望を叶える④時代に合った地域をつくり、地域と地域を連携するという4つの方針を掲げる国の地方創生に関する戦略
2	(地方創生)	少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目指すもの
3	voice of しずおか	静岡市の住民基本台帳から無作為に抽出された市民に案内を送付し、申し込みをした参加者が、静岡市の様々な課題について話し合う討議会の場。
3	市長ミーティング室	市長自らが市内の企業、教育機関、市民団体の活動場所等を訪問し、意見等を聞くことで、「課題解決」や「新たな施策展開」に繋げる静岡市の取組。
5	CCRC	高齢者が安心して健康で元気に暮らし続けることができ、多世代のための「担い手となる」ことを基本とする仕組みが整ったまちを指す。
5	健康寿命	平均寿命から寝たきりや認知症など介護状態の期間を差し引いた期間でWHOが提唱した新しい指標。
5	待機児童	保育の必要性が認定された子育て中の保護者が、保育所、学童保育施設等に入所申請をしているにもかかわらず、入所できず、入所待ちしている状態の児童。
6	シチズンシップ	市民性とも訳され、より良い社会の実現のために積極的に周囲と関わろうとする意欲や行動力のこと。
7	AI	人工知能 (Artificial Intelligence) の略。コンピュータが人間と同じように学習することで、独自発展を図ること。
7	IoT	モノのインターネット (Internet of Things) の略。自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出す。
7	SDGs	持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) の略。先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つのバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標。貧困や飢餓から環境問題、経済成長やジェンダーなど、すべての人が豊かさを追求しながら地球環境を守る社会を目標にしている。

頁数	語句	意味
7	アセットマネジメント	計画的に公共施設の整備や維持管理を行い、施設の長寿命化や利活用促進、統廃合を進めることで将来の負担軽減を図り、健全な都市経営を維持する考え。
7	南海トラフ地震	駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として概ね100～150年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震。前回の南海トラフ地震が発生してから70年以上が経過し、次の発生の切迫性が高まっている。
7	グローバル化	資本や労働力の国境を越えた移動が活発化するとともに、貿易を通じた商品・サービスの取引や、海外への投資が増大することによって世界における経済的な結びつきが深まること。
7	デジタル庁	デジタル・トランスフォーメーションの推進や、デジタル時代の官民のインフラの早期整備などを目指し、2021年9月に設置された省庁。
7	パリ協定	2015年にパリで開かれた、温室効果ガス削減に関する国際的取り決めを協議する「国連気候変動枠組条約締約国会議(通称COP)」で合意された2020年以降の気候変動問題に関する、国際的な枠組み。
8	人口フレーム	市町村などにおける将来人口の目標値や予測値を表したもの。
8	(人口の) 社会増減	人口動態に関する統計で、他都市からの転入及び転出による人口の増減
9	QOL	生活の質などと訳される (Quality of Life) の略。生きる上、生活する上での満足度の指標のひとつ。
9	SDGs ハブ都市	国連が選定する、SDGsの普及、達成に向け、世界の都市をリードし情報発信する役割を担う都市。本市は2018年7月、アジア初のSDGsハブ都市に選定。
9	SDGs 未来都市	SDGsの理念に沿った取組を推進する都市等から、特に経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市として、内閣府が選定した都市。
9	WLB (ワークライフバランス)	人生の各段階において、仕事や家庭、地域活動などのさまざまな活動について、自らの希望に沿う形でバランスが取れた状態。
9	グリーン社会	再生可能エネルギー等を活用し、脱炭素社会を実現するとともに経済成長が両立されている社会のこと。
9	デジタルトランスフォーメーション(DX)	進化したIT技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革させるという概念。
9	市内総生産額	1年間に市内で行われた各経済活動部門の生産活動(農業、製造業などのほか、卸売・小売業、金融・保険業などのサービス生産等を含む)によって新たに生み出された付加価値の額

【調査内容】○調査対象 18歳以上の市民(無作為抽出) 送付数 3,000人(回収数:1,379人、46.0%) ○調査方法 郵送調査・自記式アンケート
 ○設問内容 ①生活全体に関する項目 ②市の施策の満足度・将来の重要性 ③行政サービス維持に向けた取組
 ④市民負担と市民サービスのあり方 ⑤デジタル技術を活用した行政サービス等

【1.生活全体に関する項目のまとめ】

- ・多くの市民は概ね静岡市での暮らしに満足しており、特に、「食生活」や「住生活」は満足度が高い。
- ・全国調査と同様に、「所得・収入」や「資産・貯蓄」に不満感があり、特に若年層の不満感が高いものの、県外出身者の満足度は比較的高い。
- ・「レジャー・余暇生活」については不満感が高く、特に30代、40代の女性が不満を感じている。
- ・「心の豊かさを感じる時がいつか」という設問では、ゆったりと休養しているとき(56.8%)、家族団らんのとき(52.1%)、趣味やスポーツに熱中しているとき(49.9%)、友人や知人と雑談・会合しているとき(45.7%)であり、仕事に打ち込んでいるとき(17.3%)は全国よりも12.3ポイント低い。

【前回調査比較(平成25年)】

- ・新型コロナウイルスによる影響からか、食生活やレジャー・余暇生活の満足度が減少したものの、自己啓発・能力向上の満足度が高まっている。
- ・「仕事に打ち込んでいるとき」に心の豊かさを感じる割合が減少し、趣味やスポーツ、休養しているときの割合が増加している。

【年代別比較 (30代以下と40代以上)】

- ・若年層は所得・収入、資産・貯蓄に関して不満を感じておりいるものの、食生活や住生活の満足度は高く、生活全体としては若年層の方が中高年齢層よりも満足している。

➔ 静岡市民も「所得や収入」、「資産・貯蓄」を良くしたいとの思いもあるものの、全国と比較すると「レジャー・余暇生活」を充実させたいとの思いが強く、休養や家族や友人との時間、趣味やスポーツ等に心の豊かさを感じていることから、ワークライフバランスのとれた生活を求めている。

【2.市の施策に関する項目のまとめ】

安全安心	災害の激甚化やコロナによって、「安全安心」に対する意識が高まっているが、通常の医療体制や生活インフラの維持等については概ね満足している。
くらし	子どもや高齢者、障がい者支援等の福祉関連とともに、環境保全や地球温暖化対策等の持続可能な自然環境を維持することについても重要性が高いと認識している。
活気・賑わい	安全安心、くらし面の施策と比較すると満足度が低く、特に企業活動の活性化や中心市街地活性化等の経済活性化に積極的に取り組むべきであると感じている。

【前回調査比較(平成25年)】

- ・災害の激甚化や新型コロナウイルスの影響を受け、「自然災害等への事前対策・対応」や「芸術や文化に親しむ機会・施設の充実」に対する現状への満足度が減少している。

【年代別比較 (30代以下と40代以上)】

- ・生活全体に対するアンケート同様に若年層の方が全体的に満足度が高い傾向にあり、若年層は子育て、中高年齢層は高齢者支援、道路のバリアフリーなど、ライフステージにあったニーズが確認される。
- ・若年層は「安全安心に関する項目」とともに「移住・定住を促進することで、人口・活力を維持する取組み」に重要性を感じている。

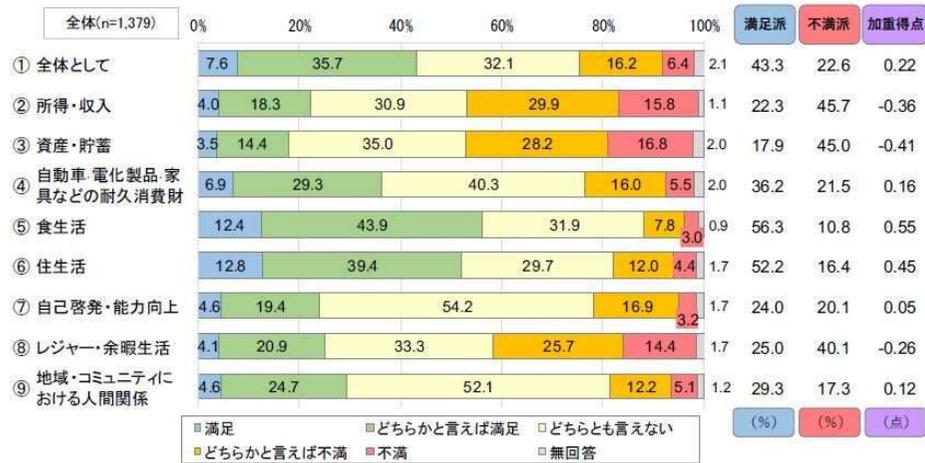
➔ 災害の激甚化や新型コロナの影響を受け「安全安心」、市民生活に直結することもや高齢者などの「福祉施策」、世界的な脱炭素に向けた進展やSDGsの浸透による「持続可能な自然環境の維持」、企業活動や中心市街地活性化等の「経済活性化」に対するニーズが高いことが伺える。

4 (1) 市民アンケート結果最終報告 (生活全体)

資料5-2

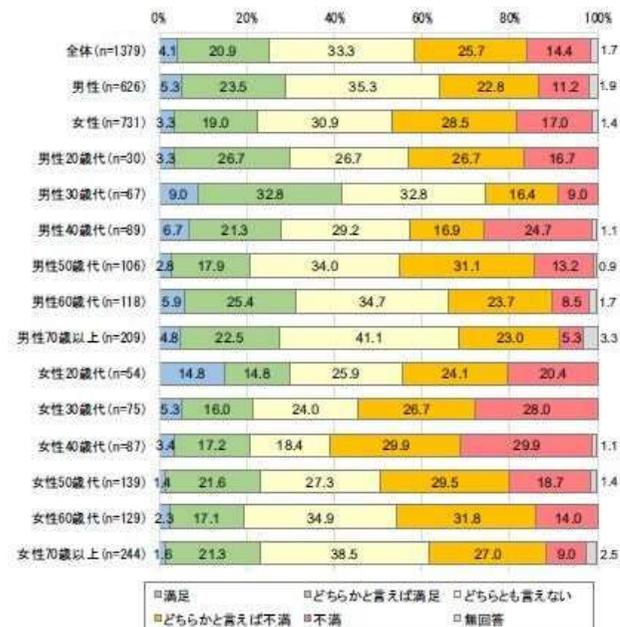
【調査内容】 ○調査対象 18歳以上の市民 (無作為抽出) ○送付数 3,000 人 (回収数 : 1,379人、46.0%) ○調査方法 郵送調査・自記式アンケート

○問1 現在の満足度：あなたは、現在の生活にどの程度満足しているか率直にお答えください。



全体としては満足しており、特に⑤食生活、⑥住生活については多くの市民が満足しているものの、②所得・収入、③資産・貯蓄、⑧レジャー・余暇生活に不満を持っている市民が多い。全国の調査と比較すると、静岡市民は③資産・貯蓄については、「不満・どちらかと言えば不満」が 9.3ポイント低いものの、⑧レジャー・余暇生活が6.6ポイント高い。

⑧レジャー・余暇生活(年齢別)

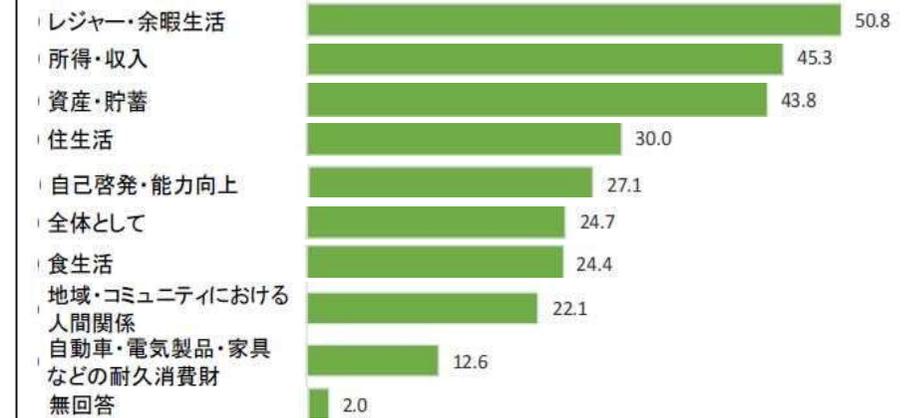


男性の満足派は28.8%、不満派は34.0%、女性では満足派が22.3%、不満派が45.9%と特に不満派の割合が男性より11.5ポイント高くなっている。

年代別でみると、男性30歳代では満足派が41.8%で最も高く、不満派は25.4%で最も低い。

女性では20歳代から40歳代までは、年代が高くなるほど不満派が増加し、女性40歳代の59.8%をピークとし、50歳代を過ぎると不満派が徐々に減少している。男性においては20歳代を除くと、50歳代をピークとした同様の傾向がみられる。

○問2 あなたは、今後の生活において、特にどのような面を充実させたいと思いますか。この中から、いくつでもあげてください。



全体では「レジャー・余暇生活」が50.8%で最も高かった。次いで「所得・収入」が45.3%、「資産・貯蓄」が43.8%で上位となっている。4位の「住生活」から8位の「地域における人間関係」までは20%台から30%と、ほぼ横並びとなっている。9位の「耐久消費財」は12.6%と、他の項目より低い割合となっている。

【まとめ】

- 多くの市民は概ね静岡市での暮らしに満足しており、特に、「食生活」や「住生活」は満足度が高い。
- 全国調査と同様に、「所得・収入」や「資産・貯蓄」に関する不満感がある。年代別では特に若年層の不満感が高いものの、市全体としては県外出身者の満足度が比較的高い。
- 全国調査と比較しても、「レジャー・余暇生活」については不満感が高く、特に30代、40代の女性が不満を感じている。
- 問3で「心の豊かさを感じる時がいつか」という設問では、ゆったりと休養しているとき(56.8%)、家族団らんのとき(52.1%)、趣味やスポーツに熱中しているとき(49.9%)、友人や知人と雑談・会合しているとき(45.7%)と、なっており、仕事に打ち込んでいるとき(17.3%)は全国よりも12.3ポイント低い。

➡ 「所得や収入」、「資産・貯蓄」を良くしたいとの思いがあるものの、「レジャー・余暇生活」を充実させたいとの思いが強い。
また、休養や家族や友人との時間、趣味やスポーツ等に心の豊かさを感じており、ワークライフバランスのとれた生活を求めていると読み取れる。

問4 静岡市の施策について、「A 現状への満足度」と「B 今後の重要度」別に、それぞれ「1 満足(重要)」から「5 不満(重要でない)」までのいずれかでお答えください。

【安全安心面の施策】

- ① 自然災害への事前対策(インフラ強化、施設の耐震化等の減災対策)
- ② 自然災害や火災等発生時の対応(初期活動、避難、災害復旧など)
- ③ 自然災害・感染症などに対する医療体制の充実
- ④ 通常時の医療体制の充実
- ⑤ 道路や上下水道、ごみ処理施設等の生活に欠かせない社会インフラの維持管理
- ⑥ 暴力や犯罪などからの安全対策

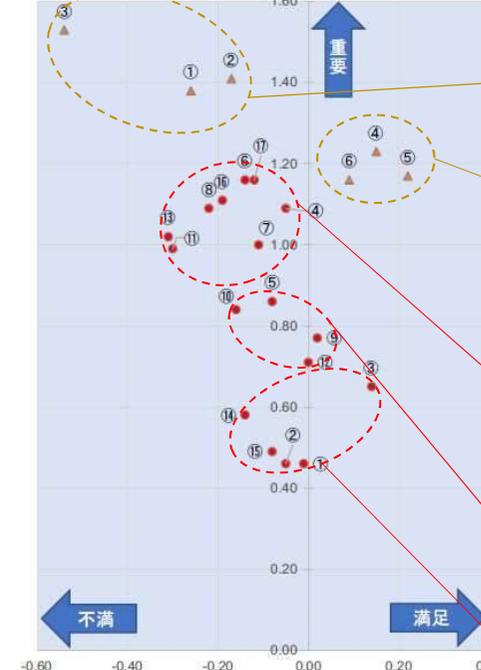
【くらし面の施策】

- ① 市民が芸術や文化に親しむ機会・施設の充実
- ② 市民がスポーツをする・観戦等で楽しむ機会・施設の充実
- ③ 生涯学習、社会教育施設(図書館等)の充実
- ④ 子育て支援施設(こども園等)、子育て支援策、義務教育の充実
- ⑤ 高等教育機関(大学・専門学校)の充実
- ⑥ 高齢者施設・サービス等の充実
- ⑦ 障がい者(児)施設・サービス等の充実
- ⑧ 子ども、高齢者、障がい者(児)を地域で見守る体制の構築
- ⑨ 快適な生活環境(住宅や景観等)の維持・充実
- ⑩ 公園や歩道空間など公共空間の充実
- ⑪ 公共交通機関や徒歩・自転車で快適に移動できるまちづくり
- ⑫ 自動車で広域的に移動できる幹線道路の充実
- ⑬ 道路や施設のバリアフリー化推進
- ⑭ 年齢や性別、文化や言語の違いを超えて、活躍できる環境づくり
- ⑮ 地域コミュニティの充実
- ⑯ 地球温暖化対策・ごみの削減等による持続可能な社会の構築
- ⑰ 南アルプスや清流、駿河湾等の豊かな自然環境の維持

【活気・賑わい面の施策】

- ① 海外の国や地域・世界の人との交流促進
- ② 自然資源や歴史資源等を活かし、世界中から人を呼び込む取組
- ③ 文化芸術やスポーツを活かし、世界中から人を呼び込む取組
- ④ 大道芸W杯のようなイベントで世界中から人を呼び込む取組
- ⑤ 起業家や勤労者が能力を發揮できる環境づくり
- ⑥ 企業の支援や誘致等で雇用を維持・拡大する取組
- ⑦ 移住・定住を促進し、人口・活力を維持する取組
- ⑧ 中心市街地を活性化する取組
- ⑨ 歴史を活かしたまちづくり
- ⑩ 静岡市の歴史を市内外に発信し後世に繋ぐ取組
- ⑪ 海や港を生かしたまちづくり
- ⑫ 市域の約8割を占める中山間地域(オクシズ)の維持・振興
- ⑬ 1次産業(農林水産業)の競争力強化
- ⑭ 静岡ならではの特産品や地場産業のブランド化

【安全安心面の施策・くらし面の施策】



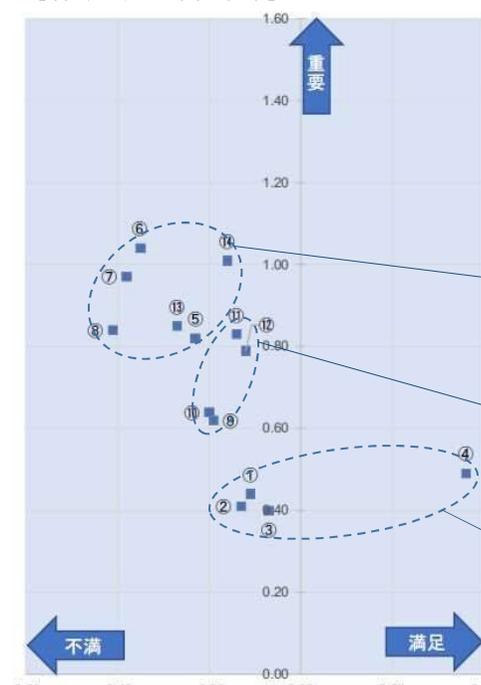
【安全安心面の施策】

安全安心面の施策がすべての施策の中で、最も将来の重要度が高いと評価されている。
 自然災害の事前対策や発災時の対応、災害や感染症流行時の救急医療体制等、**コロナや災害の激甚化もあり、不満かつ今後重要性が高いものと分類される。**
 通常の医療体制や生活に欠かすことが出来ないインフラ、暴力や犯罪からの安全対策は現状に満足しており、将来の重要性は高いと感じている。

【くらし面の施策】

安全安心、活気賑わいと比較すると、満足度が中央値に寄っている。
子育て、高齢者、障がい者等に関する福祉施策及び公共交通、道路のバリアフリー等の日常生活に必要不可欠なものの満足度が低いが、**将来の重要性が高い**と感じている。また、南アルプスや駿河湾等の保全や地球温暖化対策等の環境面の施策も同様に重要と捉えている。
 生活の利便性を向上させる、幹線道路や公園等の整備とともに高等教育機関の充実が今後の重要性の中心に位置し、幹線道路、住環境については概ね満足している。

【活気・賑わい面の施策】



【活気・賑わい面の施策】

活気・賑わい面については、大道芸ワールドカップ等の世界中から人を呼び込む取組を除き、**安全安心面、くらし面の施策と比較し、満足度が低い。**
経済活性化に資する施策が全体の中でも最も満足度が低く、将来の重要性が高いグループがとなっている。また、中心市街地の活性化、移住定住の促進、企業支援や誘致はすべての施策の中でも低い満足度のある。
 歴史や海洋、オクシズなどを活かしたのまちづくりについては、経済活性化施策に次いで重要性が高いと考えられており、なかでも海や港、中山間地といった自然資源を活かしたまちづくりに重要性を感じている。
 世界中から人を呼び込む取組は、比較的満足度は高いものの、コロナの影響もあってか、将来の重要性は低くなっている。大道芸W杯の満足度が高いからかイベントで世界から人を呼び込む取組は高い満足度にある。

問5 厳しい財政状況のなか、これからも必要な行政サービスを維持していくための取組として、重視すべきことを、選択肢の中から優先順位の高いものを3つまで選び、番号でお答えください。



優先順位の1番目から3番目までを積み上げた結果(以降「積み上げ結果」とする)では、「積極的で分かりやすい行政情報の提供」が53.1%で最も高く、次いで「職員の意識改革、人材育成」が49.9%、「民間活力の活用」が42.9%となっている。

なお、積み上げ結果については、1番目から3番目までの延べ回答数を回答者数で割っているため、1番目から3番目の割合の合計と一致しないことがある。

積み上げ結果について性別でみると、男性では「職員の意識改革・職員の削減」が54.2%(女性では46.9%)で最も高く、女性では「積極的で分かりやすい行政情報の提供」が59.6%(男性では46.2%)で最も高かった。

積み上げ結果について年代別でみると、「民間活力の活用」は男性50歳代で59.4%、女性30歳代で57.3%と、他の年代では3~4割台となっている中で高くなっている。

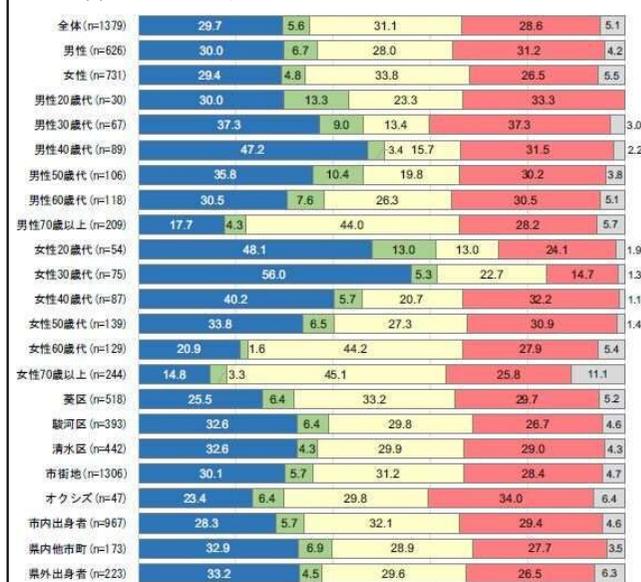
問6 市民負担と行政サービスのあり方についてどのようにお考えになりますか。あなたのお考えに最も近いものを1つお答えください。



- 行政サービスが充実するならば、市民の負担(税金・使用料など)が増えてもよい
- 行政サービスを受ける人の負担を増やすべきで、市民全体の負担を増やすべきでない
- 市民の負担が増えるのなら、現在の行政サービスを維持しなくてもよい
- 市民の自主的な活動や民間企業にまかせることで、行政サービスを減らし、市民の経済的負担を減らしてほしい
- いわゆるハコ物建設などの公共事業を減らし、他の行政サービスを充実させてほしい
- その他
- 無回答

全体では「いわゆるハコ物建設などの公共事業を減らし、他の行政サービスを充実させてほしい(以降『ハコ物以外を充実』とする)」が40.7%で最も高く、次いで「市民の自主的な活動や民間企業にまかせることで、行政サービスを減らし、市民の経済的負担を減らしてほしい(以降『市民や民間にまかせる』)」が25.7%となっている。性・年代別でみると、男性20歳代と女性30歳代では「市民や民間にまかせる」がトップとなっている。また、男性20・30歳代では「行政サービスを受ける人の負担を増やすべきで、市民全体の負担を増やすべきでない」が2割以上と、他の年代より高い。「ハコ物以外を充実」は、男女とも年代を追うごとに割合が増えていく傾向にある(女性70歳以上を除く)。エリア別でみると、オクシズでは「市民や民間にまかせる」が46.8%と、市街地(25.1%)の倍近い割合となっている。

問7 デジタル技術を活用した行政サービスの提供では、どのような視点が重要だと考えますか。1つだけお答えください。



- 行政手続きのオンライン化等の利便性向上
- 公共施設や公共料金等の電子決済化
- 様々なサービスの情報の効率的な提供
- デジタル技術を活用した業務の効率化
- 無回答

全体では「様々なサービスの情報の効率的な提供(以降『情報の提供』とする)」が31.1%、「行政手続きのオンライン化等の利便性向上(同『行政手続きの利便性』)」が29.7%、「デジタル技術を活用した業務の効率化(同『業務の効率化』)」が28.6%と、「公共施設や公共料金等の電子決済化(5.6%)」を除く3項目でほぼ等分されている。

性・年代別でみると、女性20・30歳代を除く各年代では「業務の効率化」が3割前後で一定の割合となっているが、「行政手続きの利便性」と「情報の提供」は年代によって偏りがある。「情報の提供」は男性では50歳代以下、女性では40歳代以下で1~2割と低いが、男性60歳代以上と、女性50歳代以上では、年代を追うごとに増加している。「行政手続きの利便性」は男性では40歳代の47.2%をピークに、女性では30歳代の56.0%をピークに、それぞれ年代を追うごとに低くなっている。

未定稿

**第4次静岡市総合計画の策定に向けた
データ調査及び分析業務**

【報告書】

令和3年12月

静岡市 企画局 企画課

目 次

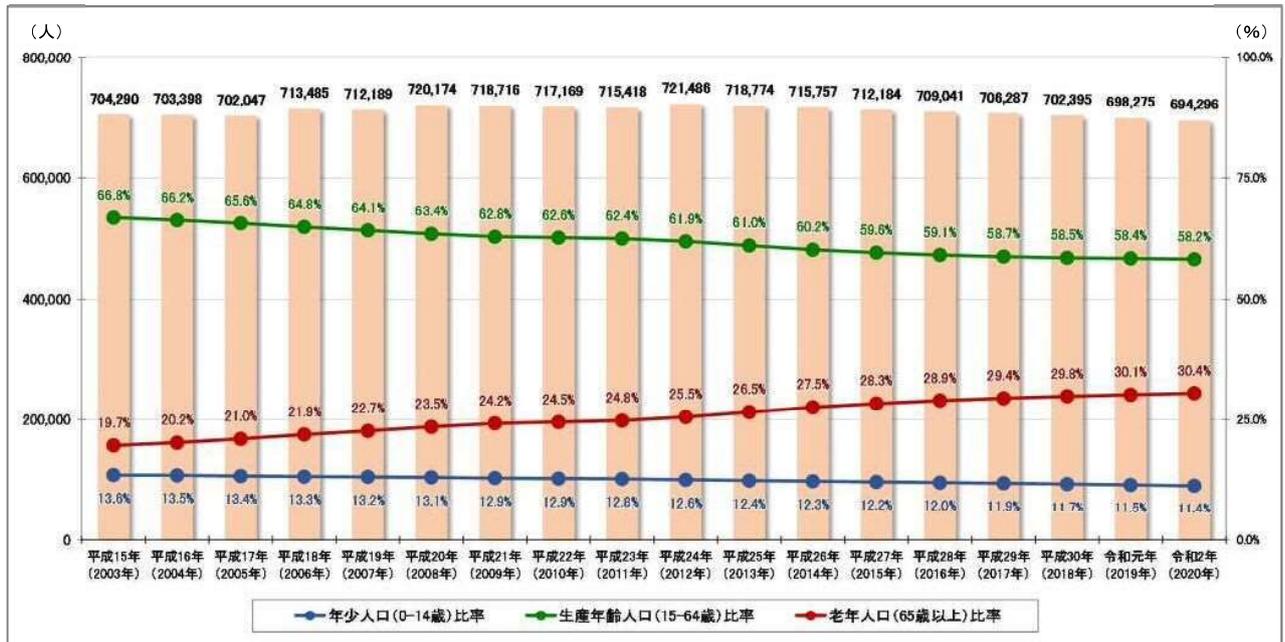
1. 人口動態.....	1
2. 財政.....	25
3. 観光・交流.....	32
4. 産業.....	37
5. 農林水産業.....	47
6. 芸術文化・スポーツ	55
7. 子育て	60
8. 教育.....	67
9. 都市・交通.....	81
10. 健康・福祉.....	86
11. 防災.....	97
12. 環境.....	102
13. 市民生活.....	107
14. 自治・行政.....	112

1. 人口動態

1-1. 人口の推移

- ◆ 本市の人口は令和2年12月31日時点で694,296人である。平成2年をピークに人口減少に転じており、令和元年に初めて70万人を下回った。
- ◆ 年少人口、生産年齢人口の減少と老年人口の増加により、少子高齢化が進行している。

図1-1. 人口の推移

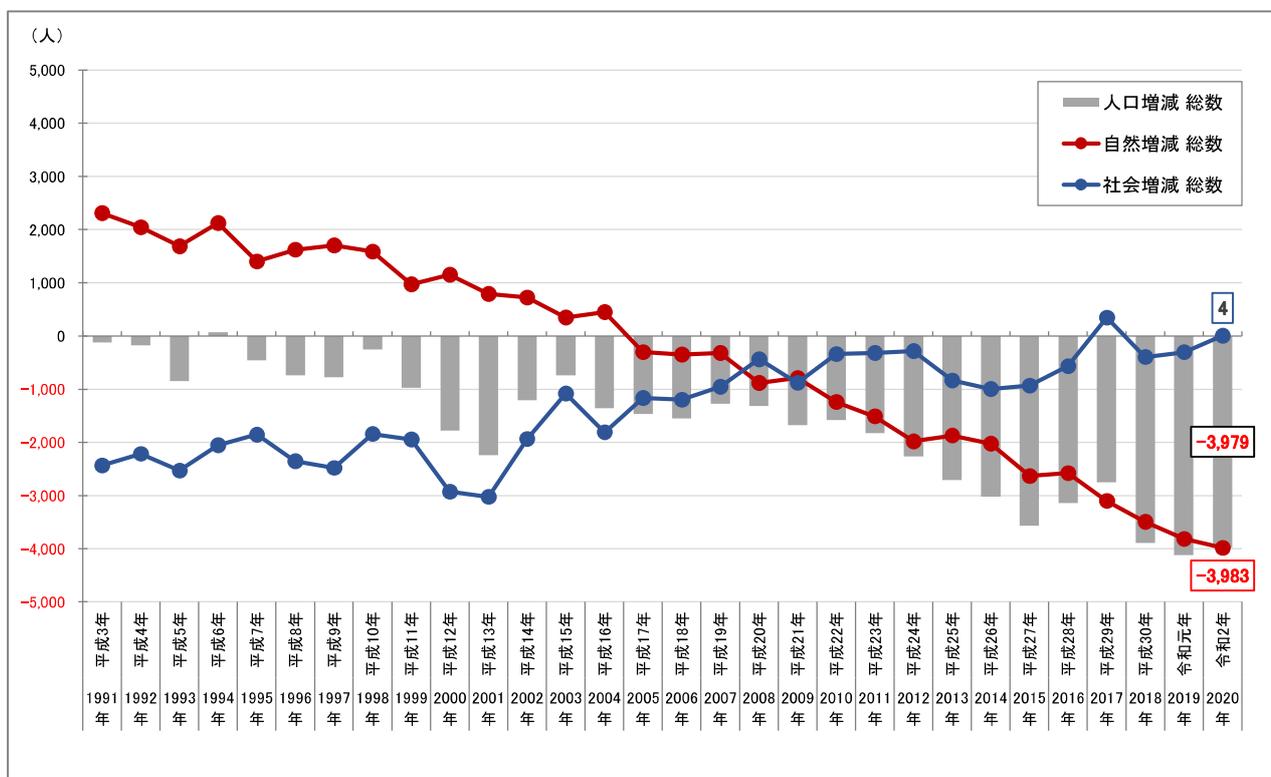


【出典】静岡市統計書 ※旧蒲原町、旧由比町を除く

1-2. 人口動態（自然増減、社会増減）

- ◆ 自然増減は少子高齢化社会の進行に伴う出生数の減少、死亡者数の増加により急速に減少し続けており、令和2年には▲3,983人となった。
- ◆ 社会増減は平成19年以降増加傾向にあり、平成29年、令和2年には転入者数が転出者数を上回っている。
- ◆ 「平成27年市区町村別生命表」(厚生労働省)によると、本市の平均余命は、男性が80.9歳、女性は87.1歳。団塊世代は、男性は2028年、女性は2034年に平均余命年齢に達するため、死亡数は、増加傾向が続くことが予想される。

図1-2. 人口動態



【出典】静岡市統計書 ※旧蒲原町、旧由比町を除く

1-3. 出生数及び死亡数

- ◆ 出生数は平成29年に5,000人を下回って以降、減少傾向が続いており、死亡数は高齢者の増加に伴い増加し続けている。
- ◆ 葵区、清水区では自然減のペースが速まっている。

図1-3(1). 自然動態(静岡市全域)

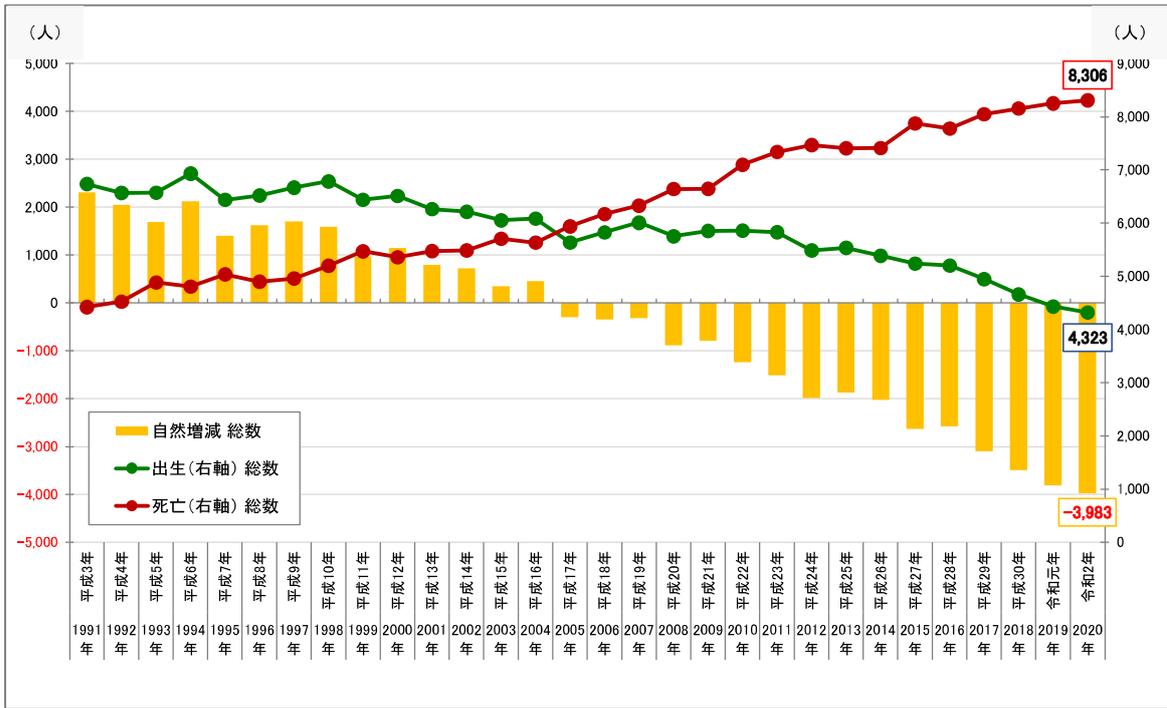
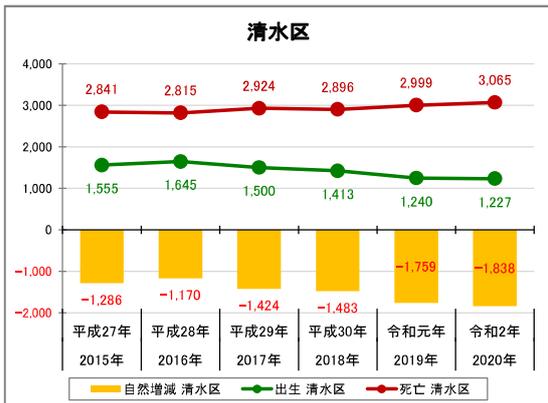
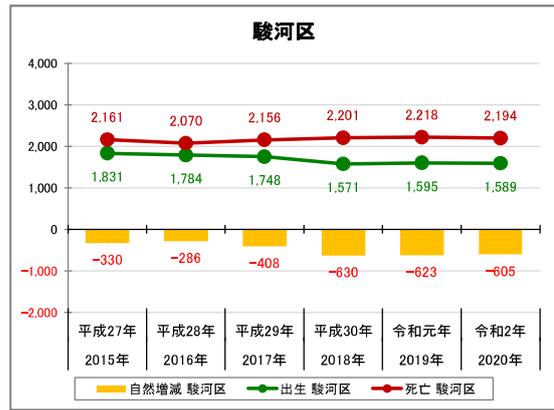
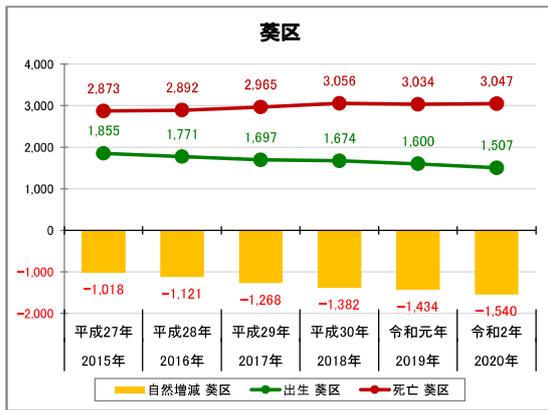


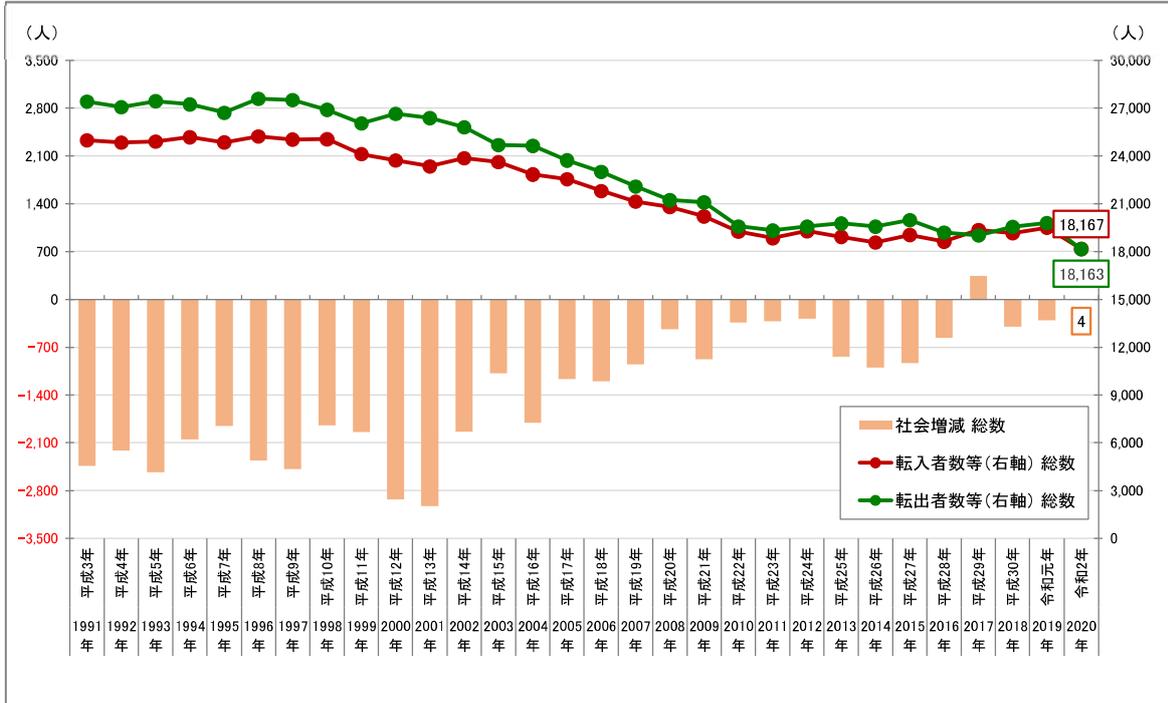
図1-3(2). 自然動態(区別)



1-4. 転出数及び転入数（静岡市全域・区別）

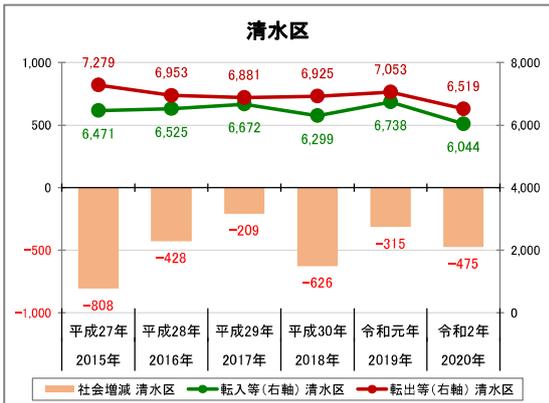
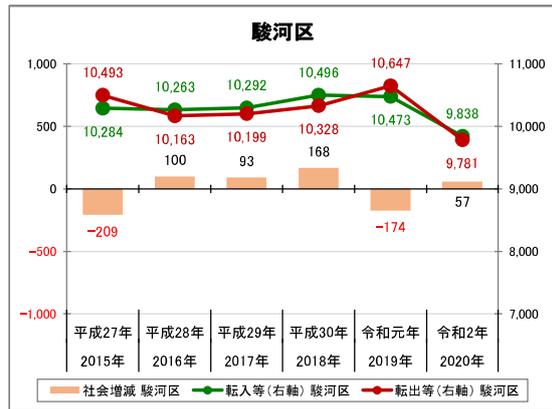
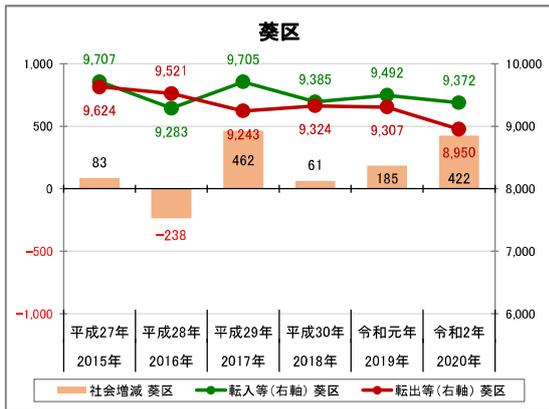
- ◆ 近年、転出超過が続いていたが、平成29年、令和2年には転入超過となっている。
- ◆ 葵区、駿河区ともに転入超過の傾向にあるが、清水区では転出超過が続いている。

図1-4(1). 社会動態（静岡市全域）



【出典】静岡市統計書 ※旧蒲原町、旧由比町を除く

図1-4(2). 社会動態（区別）

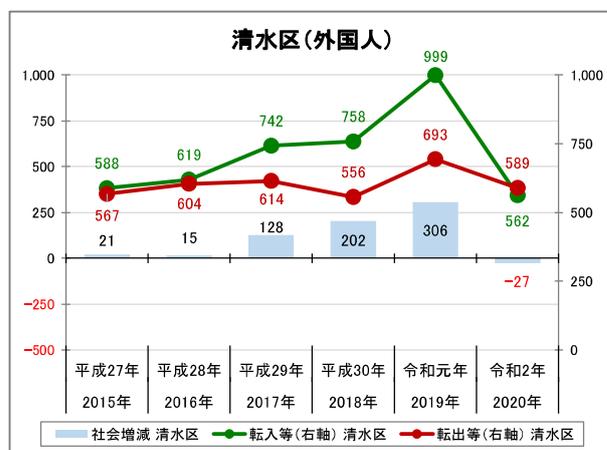
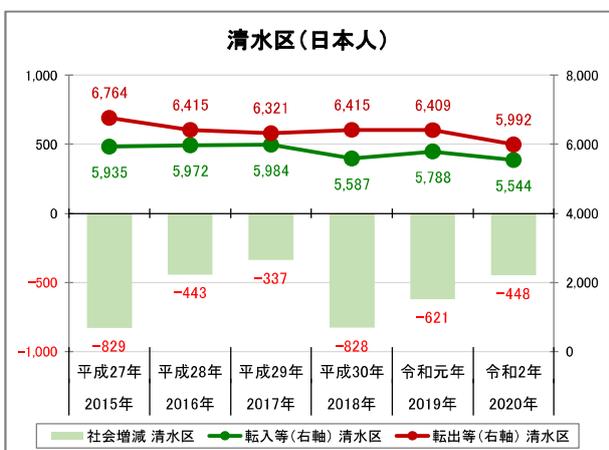
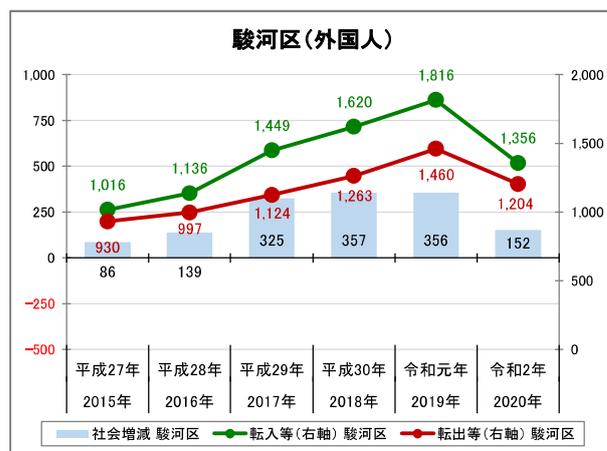
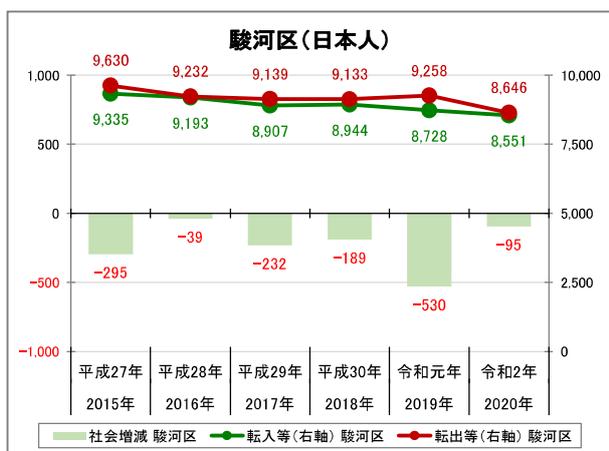
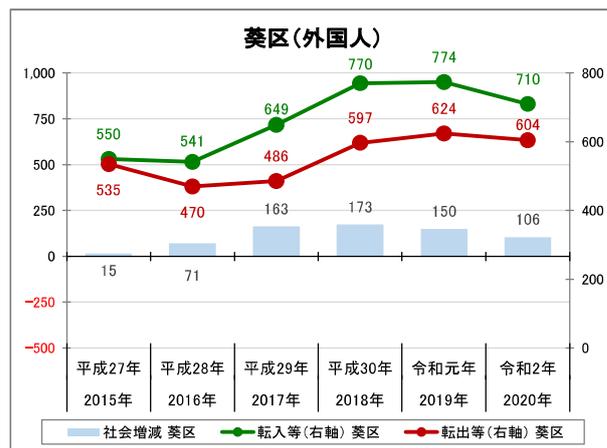
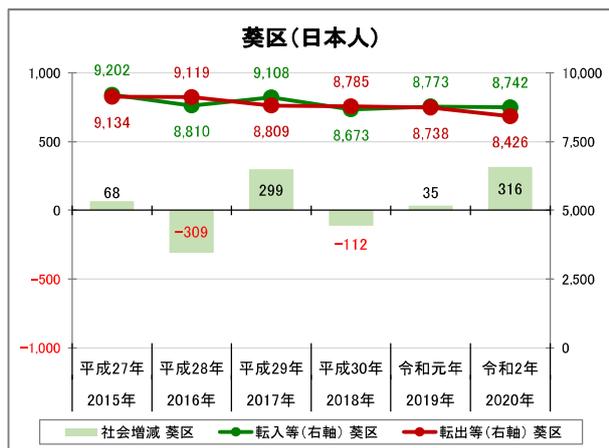


【出典】静岡市統計書 ※市内区間転入・転出を含む値

1-4. 転出数及び転入数（日本人・外国人別）

- ◆ 駿河区、清水区において、日本人の転出超過による社会減が進んでいる。
- ◆ 市内全域で外国人人口が増加しており、中でも駿河区での増加が顕著である。

図1-4（3）。社会動態（区別/日本人・外国人別）



【出典】静岡市統計書 ※市内区間転入・転出を含む値

1-5. 年齢5歳階級別の転入・転出状況（令和元年度）

- ◆ 10歳代後半から30歳代にかけて特に転出・転入が多く、進学や就職、結婚等による人口移動と考えられる。
- ◆ 清水区では、20～24歳の転出が顕著である。
- ◆ 駿河区では、10歳代後半から20歳代前半にかけて転入超過となっており、大学や短大が数多く立地していることが影響していると見られる。

図1-5(1). 年齢5歳階級別の社会動態

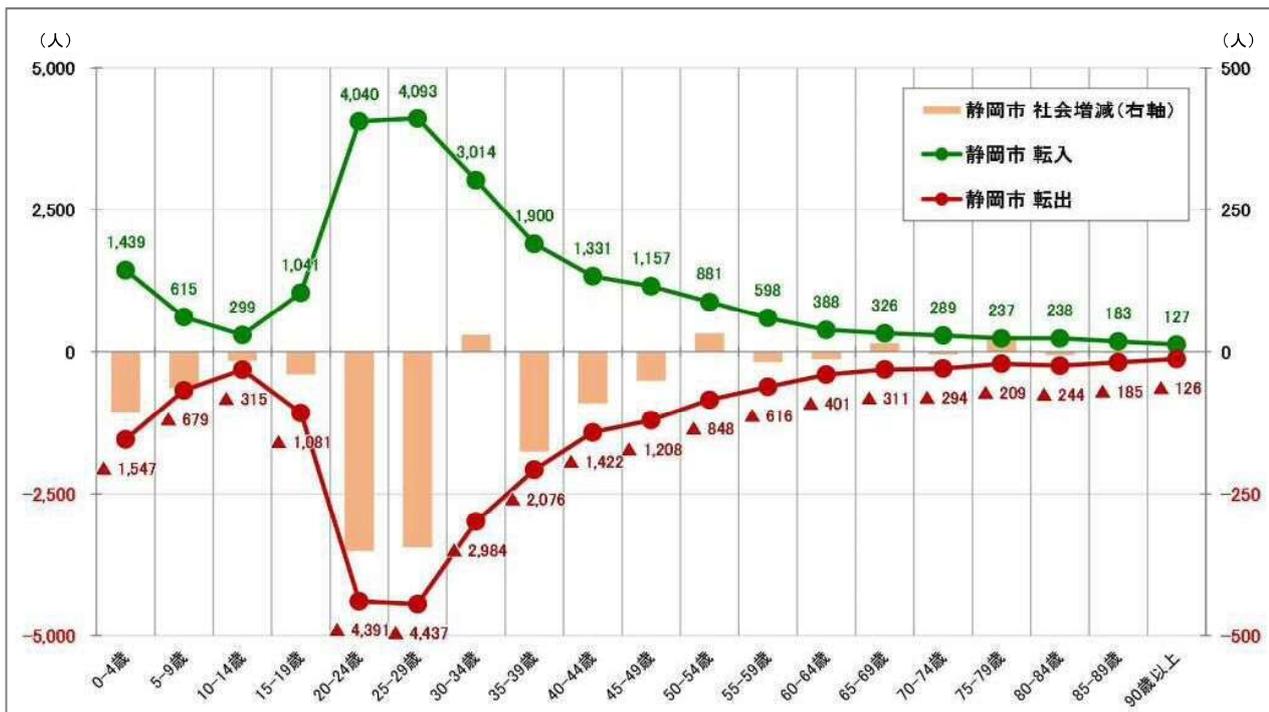
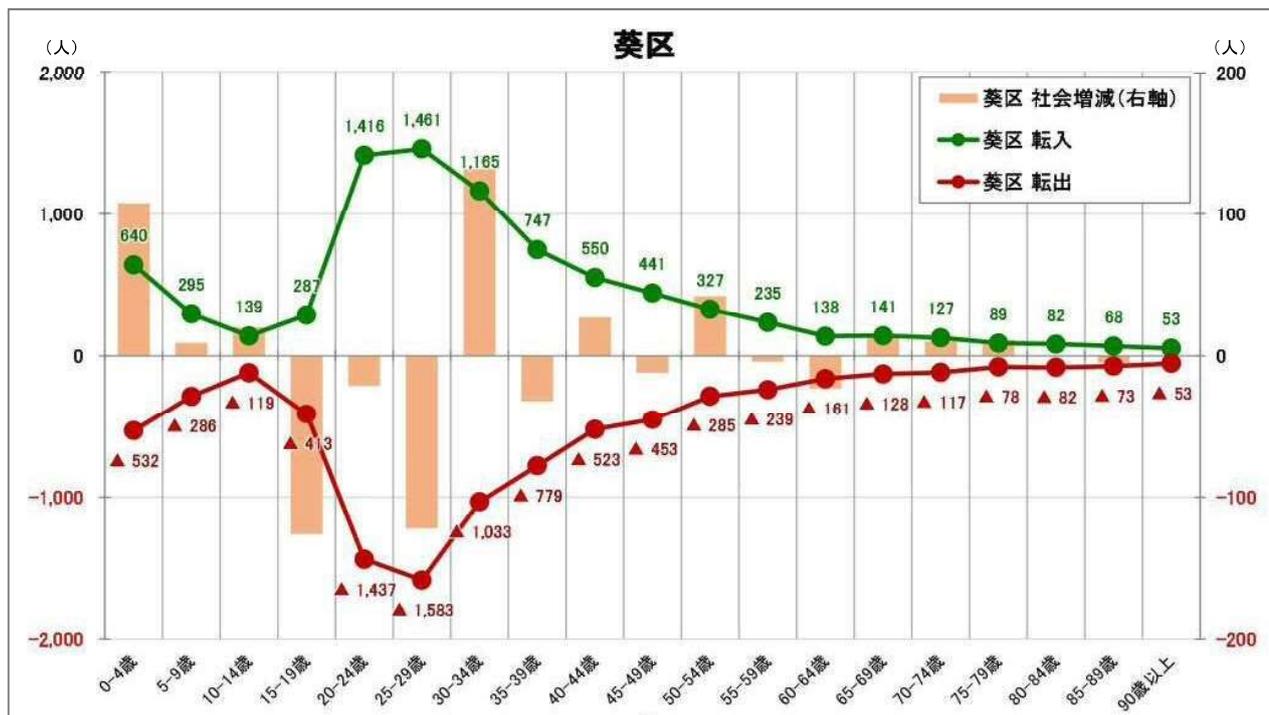
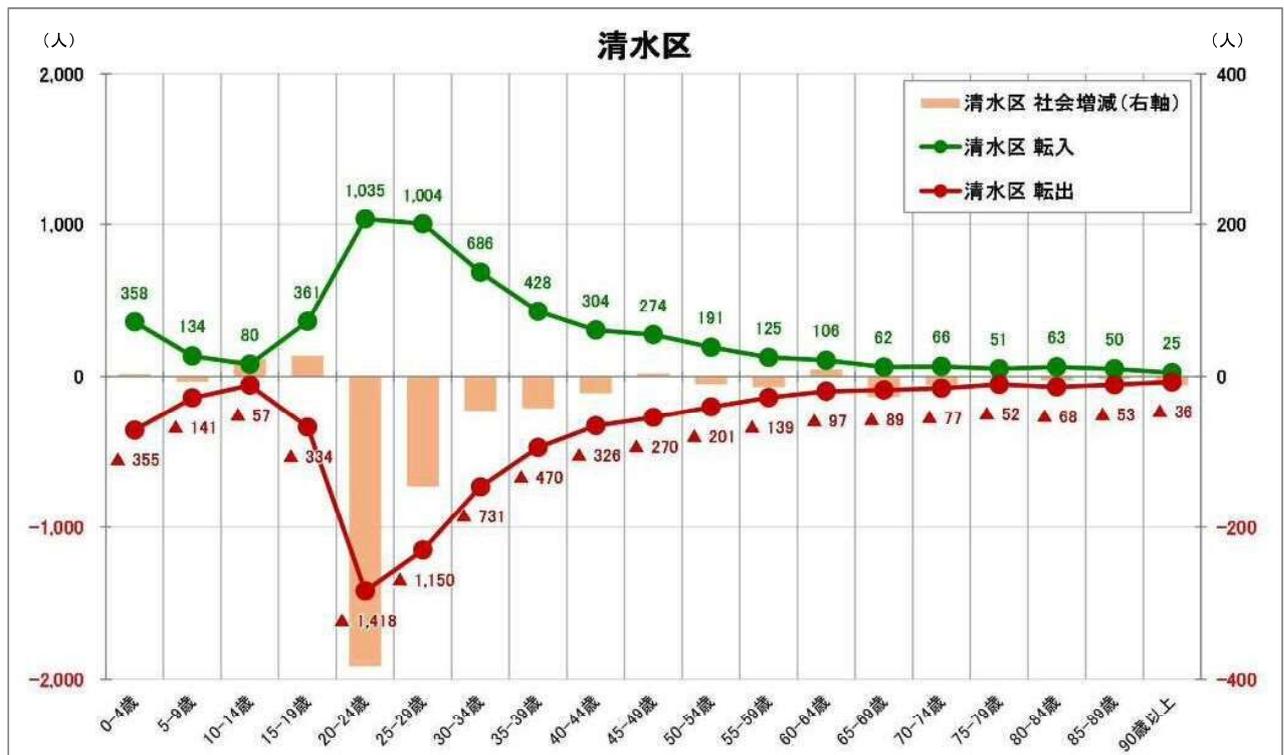


図1-5(2). 年齢5歳階級別の社会動態(区別)



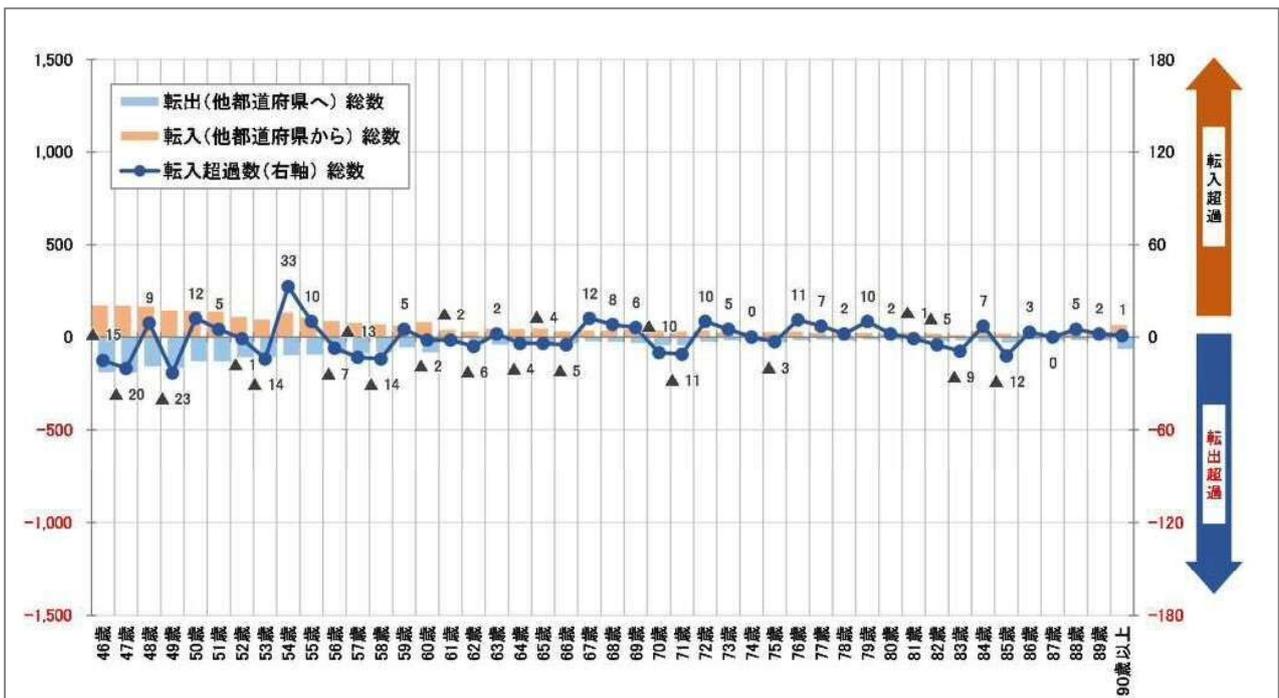
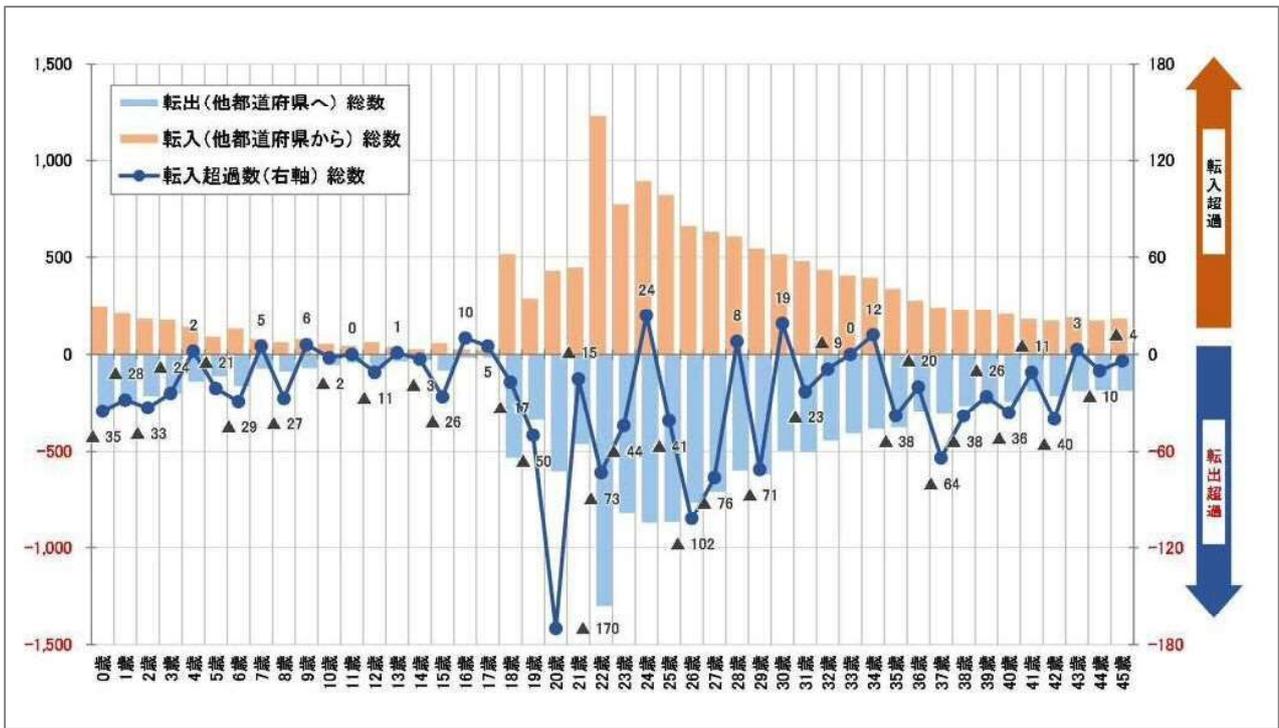


【出所】令和元年度住民基本台帳移動報告(総務省)

1-6. 年齢1歳階級別の県外への転入・転出状況（令和元年度）

- ◆ 高校卒業後の進学・就職期である18歳から転入者数、転出者数がともに増加しており、特に短大卒業後の就職期である20歳、大学卒業後の就職期である22歳での転出超過が顕著である。

図1-6. 年齢1歳階級別の県外への転入・転出状況



【出所】令和元年度住民基本台帳移動報告（総務省）

1-7. 静岡市からの主な転出先、静岡市への主な転入元（平成22年～平成27年）

- ◆ 神奈川県や東京都などの首都圏や愛知県への転出が多い。
- ◆ 岐阜県や長野県、三重県など近隣の県からの転入が多い。

図1-7(1). 静岡市から転出超過となっている主な都道府県

		転入者数	転出者数	増減数
1	神奈川県	4,004	4,880	▲876
2	東京都	5,159	5,829	▲670
3	愛知県	5,005	5,486	▲481
4	埼玉県	1,527	1,688	▲161
5	京都府	564	695	▲131
6	福岡県	544	612	▲68
7	大阪府	1,239	1,298	▲59
8	宮崎県	80	126	▲46
9	茨城県	407	441	▲34
10	福島県	263	293	▲30

図1-7(2). 静岡市へ転入超過となっている主な都道府県

		転入者数	転出者数	増減数
1	岐阜県	830	578	252
2	長野県	735	578	157
3	三重県	680	535	145
4	福井県	223	118	105
5	山梨県	744	672	72
6	滋賀県	286	219	67
7	群馬県	378	316	62
8	新潟県	366	308	58
9	千葉県	1,777	1,722	55
10	青森県	171	122	49
10	兵庫県	842	793	49

【出所】平成27年国勢調査(総務省)

1-8. 人口・世帯の構造

- ◆ 少子高齢化社会の急激な進行により、令和2年(2020年)には高齢化率が3割を超えた。
- ◆ 単独世帯の増加や三世帯世帯の減少により、世帯数の増加、平均世帯人員数の減少が進んでいる。

図1-8(1). 年齢3区分人口の推移



図1-8(2). 世帯数・世帯人員の推移

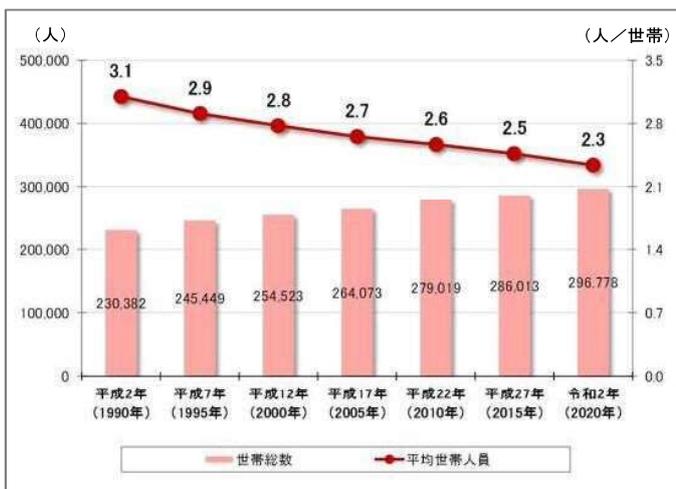
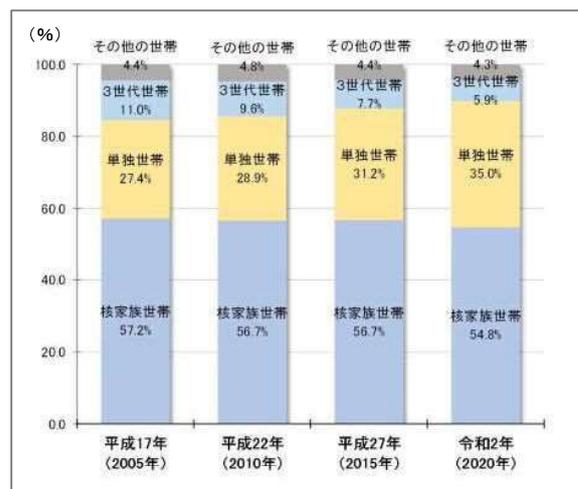


図1-8(3). 一般世帯の家族類型割合

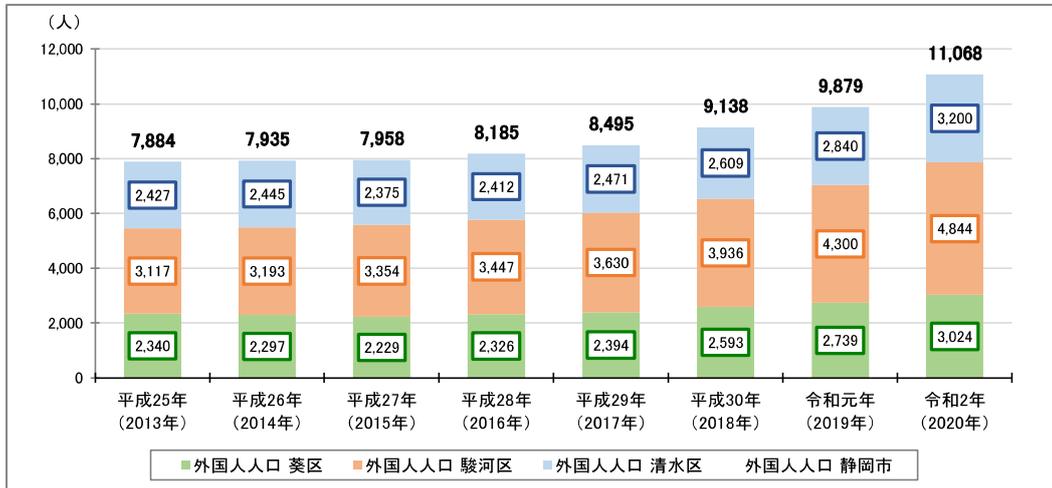


【出典】各年国勢調査(総務省)

1-9. 外国人住民

◆ 外国人住民は留学生等の増加により、近年増加傾向にあり、中でも駿河区での増加が顕著である。

図1-9. 外国人人口の推移



【出典】静岡市統計書

1-10. 昼夜間人口比率

- ◆ 昼夜間人口比率は 103.0 であり、政令指定都市の中で8番目に高い位置付けとなっている。
- ◆ 静岡市外からの通勤・通学人口は5万人以上おり、平成 22 年から平成 27 年にかけて約 1,000 人増加している。
- ◆ 他県から通勤・通学する人が増加傾向にある。

図 1-10 (1). 大都市の昼夜間人口比率

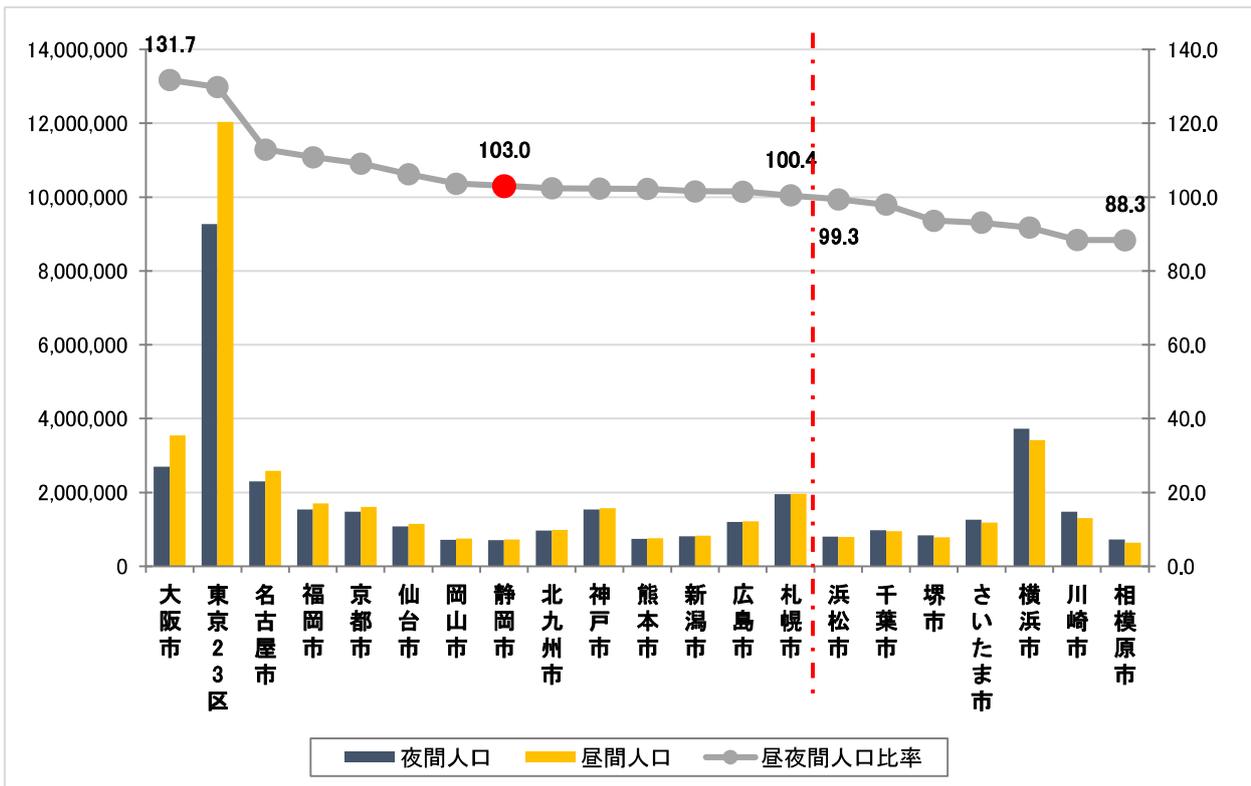
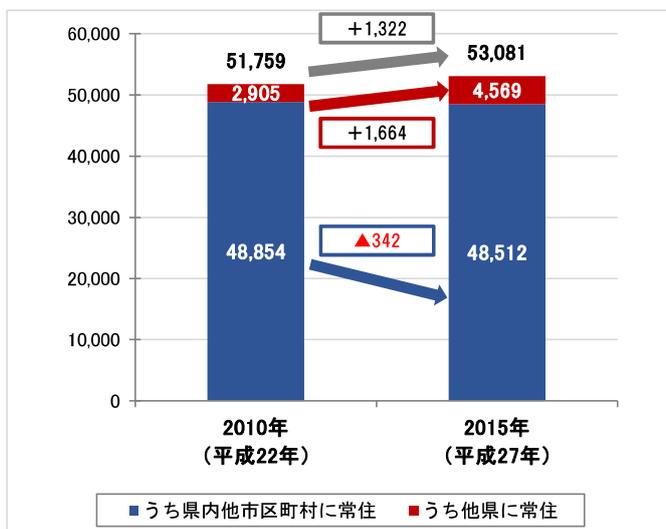


図 1-10 (2). 市外からの通勤・通学人口



【出典】平成 22 年・平成 27 年国勢調査

1-11. 大学・短大生徒数

◆ 一部の政令指定都市では、高校卒業者と比較して、大学・短大の学生数が高くなっているが、本市では高校卒業者数に比べて、大学・短大の学生数が少ない。

図1-11(1). 大都市の高校卒業生数と大学・短大生徒数の比較

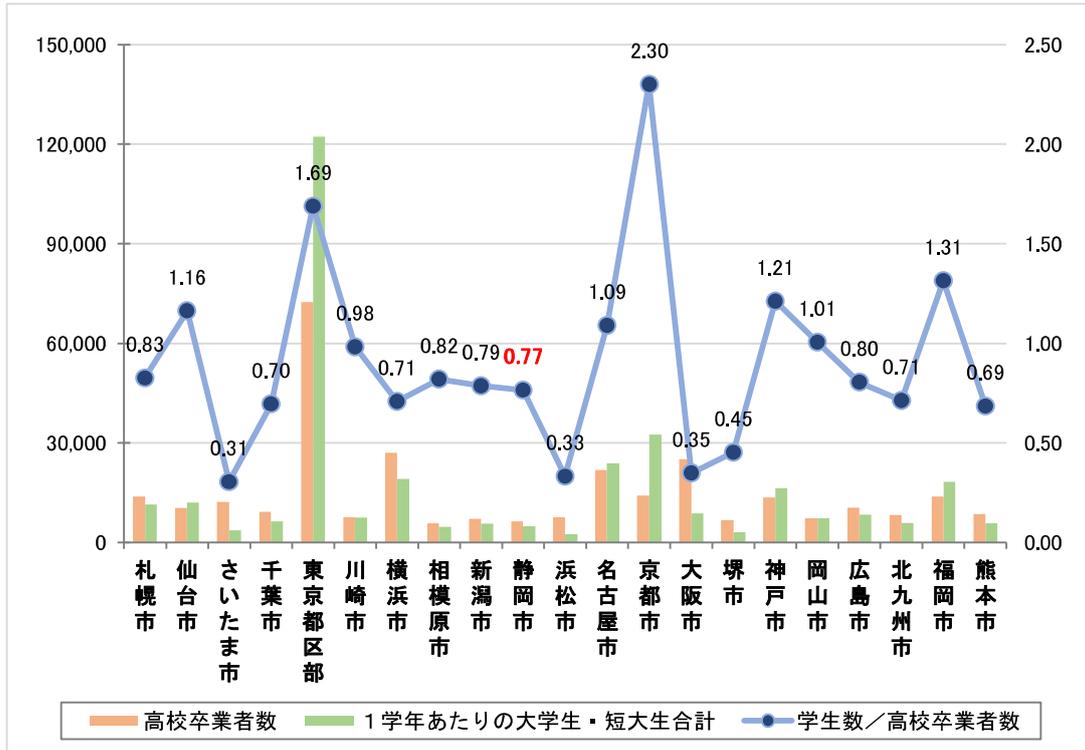
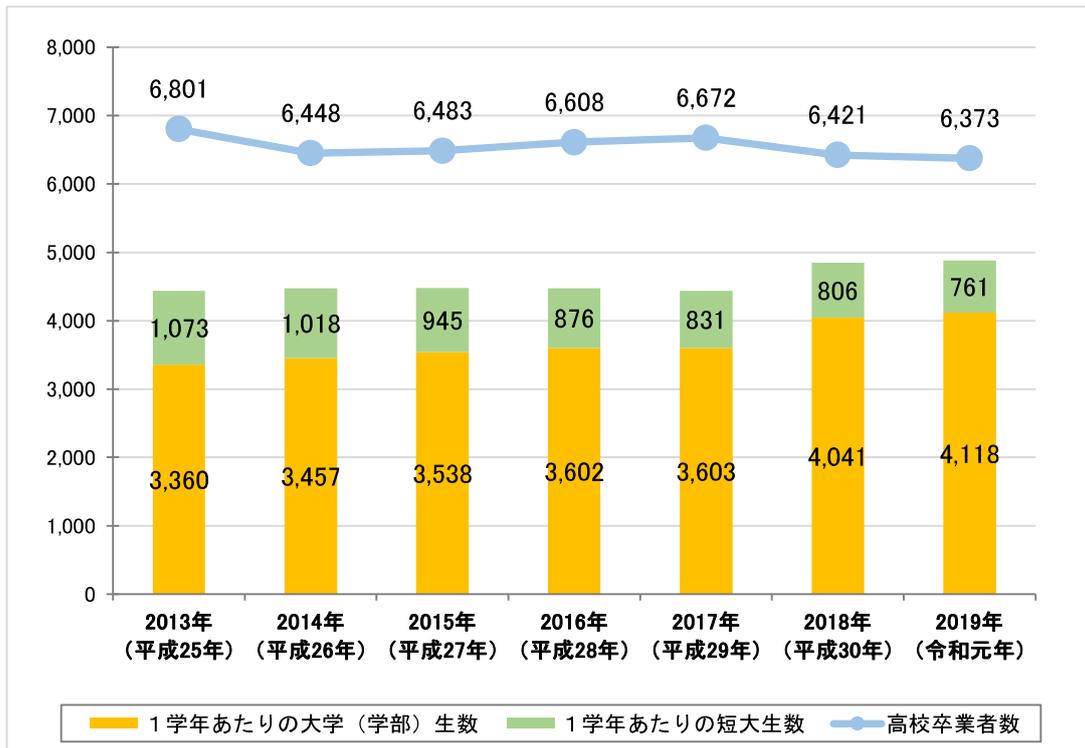


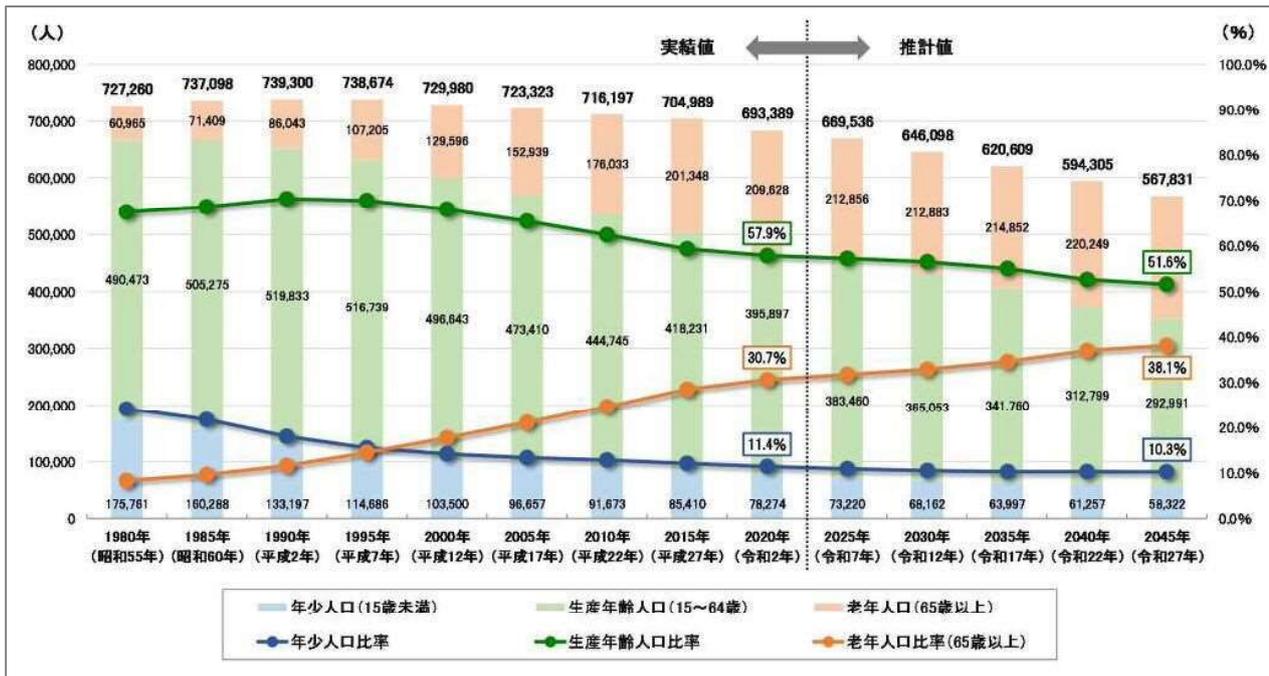
図1-11(2). 静岡市の高校卒業生数と1学年あたりの大学・短大生徒数の推移



1-12. 将来人口シミュレーション

- ◆ 本市の人口は、令和2年国勢調査時点で 693,389 人であり、国立社会保障・人口問題研究所の平成 30 年将来人口推計によると、令和 27 年(2045 年)には約 57 万人まで減少することが予測されている。
- ◆ 少子高齢化の進行により、令和2年(2020 年)には高齢者が総人口の3割を超え、令和 27 年(2045 年)には、総人口の約4割が高齢者となることが予測されている。

図 1-12. 将来人口シミュレーション



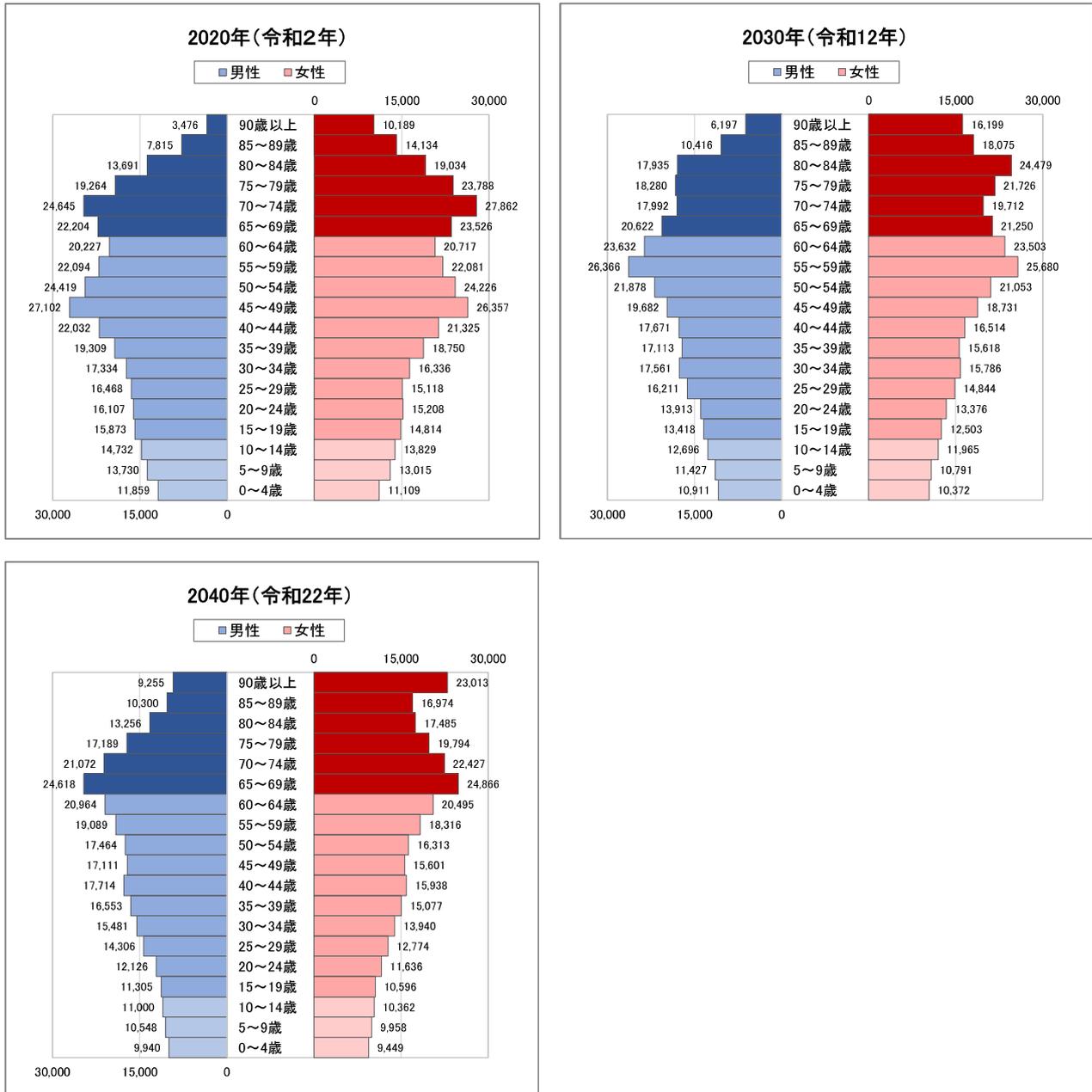
	人口総数	年少人口(0-14歳)	生産年齢人口(15-64歳)	老年人口(65歳以上)	年少人口(%)	生産年齢人口(%)	老年人口(%)
1980年(昭和55年)	727,260	175,761	490,473	60,965	24.2%	67.4%	8.4%
1985年(昭和60年)	737,098	160,288	505,275	71,409	21.7%	68.5%	9.7%
1990年(平成2年)	739,300	133,197	519,833	86,043	18.0%	70.3%	11.6%
1995年(平成7年)	738,674	114,686	516,739	107,205	15.5%	70.0%	14.5%
2000年(平成12年)	729,980	103,500	496,643	129,596	14.2%	68.0%	17.8%
2005年(平成17年)	723,323	96,657	473,410	152,939	13.4%	65.4%	21.1%
2010年(平成22年)	716,197	91,673	444,745	176,033	12.9%	62.4%	24.7%
2015年(平成27年)	704,989	85,410	418,231	201,348	12.1%	59.3%	28.6%
2020年(令和2年)	693,389	78,274	395,897	209,628	11.4%	57.9%	30.7%
2025年(令和7年)	669,536	73,220	383,460	212,856	10.9%	57.3%	31.8%
2030年(令和12年)	646,098	68,162	365,053	212,883	10.5%	56.5%	32.9%
2035年(令和17年)	620,609	63,997	341,760	214,852	10.3%	55.1%	34.6%
2040年(令和22年)	594,305	61,257	312,799	220,249	10.3%	52.6%	37.1%
2045年(令和27年)	567,831	58,322	292,991	216,518	10.3%	51.6%	38.1%

【出典】各年国勢調査(総務省)、日本の地域別将来人口推計【2018年推計】(国立社会保障・人口問題研究所)

1-13. 性別・5歳階級別人口ピラミッド

- ◆ 将来的な少子高齢化の進行に加えて、第二次ベビーブームの間に生まれた団塊ジュニア世代が 2030 年代後半から高齢者となるため、2040 年の人口ピラミッドでは、特に平均寿命の長い女性で老年人口の増加が目立つ。

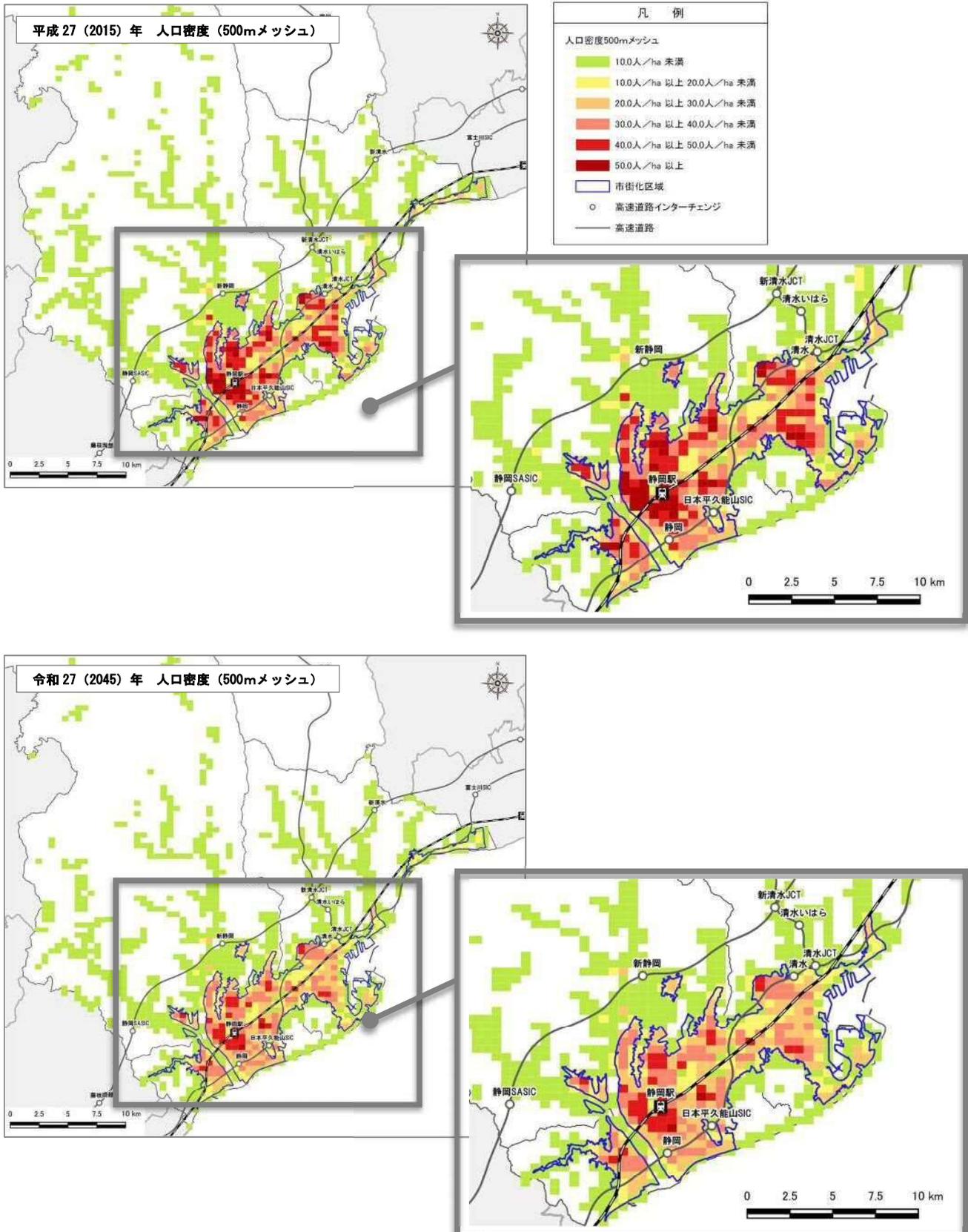
図 1-13. 人口ピラミッド

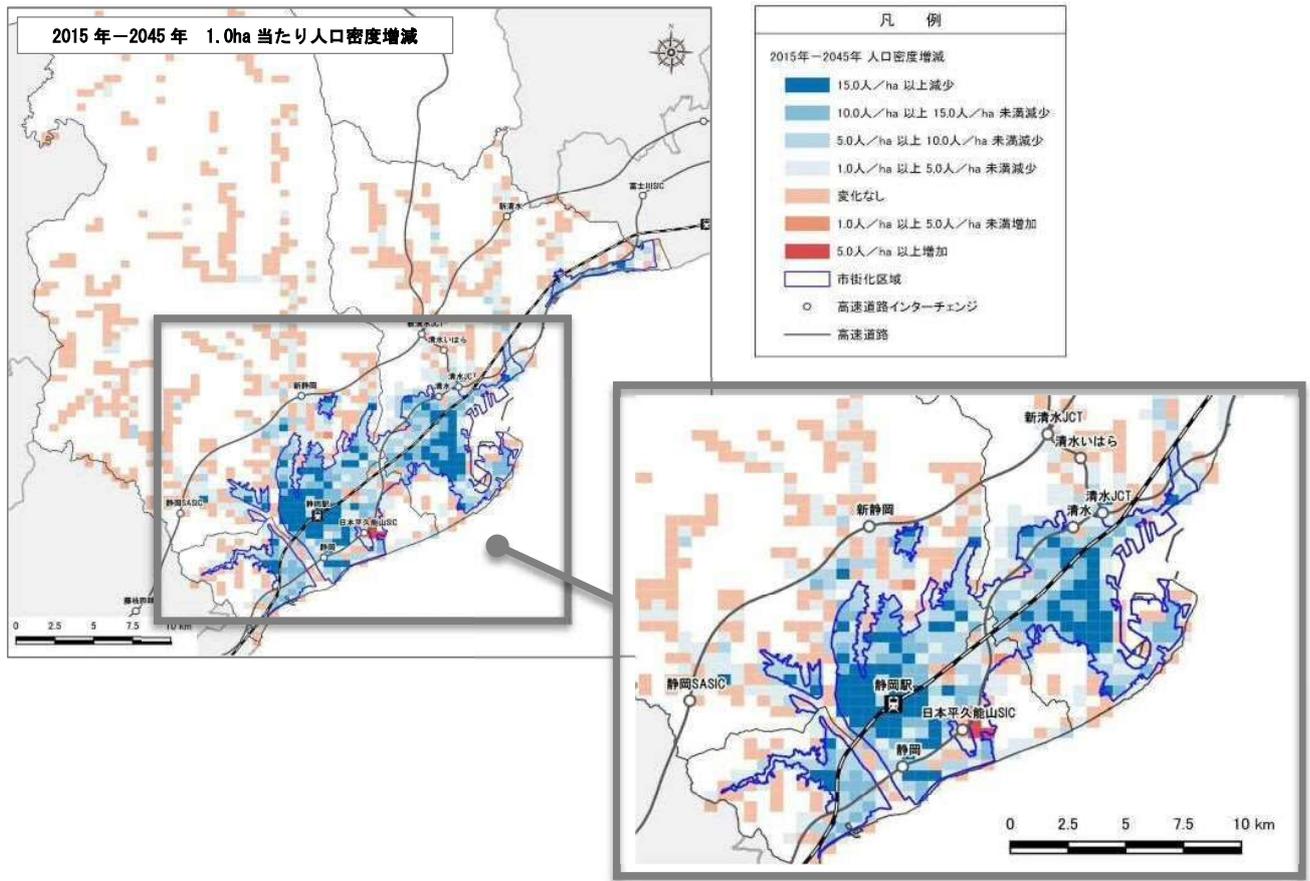


【出典】令和2年国勢調査(総務省)、日本の地域別将来人口推計【2018年推計】(国立社会保障・人口問題研究所)

1-14. 人口密度増減マップ (2015年→2045年)

◆ 市域全体で人口密度の低下が見られ、特に、静岡駅周辺及び清水区において減少が顕著である。





【出典】平成 27 年国勢調査(総務省)、国土数値情報(国土交通省)
日本の地域別将来人口推計【2018 年推計】(国立社会保障・人口問題研究所)

1-15. 年齢三区分別人口割合の推移マップ（2015年→2045年）

- ◆ 少子高齢化の進行により、市域全体で年少人口比率、生産年齢人口比率の低下や老年人口比率の増加が予測される。

図1-15(1). 老年人口(65歳以上)比率の推移

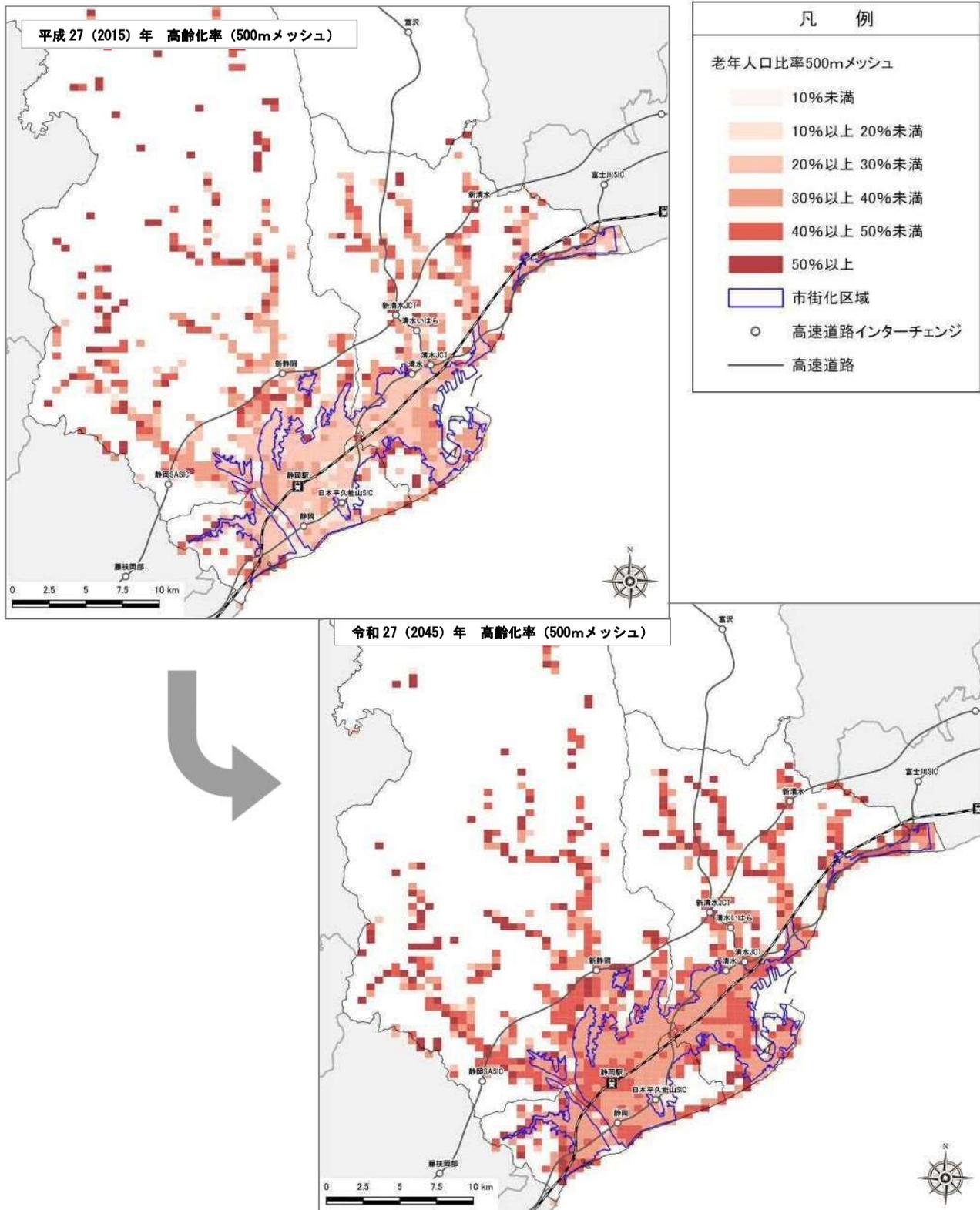


図1-15(2). 生産年齢人口(15歳~64歳)比率の推移

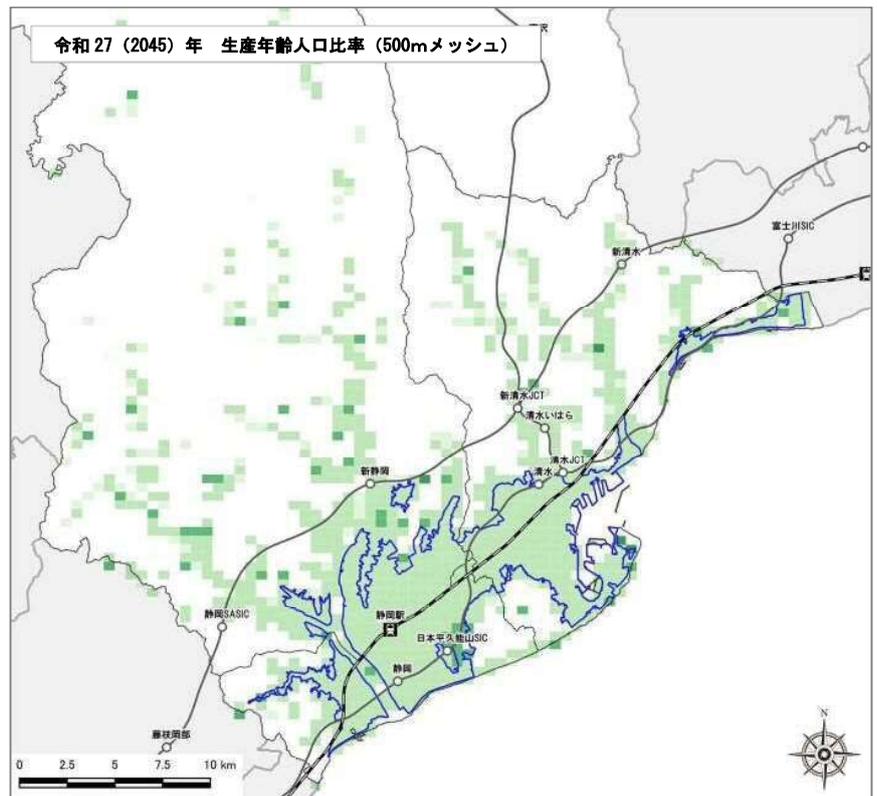
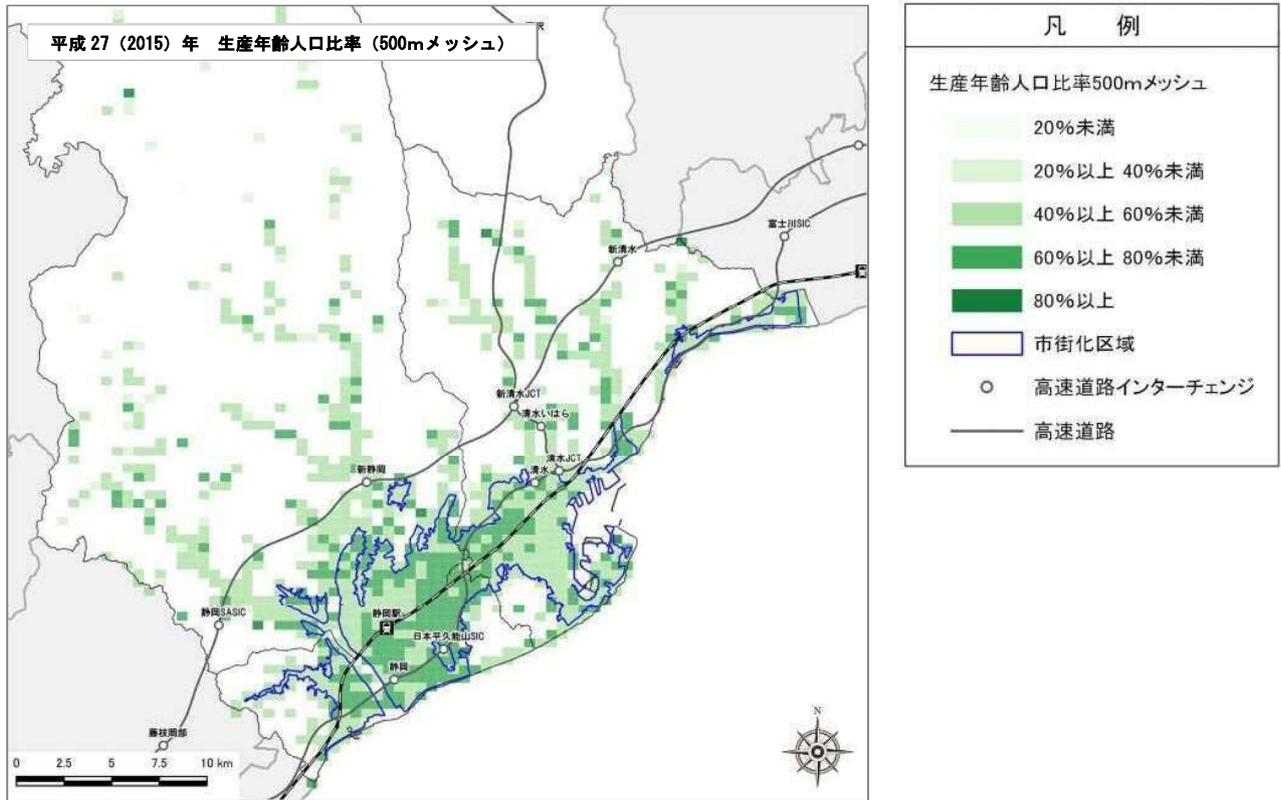
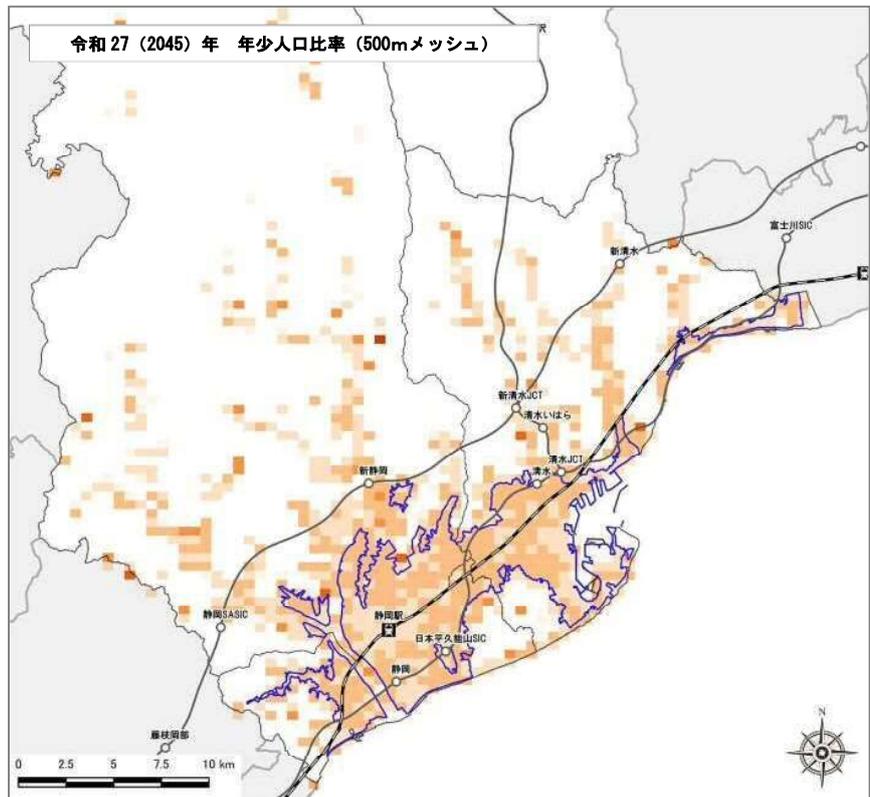
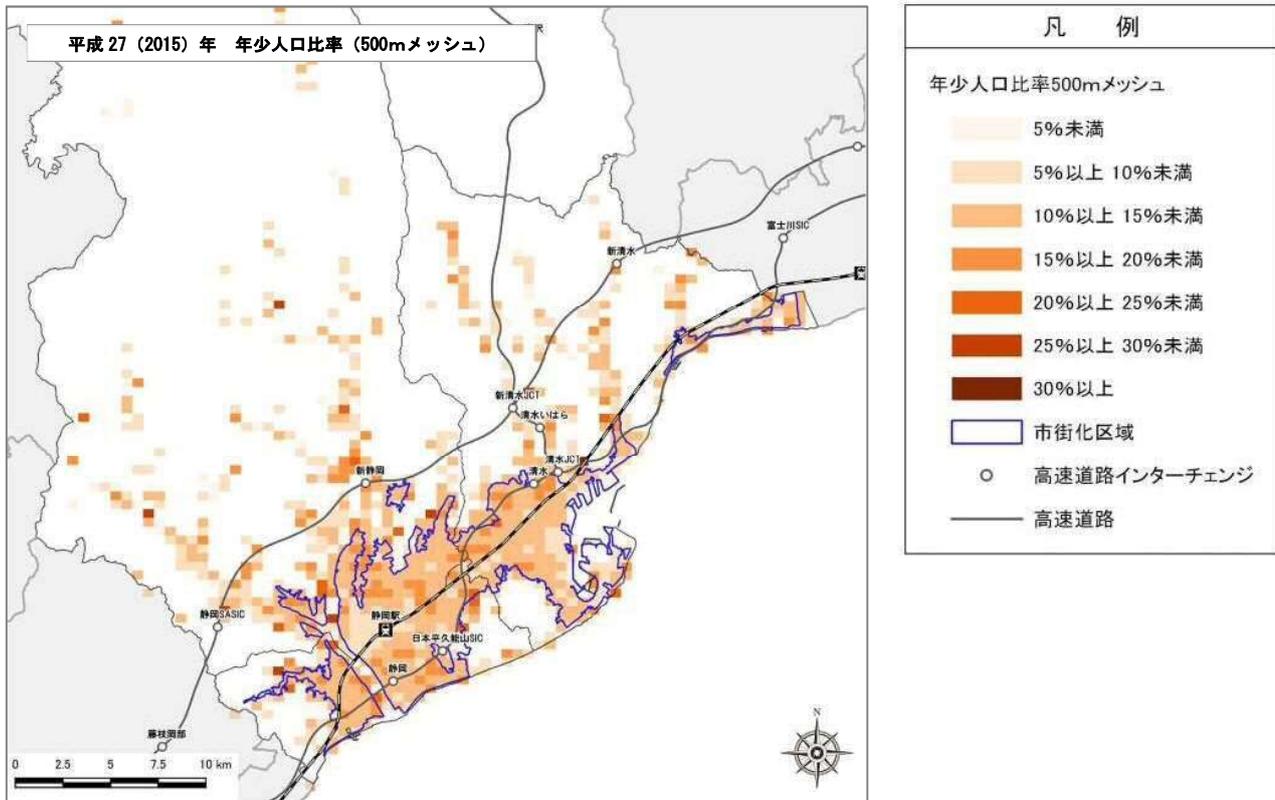


図1-15(3). 年少人口(0歳~14歳)比率の推移

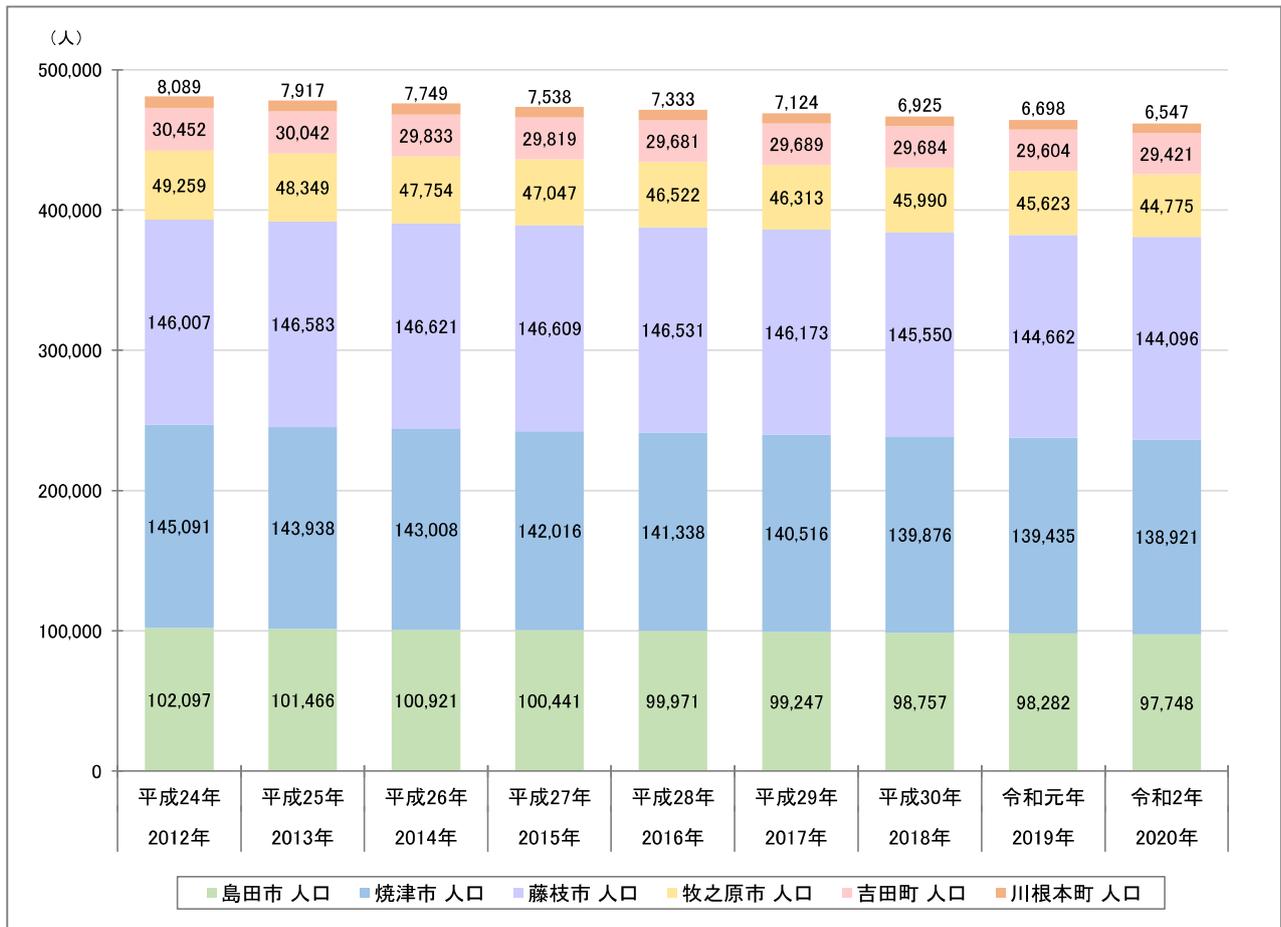


【出典】平成 27 年国勢調査(総務省)、国土数値情報(国土交通省)
日本の地域別将来人口推計【2018 年推計】(国立社会保障・人口問題研究所)

1-16. 連携中枢都市圏の圏域人口（静岡市を除く）

- ◆ 本市とともに、連携中枢都市圏を構成する4市2町（島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町）の令和2年の人口は、約46万人である。
- ◆ 「しずおか中部連携中枢都市圏ビジョン」では、将来目標人口の達成に向けて、連携事業の推進を図ることとしている。
- ◆ 各市町いずれも人口は減少傾向にある。

図1-16. 連携中枢都市圏の圏域人口



【出典】

島田市ホームページ「島田市の人口・世帯」(各年12月末時点)

焼津市ホームページ「焼津市の住民基本台帳」(各年12月末時点)

藤枝市ホームページ「統計情報」(2011年:11月末時点、2012年:9月末時点、2013年:7月末時点、2014年:4月末時点、
その他:12月末時点)

牧之原市ホームページ「牧之原市行政区別人口・世帯数」(各年12月末時点)

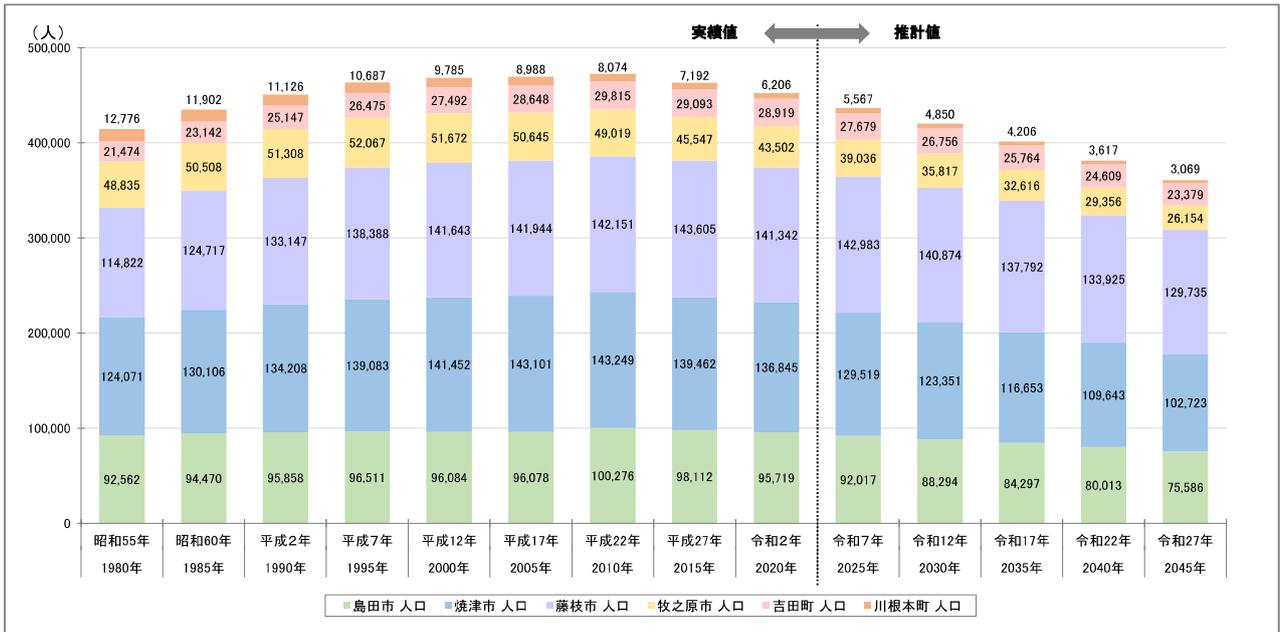
吉田町ホームページ「吉田町の人口の動き」(各年12月末時点)

川根本町ホームページ「人口・世帯数」(各年10月1日時点)

1-17. 連携中枢都市圏の将来人口シミュレーション（静岡市を除く）

- ◆ 本市とともに、連携中枢都市圏を構成する4市2町（島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町）のいずれも、将来的な人口減少が予測されている。
- ◆ 4市2町の合計は令和2年国勢調査時点で約 45 万人であるが、令和 27 年（2045 年）には約 36 万人となり、25 年で約 10 万人減少することが予測されている。

図 1-17. 連携中枢都市圏の将来人口シミュレーション



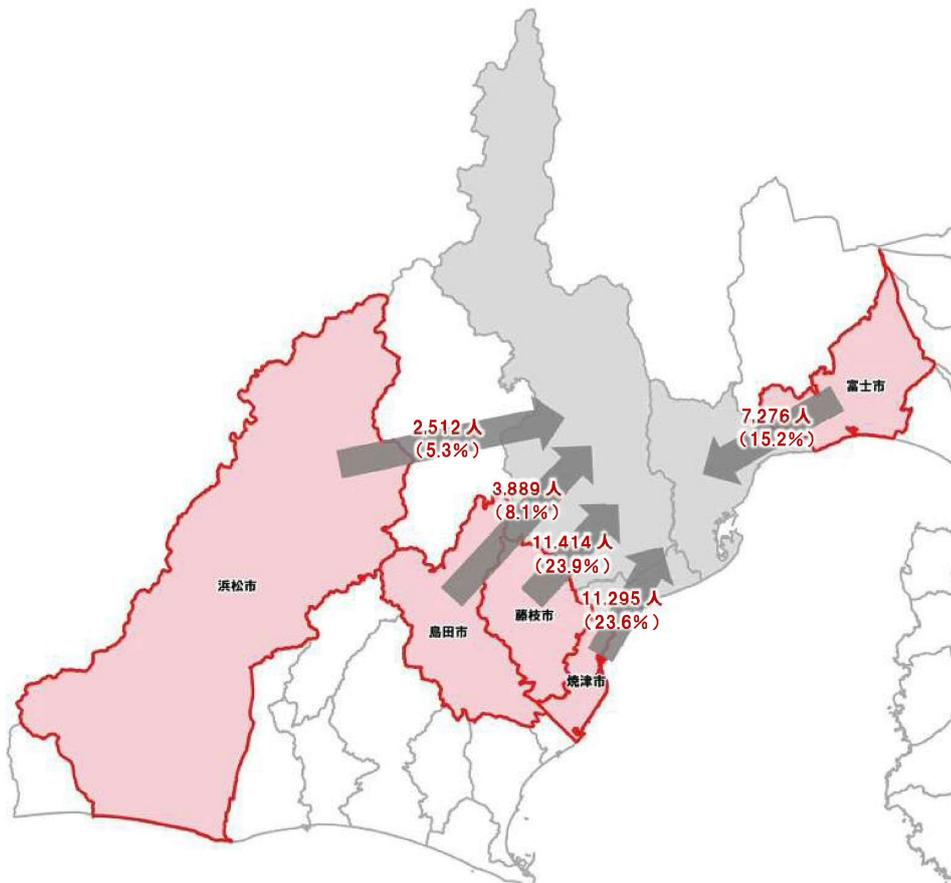
【出典】各年国勢調査（総務省）、日本の地域別将来人口推計【2018年推計】（国立社会保障・人口問題研究所）

- ※令和2年実績値は、国勢調査（人口速報集計）の数値を使用
- ※島田市（平成12年以前）は、旧島田市・旧金谷町の合計値
- ※焼津市（平成17年以前）は、旧焼津市・旧大井川町の合計値
- ※藤枝市（平成17年以前）は、旧藤枝市・旧岡部町の合計値
- ※牧之原市（平成17年以前）は、旧相良町・旧榛原町の合計値
- ※川根本町（平成12年以前）は、旧本川根町・旧中川根町の合計値

1-18. 県内自治体間における人の動き

◆ 平成 27 年国勢調査における県内 15 歳以上の通勤・通学人口をみると、本市への流入は隣接する藤枝市など連携中枢都市圏を構成する自治体間での人の動きが活発で、強い繋がりがみられる。

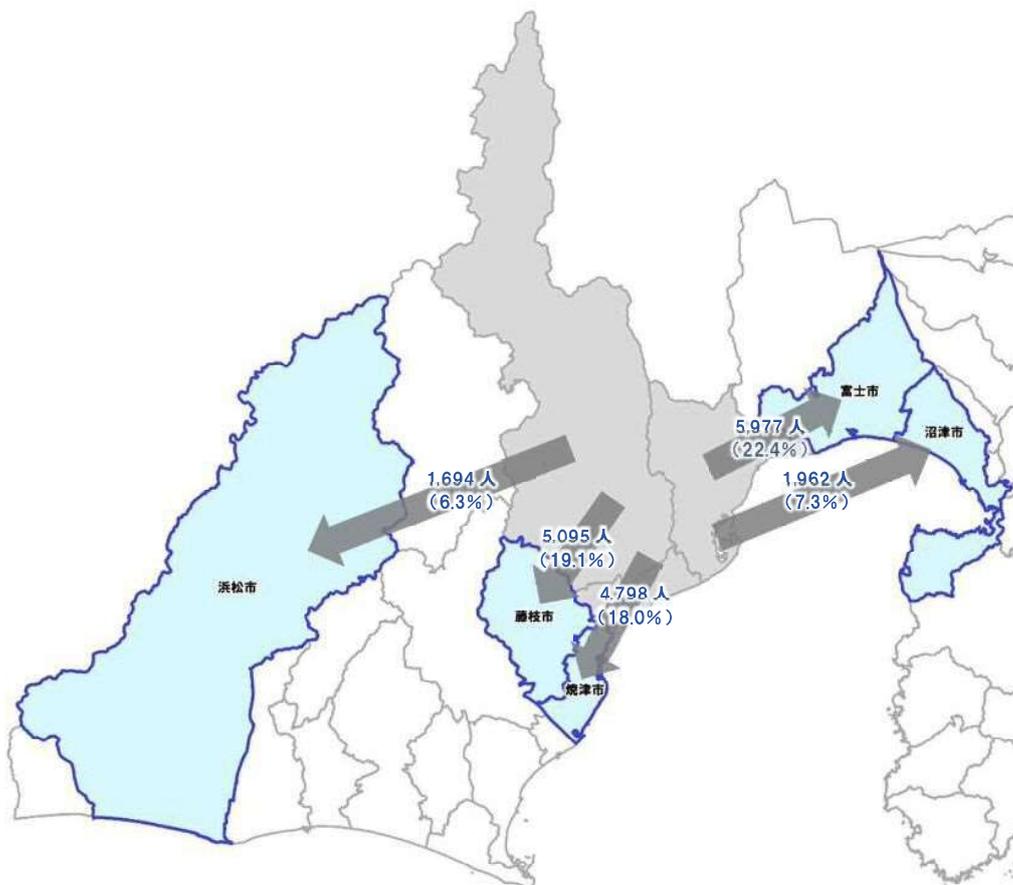
図 1-18 (1). 県内自治体から静岡市への流入人口 (ベスト 5)



静岡市		葵区		駿河区		清水区	
1. 藤枝市	11,414 人 23.9%	1. 藤枝市	5,815 人 25.0%	1. 焼津市	4,234 人 28.5%	1. 富士市	3,903 人 40.1%
2. 焼津市	11,295 人 23.6%	2. 焼津市	5,523 人 23.8%	2. 藤枝市	4,126 人 27.8%	2. 焼津市	1,538 人 15.8%
3. 富士市	7,276 人 15.2%	3. 島田市	2,197 人 9.5%	3. 島田市	1,238 人 8.3%	3. 藤枝市	1,473 人 15.1%
4. 島田市	3,889 人 8.1%	4. 富士市	2,138 人 9.2%	4. 富士市	1,235 人 8.3%	4. 富士宮市	790 人 8.1%
5. 浜松市	2,512 人 5.3%	5. 浜松市	1,501 人 6.5%	5. 浜松市	791 人 5.3%	5. 島田市	454 人 4.7%
その他	11,416 人 23.9%	その他	6,050 人 26.1%	その他	3,217 人 21.7%	その他	1,579 人 16.2%
合計	47,802 人 100.0%	小計	23,224 人 100.0%	小計	14,841 人 100.0%	小計	9,737 人 100.0%

【出典】平成 27 年国勢調査「就業地・通学地集計」(総務省)

図1-18(2). 静岡市から県内自治体への流出人口(ベスト5)



静岡市		葵区		駿河区		清水区	
1. 富士市	5,977人 22.4%	1. 藤枝市	2,003人 24.2%	1. 焼津市	2,404人 25.4%	1. 富士市	3,960人 44.1%
2. 藤枝市	5,095人 19.1%	2. 焼津市	1,610人 19.5%	2. 藤枝市	2,353人 24.9%	2. 沼津市	904人 10.1%
3. 焼津市	4,798人 18.0%	3. 富士市	1,086人 13.1%	3. 富士市	931人 9.8%	3. 焼津市	784人 8.7%
4. 沼津市	1,962人 7.3%	4. 浜松市	661人 8.0%	4. 浜松市	673人 7.1%	4. 藤枝市	739人 8.2%
5. 浜松市	1,694人 6.3%	5. 島田市	537人 6.5%	5. 島田市	582人 6.2%	5. 富士宮市	582人 6.5%
その他	7,173人 26.9%	その他	2,368人 28.7%	その他	2,518人 26.6%	その他	2,004人 22.3%
合計	26,699人 100.0%	小計	8,265人 100.0%	小計	9,461人 100.0%	小計	8,973人 100.0%

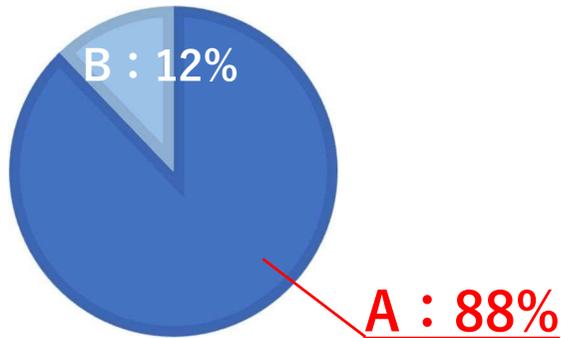
【出典】平成27年国勢調査「就業地・通学地集計」(総務省)

第3次総合計画 分野別計画の政策・施策評価結果

評価基準

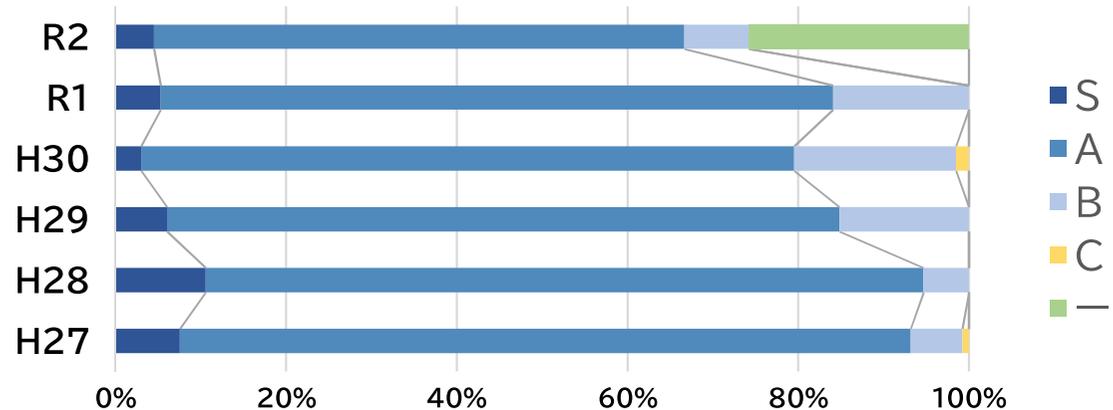
S:政策・施策の目的が十分に達成されている A:政策・施策の目的が達成されている
 B:政策・施策の目的があまり達成されていない C:政策・施策の目的が達成されていない

政策評価結果(H30実施)

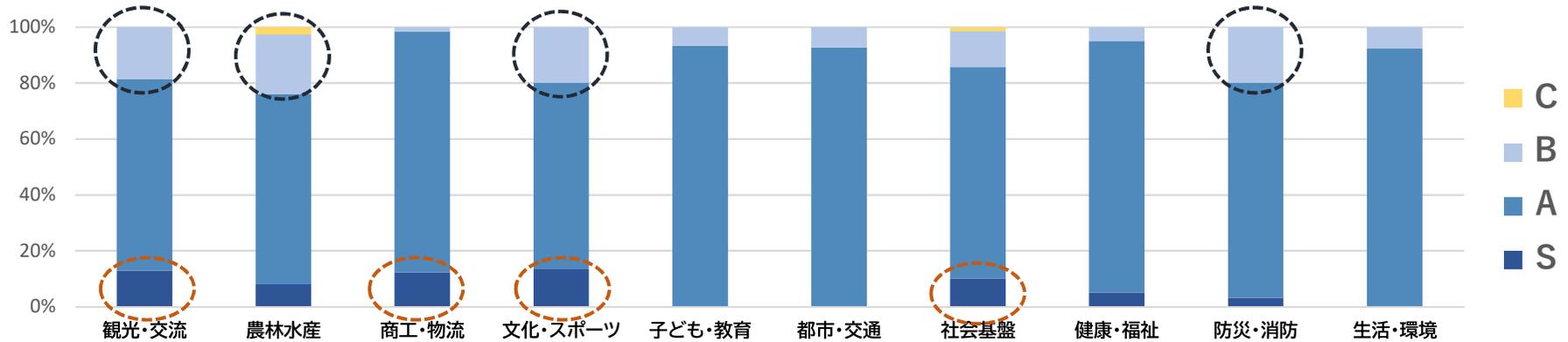


施策評価結果(毎年実施)

毎年度A以上が概ね80%以上



分野別 施策評価結果(H27~R1)



評価が良かった箇所

観光・交流	関連施設・イベント入込客数	商工・物流	企業立地、ロジスティクス企業立地件数
文化・スポーツ	芸術文化事業来場者数	社会・基盤	既存道路照明灯のLED化した件数

評価が悪かった箇所

観光・交流	市町村魅力度ランキング、来訪・滞在者対応満足度	農林水産	産地・産業を担う人材・組織の育成
文化・スポーツ	スポーツを活かしたMICE(市外からの参加者数)	防災・消防	気象情報等の情報伝達体制

第3次静岡市総合計画
政策・施策評価（1次評価）
評価結果 一覧表

令和3年6月

評価結果一覧表について

- この一覧表は、令和元年度までに実施・公表済みの「政策・施策評価（1次評価）の結果」をまとめたものです。
- 令和2年度の実績については、現時点での暫定値となり、今後変更される可能性があります。（確定は令和3年9月を予定）
- また、令和2年度の1次評価については、新型コロナウイルス感染症の影響により、指標を適正に計測できず、他に代わる指標等もない場合は、適正な評価ができないため1次評価「-」となっています。

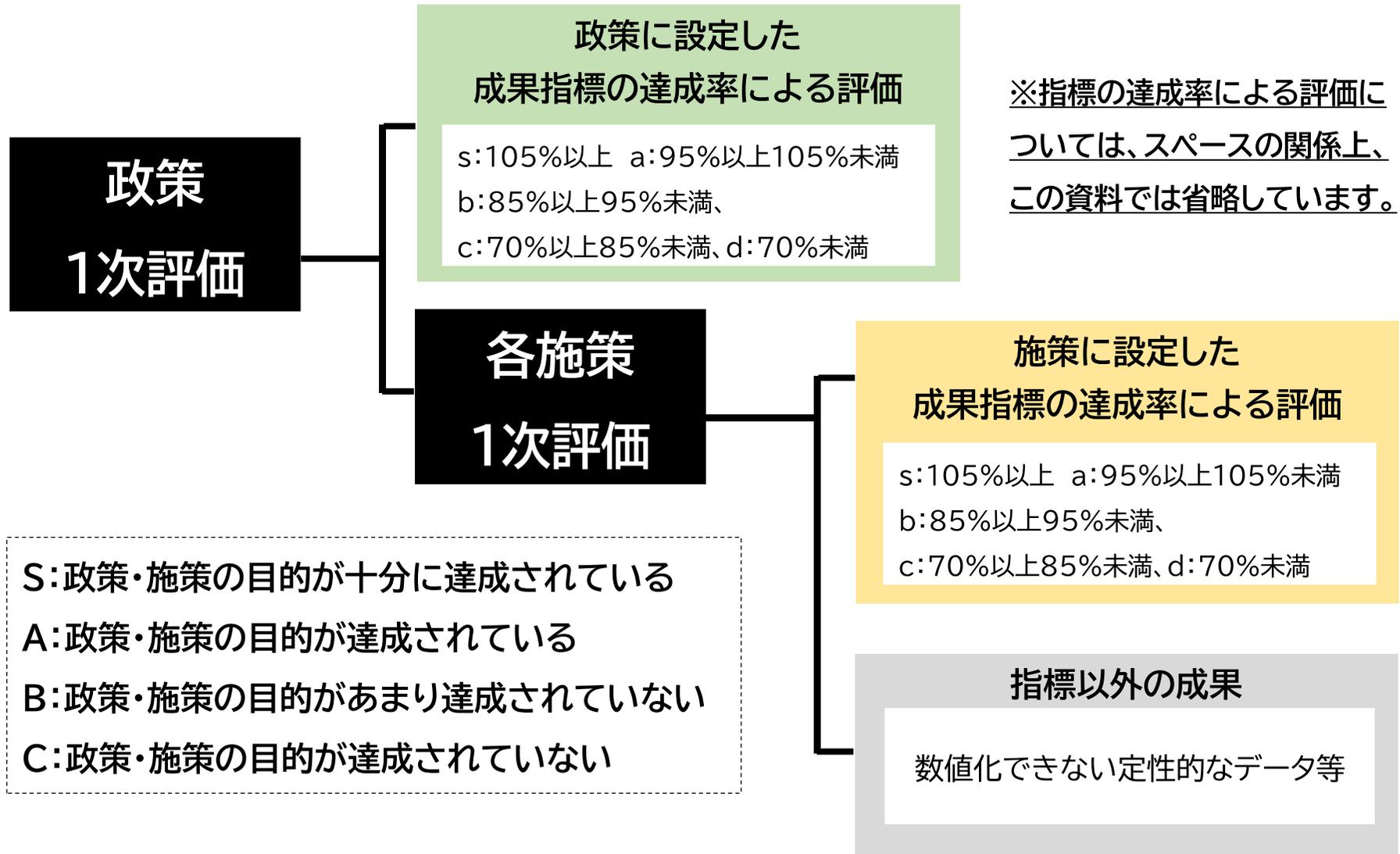
1 観光・交流分野		政策1		静岡市のブランド力ある地域資源を活用した観光を推進します					
指標	関連施設・イベント入込客数	現状値	8,932千人 (H22-25平均)	目標値 (H30)	9,443千人	実績値 (H30.3時点)	8,704千人	1次評価	A
施策1	模型の世界首都・静岡を活かした魅力づくり								
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
指標	関連施設・イベント入込客数(静岡ホビーショー等)				関連施設・イベント入込客数(静岡ホビーショー等)				
目標	125,000人	175,000人	175,000人	175,000人	160,000人	160,300人	160,600人	161,000人	
実績	125,300人	168,649人	163,871人	164,368人	163,757人	-	-	-	
1次評価	A	A	B	A	A	-	-	-	

政策評価（H30実施）

施策評価（毎年実施）

R3.5時点の暫定値

1次評価の評価基準



1 観光・交流分野	政策1	静岡市のブランド力ある地域資源を活用した観光を推進します
------------------	------------	------------------------------

指標	関連施設・イベント入込客数	現状値	8,932千人 (H22-25平均)	目標値 (H30)	9,443千人	実績値 (H30.3時点)	8,704千人	1次評価	A
-----------	---------------	------------	-----------------------	----------------------	---------	--------------------------	---------	-------------	----------

施策1	模型の世界首都・静岡を活かした魅力づくり							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	関連施設・イベント入込客数(静岡ホビーショー等)				関連施設・イベント入込客数(静岡ホビーショー等)			
目標	125,000人	175,000人	175,000人	175,000人	160,000人	160,300人	160,600人	161,000人
実績	125,300人	168,649人	163,871人	164,368人	163,757人	—	—	—
1次評価	A	A	B	A	A	—	—	—

施策2	世界に認められた地域資源のみがきあげ							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	関連施設・イベント入込客数(三保松原、日本平等)				関連施設・イベント入込客数(三保松原、日本平等)			
目標	4,441千人	4,484千人	4,527千人	4,570千人	3,935千人	3,974千人	4,013千人	4,052千人
実績	3,983千人	3,814千人	3,885千人	4,179千人	4,271千人	調査中	—	—
1次評価	A	A	B	B	S	—	—	—

施策3	徳川家康公をはじめとした歴史に触れ親しむ観光振興							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	関連施設・イベント入込客数(駿府城公園等)				関連施設・イベント入込客数(駿府城公園等)			
目標	2,169千人	2,222千人	2,275千人	2,330千人	2,055千人	2,105千人	2,155千人	2,206千人
実績	2,195千人	2,252千人	2,023千人	2,324千人	2,236千人	調査中	—	—
1次評価	A	A	A	A	S	—	—	—

1 観光・交流分野

政策1

静岡市のブランド力ある地域資源を活用した観光を推進します

施策4	お茶、しずまえブランドなど食の魅力のみがきあげ							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	関連施設・イベント入込客数(しずまえ・オクシズまつり等)				関連施設・イベント入込客数(しずまえ・オクシズまつり等)			
目標	—	75千人	78.5千人	84.5千人	18.54千人	—	18.54千人	—
実績	—	81千人	75千人	83千人	18千人	—	—	—
1次評価	A	S	A	A	A	—	—	—
施策5	オクシズの魅力を活かす交流促進							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	関連施設・イベント入込客数(黄金の湯、安倍ごころ等)				関連施設・イベント入込客数(黄金の湯、安倍ごころ等)			
目標	692千人	700千人	709千人	717千人	650.2千人	650.8千人	651.4千人	652千人
実績	668千人	648千人	631千人	613千人	571千人	—	—	—
1次評価	B	A	A	A	B	—	—	—
施策6	スポーツを通じた魅力づくりの推進							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	関連施設・イベント入込客数(清水日本平運動公園球技場等)				関連施設・イベント入込客数(清水日本平運動公園球技場等)			
目標	1,048千人	1,062千人	1,312千人	1,325千人	1,411千人	1,429千人	1,446千人	1,463千人
実績	1,201千人	1,299千人	1,353千人	1,476千人	1,346千人	—	—	—
1次評価	S	S	A	A	A	—	—	—

1 観光・交流分野	政策2	国内外からの誘客と交流を推進します
------------------	------------	-------------------

指標	市内宿泊者数	現状値	1,613千人 (H25)	目標値 (H30)	1,850千人	実績値 (H30.3時点)	—	1次評価	A
-----------	--------	------------	------------------	----------------------	---------	--------------------------	---	-------------	----------

施策1	静岡市ならではの資源を活用したシティプロモーションの推進							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	市区町村魅力度ランキング				情報接触度(静岡市について見聞きしたことがある人の割合)			
目標	80位	75位	70位	65位	54%	54.35%	55%	60%
実績	102位	109位	109位	75位	58.4%	53%	—	—
1次評価	A	B	B	B	S	A	—	—

施策2	静岡市の特長を活かしたMICEの誘致							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	受入MICEの参加者数				① MICE支援件数 ② MICEの参加者数			
目標	523千人	536千人	562千人	344千人	①168件 ②347千人	①169件 ②351千人	①171件 ②354千人	①174件 ②361千人
実績	405千人	356千人	351千人	333千人	①158件 ②432千人	①12件 ②85千人	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	—	—	—

施策3	多様なネットワークを通じた世界の人々との交流促進							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	外国人宿泊者数				外国人宿泊者数			
目標	—	120千人	140千人	—	68千人	77千人	86千人	94千人
実績	—	115千人	—	49,338人	60千人	5千人	—	—
1次評価	A	A	A	A	B	—	—	—

1 観光・交流分野

政策3

来訪者が再び訪れたいと思う受入態勢づくりを推進します

指標	ぜひまた訪れたいと思う来訪者の割合		現状値	56.9% (H26)	目標値 (H30)	60%	実績値 (H30.3時点)	—	1次評価	A
施策1	来訪者の満足度を高める 受入環境の充実									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	滞在中に大変満足できたと思う来訪者の割合					滞在中に不便なことや不満なことが無かった来訪者の割合				
目標	—	86.0%	87.0%	88.0%	89.1%	89.6%	90.1%	90.6%		
実績	—	88.2%	89.7%	88.4%	88.8%	—	—	—		
1次評価	A	A	A	A	A	—	—	—		
施策2	来訪者に安らぎを与えるおもてなしの向上									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	交流に大変満足できたと思う来訪者の割合(H27~29) 滞在中に癒しや安らぎを感じたり、リフレッシュできた来訪者の割合(H30)					滞在中に癒しや安らぎを感じたり、リフレッシュできた来訪者の割合				
目標	29.4%	32.5%	35%	—	80.2%	81.2%	82.2%	83.2%		
実績	14.9%	20.85%	21.1%	79.2%	76.9%	—	—	—		
1次評価	A	A	B	B	B	—	—	—		

1 観光・交流分野

政策4

まちなかの魅力向上により賑わい創出を推進します

指標	中心市街地の賑わいや魅力が増したと感じる市民の割合				現状値	静岡46.5%清水7%(H25)				目標値(H30)	静岡50%清水10%				実績値(H30.3時点)	-				1次評価	A											
施策1	まちなかの賑わいを生み出すイベントの推進																															
年度	H27				H28				H29				H30				R1				R2				R3				R4			
指標	中心市街地主要イベント入込客数(大道芸ワールドカップ等)										中心市街地主要イベント入込客数(大道芸ワールドカップ等)																					
目標	3,876千人				3,914千人				4,291千人				4,255千人				5,155千人				5,145千人				5,315千人				5,135千人			
実績	4,147千人				4,517千人				4,101千人				3,406千人				4,737千人				-				-				-			
1次評価	S				S				A				B				A				-				-				-			
施策2	まちづくり人材、組織の活動支援																															
年度	H27				H28				H29				H30				R1				R2				R3				R4			
指標	公的空間等におけるまちづくり活動数(H27) 主要なまちづくり組織の自主活動への参加者数(H28~30)										市支援策を受けたまちづくり組織の活動数																					
目標	-				15,000人				15,500人				16,000人				7件				7件				8件				8件			
実績	-				14,213人				13,335人				17,596人				7件				6件				-				-			
1次評価	S				A				A				A				A				A				-				-			
施策3	清水港ウォーターフロントの賑わいづくり																															
年度	H27				H28				H29				H30				R1				R2				R3				R4			
指標	関連施設・イベント入込客数(清水みなと祭り、客船歓迎事業等)										客船等寄港数																					
目標	5,581千人				5,663千人				5,730千人				5,798千人				22隻				11隻				22隻				22隻			
実績	5,451千人				5,512千人				5,747千人				5,700千人				40隻				7隻				-				-			
1次評価	A				A				A				A				A				B				-				-			

2 農林水産分野

政策1

新たな価値や需要を掘り起こし、市民が自慢できる農林水産の静岡市ブランド創出を推進します

指標	現状値				目標値 (H30)				実績値 (H30.3時点)				1次評価
静岡市民が静岡市産の農林水産物を国内外に誇れる地域資源であると思う割合	56.6% (H25)				60%				56.1%				A
施策1	需要創出による「お茶のまち静岡市」の推進												
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4					
指標	緑茶購入数量全国平均に対する静岡市の割合				一世帯当たりの年間茶葉購入量における静岡市と全国との比較								
目標	221%	223%	226%	230%	200%	200%	200%	200%					
実績	214%	219%	196%	201%	245%	280%	—	—					
1次評価	A	A	A	A	S	S	—	—					
施策2	みかん、さわびなど強みのある産物の強化												
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4					
指標	・静岡県産みかん出荷量に対する静岡市産みかんの割合(H27) ・静岡市民が静岡市産のみかんわさびを国内外に誇れる地域資源であると思う割合(H28~30)				静岡市産みかんの出荷量								
目標	7.1%	88%	89%	90%	5,200t	5,200t	5,200t	5,200t					
実績	4.6%	87%	84.8%	84.8%	4,953t	5,625t	—	—					
1次評価	B	A	A	B	A	A	—	—					

2 農林水産分野

政策1

新たな価値や需要を掘り起こし、市民が自慢できる農林水産の静岡市ブランド創出を推進します

施策3	食文化としての「しずまえ」ブランドの普及							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	「しずまえ」の市民認知度				「しずまえ」の市民認知度の向上			
目標	—	—	—	15%	56.7%	62.8%	68.9%	75%
実績	—	—	—	50.7%	54.6%	58.8%	—	—
1次評価	S	A	A	S	A	B	—	—

施策4	市産材の活用促進による地域経済の活性化							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	市産材取引価格(他産材との比較)				市産材取引価格(他産材との比較)			
目標	10%高い状態	10%高い状態	10%高い状態	10%高い状態	10%高い状態	10%高い状態	10%高い状態	10%高い状態
実績	10%高い状態	10%高い状態	10%高い状態	10%高い状態	10%高い状態	10%高い状態	—	—
1次評価	A	S	A	A	A	A	—	—

施策5	6次産業化の推進等による新たな価値の創出							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	6次産業化等への新規取組件数(H27からの累計値)				6次産業化等への新規取組件数(H27からの累計値)			
目標	5件	10件	20件	27件	32件	38件	44件	50件
実績	8件	13件	20件	26件	30件	37件	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

2 農林水産分野

政策2

産業・産地を担う人材・組織の育成を推進します

指標	新規就農者数(企業参入数を含む)(H27からの累計数)			現状値	31経営体 (H25)	目標値 (H30)	124経営体	実績値 (H30.3時点)	67経営体	1次評価	B
施策1	次代を担うビジネス感覚豊かで多様な担い手の育成・確保										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	新規就農者数(個人)(H27からの累計数)				認定農業者数						
目標	30人	60人	85人	110人	600経営体	600経営体	600経営体	600経営体			
実績	27人	45人	61人	79人	584経営体	596経営体	—	—			
1次評価	A	B	B	B	A	B	—	—			
施策2	農林水産業を成長産業にする新しい経営体の育成支援										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	農業参入法人数(H27からの累計数)				新規就農者数(法人含む)						
目標	1法人	2法人	5法人	8法人	23経営体	23経営体	23経営体	23経営体			
実績	0法人	3法人	6法人	9法人	17経営体	15経営体	—	—			
1次評価	A	A	A	A	B	B	—	—			
施策3	経営規模の拡大を目指す農林業者の育成支援										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	認定農業者1経営体あたりの農地集積面積				認定農業者1経営体あたりの農地集積面積						
目標	174a	181a	188a	195a	153a	153a	153a	153a			
実績	168a	165a	154a	155a	153a	164a	—	—			
1次評価	B	A	B	C	A	S	—	—			

2 農林水産分野

政策3

次世代へ自信を持って継承できる生産基盤の確保を推進します

指標	農道・林道開設整備率(延長増加率)	現状値	— (H25)	目標値 (H30)	46%	実績値 (H30.3時点)	34%	1次評価	A
施策1	効率的な農林業経営のための基盤整備								
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
指標	農道開設整備率(延長増加率)				①農道新設延長 ②林道網密度				
目標	40.0%	45.0%	56.2%	61.4%	①72.7% ②4.62m/ha	①79.0% ②4.65m/ha	①89.0% ②4.68m/ha	①100% ②4.71m/ha	
実績	40.0%	44.6%	56.2%	64.7%	①71.3% ②4.62m/ha	①81.4% ②4.62m/ha	—	—	
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—	
施策2	安心・安全な漁港・漁港海岸の整備								
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
指標	レベル1地震・津波及び高潮への防波堤、防潮堤及び岸壁の整備率				レベル1地震・津波及び高潮への防波堤、防潮堤及び岸壁の整備率				
目標	—	24.8%	24.8%	30%	78%	81%	95%	100%	
実績	—	19.9%	24.8%	24.8%	72%	79%	—	—	
1次評価	S	A	A	B	B	A	—	—	
施策3	既存の生産基盤の安定的な運用								
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
指標	林道路網密度				農道林道施設内の管理瑕疵による人身事故件数				
目標	4.54m/ha	4.55m/ha	4.58m/ha	4.6m/ha	0件	0件	0件	0件	
実績	4.53m/ha	4.55m/ha	4.57m/ha	4.59m/ha	0件	0件	—	—	
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—	

2 農林水産分野

政策4

多彩な地域資源を磨きあげ、オクシズ等の地域の活力強化を推進します

指標	移住世帯件数	現状値	1件 (H25)	目標値 (H30)	20件	実績値 (H30.3時点)	28件	1次評価	A
施策1	地域資源を活かした新しい産業の創出								
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
指標	地域振興の核となる新商品等の開発数				地域主体の新規事業認定件数				
目標	—	2 商品等	3 商品等	3 商品等	2 件	2件	2件	2件	
実績	—	3 商品	3 商品等	4 商品等	0件	2件	—	—	
1次評価	C	A	A	A	B	A	—	—	
施策2	地域資源を活かした交流の推進								
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
指標	都市農村交流人口				中山間地振興施設の入込客数				
目標	790,000人	800,000人	810,000人	820,000人	367,750人	372,500人	377,250人	382,000人	
実績	767,883人	728,402人	715,147人	675,293人	352,616人	—	—	—	
1次評価	A	A	B	B	A	—	—	—	
施策3	安心・安全な地域環境の整備								
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
指標	野生動物から農作物被害を駆除するため、防護柵を設置した農地面積				野生鳥獣防除面積				
目標	100ha	130ha	130ha	140ha	575ha	650ha	725ha	800ha	
実績	120ha	151.6ha	126.5ha	73.2ha	567ha	643ha	—	—	
1次評価	A	S	A	B	A	A	—	—	

2 農林水産分野

政策4

多彩な地域資源を磨きあげ、オクシズ等の地域の活力強化を推進します

施策4	豊かな農林水産資源保護の推進							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	農山村保全活動面積				農山村保全活動面積			
目標	—	1,077ha	1,079ha	1,081ha	950ha	950ha	950ha	950ha
実績	—	1,080ha	963ha	949ha	916ha	893ha	—	—
1次評価	A	A	B	B	A	B	—	—

3 商工・物流分野	政策1	次代を担う本市を代表する産業を生み出します
------------------	------------	-----------------------

指標	戦略産業に 従事する従業者数	現状値	134,443人 (H26推計)	目標値 (H30)	147,153人	実績値 (H30.3時点)	—	1次評価	A
-----------	-------------------	------------	---------------------	----------------------	----------	--------------------------	---	-------------	----------

施策1	戦略産業の育成・集積を推進							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	新商品開発・新聞や創出件数・国等による計画の認定				戦略産業振興プラットフォームによる新商品開発・新分野進出等件数			
目標	3件	5件	5件	5件	5件	5件	5件	5件
実績	4件	5件	5件	5件	5件	5件	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

施策2	都市型産業の新規企業立地							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	都市型産業の新規立地件数				都市型産業の新規立地件数			
目標	8件	3件	3件	3件	3件	4件	5件	5件
実績	2件	5件	3件	3件	3件	5件	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	S	—	—

施策3	企業の誘致と留置の推進							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	企業立地件数				企業立地件数			
目標	17件	17件	17件	17件	17件	17件	17件	17件
実績	17件	45件	26件	22件	31件	26件	—	—
1次評価	A	S	A	S	S	S	—	—

3 商工・物流分野

政策2

世界・全国に挑戦する中小企業の振興を図ります

指標	市内中小企業事業所の従業者数			現状値	265,243人 (H24)	目標値 (H30)	265,243人	実績値 (H30.3時点)	—	1次評価	A
施策1	新市場・販路開拓に対する支援										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	大規模展示会出展等件数(H27,28) 名刺交換件数のうち商談に進んだ件数の割合(H29,30)				大規模展示会出展等件数						
目標	55件	55件	5%	5%	42件	42件	42件	42件			
実績	55件	52件	11%	15%	43件	23件	—	—			
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—			
施策2	新製品・技術開発等に対する支援										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	①新商品等開発件数 ②産業財産権出願件数				新製品等開発事業に対する支援事業者数						
目標	①4件②21件	①4件②21件	①4件②21件	①4件②20件	9者	9者	9者	9者			
実績	①5件②30件	①4件②23件	①4件②18件	①3件②17件	9者	14者	—	—			
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—			
施策3	中小企業の経営基盤・競争力の強化										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	CSR表彰応募企業数				円滑な資金調達がなされている中小企業の割合						
目標	—	5社	8社	5社	52%	52%	52%	52%			
実績	—	8社	5社	4社	51.6%	54%	—	—			
1次評価	A	A	B	A	A	A	—	—			

3 商工・物流分野

政策2

世界・全国に挑戦する中小企業の振興を図ります

施策4	個店、商店街、まちの維持・成長支援							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	①中心市街地主要通りの店舗数 ②市場卸売業者取扱数量				①中心市街地主要通りの店舗・事業所数			
目標	①542件②143,385t	①544件②143,385t	①547件②143,385t	①550件②143,385t	静岡553店 清水200店	静岡555店 清水200店	静岡558店 清水200店	静岡560店 清水200店
実績	①553件② 121,737t	①532件②108,529t	①544件②94,042t	①548件②81,694t	静岡559店 清水200店	静岡567店 清水197店	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

3 商工・物流分野	政策3	陸・海・空の社会基盤を活かしたロジスティクス産業の拡大を推進します
------------------	------------	-----------------------------------

指標	清水港・ロジスティクス産業の従業者数	現状値	11,866人 (H26推計)	目標値 (H30)	13,053人	実績値 (H30.3時点)	-	1次評価	A
-----------	--------------------	------------	--------------------	----------------------	---------	--------------------------	---	-------------	----------

施策1	ロジスティクス産業の振興							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	ロジスティクス関連企業立地件数				ロジスティクス関連企業立地件数			
目標	2件	1円	1件	1件	2件	1円	1件	1件
実績	3件	7件	1件	1件	3件	5件	-	-
1次評価	A	S	S	S	S	S	-	-

施策2	清水港を中心とした広域物流の促進							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	①清水港の航路数 ②コンテナ取扱量				①清水港の航路数 ②コンテナ取扱量			
目標	①拡大 ②528,244TEU	①維持・拡大 ②557,762TEU	①維持・拡大 ②587,280TEU	①維持・拡大 ②616,800TEU	①27航路 ②542,116TEU	①27航路 ②555,466TEU	-	①拡大 ②676,400TEU
実績	①26航路 ②506,965TEU	①26航路 ②517,104TEU	①29航路 ②541,540TEU	①27航路 ②567,460TEU	①26航路 ②557,400TEU	①26航路 ②514,239TEU	-	-
1次評価	A	A	A	A	A	A	-	-

施策3	ロジスティクスを支える社会資本整備の推進							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	清水港整備事業費市負担金の執行率				清水港整備事業費市負担金の執行率			
目標	100%	100%	100%	100%	37.5%	41.3%	-	54%
実績	100%	100%	100%	100%	40.9%	44.8%	-	-
1次評価	A	A	A	A	A	A	-	-

3 商工・物流分野 **政策4** 次世代を担う優れた人材の育成と、多様な人材が活躍する雇用の場の創出を図ります

指標 有効求人倍率 **現状値** 静岡1.3倍清水0.87倍 (H25) **目標値 (H30)** 静岡全国値+0.3以上 清水全国値以上 **実績値 (H30.3時点)** 静岡2.21倍 清水1.81倍 **1次評価** **A**

施策1	次世代を担う多様な人材の育成							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	クラフトマンサポート事業利用者数(①長期支援②独立支援)				①新規創業者数 ②クラフトマンサポート事業(長期支援)			
目標	①2人②1人	①2人	①2人	①2人	①35者②2名	①35者②2名	①35者②2名	①35者②2名
実績	①2人②1人	①1人	①3人	①1人	①34者②2名	①36者②2名	—	—
1次評価	A	A	S	A	A	A	—	—

施策2	若者や女性、高齢者、障がい者の雇用機会の創出							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	女性の活躍 表彰事業所数				多様な人材の活躍応援事業所表彰数			
目標	5社	5社	5社	5社	5社	5社	5社	5社
実績	9社	5社	8社	5社	4社	—	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

施策3	良質な就労環境の創出							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	①ジョイブ会員事業所数 ②勤労者福祉センター満足度				①働きやすいまちと思う市民の割合 ②ジョイブ会員数			
目標	①2,200社②85.0%	①2,300社②90.0%	①2,380社②90.0%	①2,440社②90.0%	①50.5%②17,800人	①55%②18,700人	①59%②19,600人	①63%②20,500人
実績	①2,240社②94.0%	①2,275社②94.0%	①2,300社②94.0%	①2,321社②92.85%	①49.2%②17,468人	①51.1%②17,794人	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

4 文化・スポーツ分野 **政策1** 静岡の歴史的価値のみがきあげと世界への発信を推進します

指標	歴史や文化を身近に感じることができるまちだと思える市民の割合	現状値	63.8% (H26)	目標値 (H30)	68.80%	実績値 (H30.3時点)	61.5%	1次評価	A
-----------	--------------------------------	------------	----------------	---------------------	--------	-------------------------	-------	-------------	----------

施策1	世界的文化財や地域文化財の保存と継承							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	文化財サポーター実活動者数				①民族文化保存団体の構成人数 ②文化財保護事業に携わる市民ボランティアの人数			
目標	—	37人	50人	70人	①494人②114人	①494人②126人	①494人②138人	①494人②150人
実績	—	44人	70人	62人	①484人②122人	①493人②133人	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

施策2	世界的文化財や地域文化財の活用							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	「三保松原」の満足度				①国指定文化財等でのユニークバニユーの開催件数②文化財公開事業の開催日数			
目標	66%	52%	60%	62%	①8件②24日	①9件②26日	①10件②28日	①11件②30日
実績	52%	58%	73%	63%	①12件②20日	①18件②20日	—	—
1次評価	B	A	A	B	A	A	—	—

施策3	徳川家康公、今川義元公を活かした歴史文化の発信							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	歴史や文化を身近に感じることができるまちだと思える市民の割合				①徳川家康公を郷土の偉人として誇りに思う市民の割合 ②今川義元公を郷土の偉人として誇りに思う市民の割合			
目標	65.0%	66.2%	67.4%	68.8%	—	—	—	①88.8%②72%
実績	66.9%	64.3%	61.5%	62.6%	—	—	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

4 文化・スポーツ分野	政策2	世界レベルの芸術文化・スポーツを楽しむ機会の拡大を推進します
--------------------	------------	--------------------------------

指標	文化やスポーツを活かして世界中から人を呼び込む取組に満足している市民の割合	現状値	15% (H25)	目標値 (H30)	19%	実績値 (H30.3時点)	-	1次評価	A
-----------	---------------------------------------	------------	--------------	----------------------	-----	--------------------------	---	-------------	----------

施策1	芸術文化を通じた交流の推進と賑わい創出							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	芸術文化事業来場者数				芸術文化事業来場者数			
目標	267,500人	284,400人	284,700人	363,900人	372,100人	260,500人	372,100人	372,100人
実績	286,609人	376,094人	295,448人	334,988人	353,691人	228,673人	-	-
1次評価	S	S	S	B	A	-	-	-

施策2	スポーツを活かしたMICEの推進							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	市外から各種大会に参加する人の数				市外から各種大会に参加する人の数			
目標	-	22,423人	23,140人	23,878人	18,735人	19,157人	19,578人	20,000人
実績	-	16,251人	22,135人	20,837人	5,019人	984人	-	-
1次評価	A	B	B	B	B	-	-	-

施策3	オリンピック・パラリンピック・ラグビーW杯開催に向けた取組を生かした合宿の誘致							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	合宿の誘致団体数				トップチームの合宿誘致数			
目標	1 団体	2 団体	8 団体	8 団体	11件以上	2件以上	5件以上	8件以上
実績	1 団体	5 団体	10団体	11団体	8件	2件	-	-
1次評価	A	S	A	A	A	A	-	-

4 文化・スポーツ分野

政策3

陸・海・空の社会基盤を活かしたロジスティクス産業の拡大を推進します

指標	芸術や文化に親しむ機会・施設の充実に満足している市民の割合		現状値	28.6% (H25)	目標値 (H30)	32.6%	実績値 (H30.3時点)	—	1次評価	A
施策1	芸術文化活動への参加促進と人材育成の充実									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	①市民文化祭等出展者・出場者数 ②人材育成事業参加者数				①市民文化祭等出展者・出場者数 ②人材育成事業参加者数					
目標	①45,750人 ②12,000人	①45,750人 ②12,000人	①45,750人 ②12,000人	①52,300人 ②12,000人	①58,600人 ②10,400人	①41,000人 ②7,300人	①58,600人 ②10,400人	①58,600人 ②10,400人	①58,600人 ②10,400人	①58,600人 ②10,400人
実績	①46,767人 ②10,145人	①51,329人 ②15,205人	①52,344人 ②10,038人	①51,065人 ②11,826人	①56,258人 ②9,408人	①52,300人 ②12,000人	—	—	—	—
1次評価	A	A	B	A	B	—	—	—	—	—
施策2	ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	各種スポーツ教室・イベントへの参加者数				各種スポーツ教室・イベントへの参加者数					
目標	357千人	325千人	277千人	275千人	96,140人	96,140人	96,140人	96,140人	96,140人	96,140人
実績	310千人	349千人	322千人	288千人	96,657人	調査中	—	—	—	—
1次評価	A	A	S	A	A	—	—	—	—	—

4 文化・スポーツ分野

政策3

陸・海・空の社会基盤を活かしたロジスティクス産業の拡大を推進します

施策3	芸術文化・スポーツ活動を推進するための環境整備							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	①文化施設利用人数・利用率 ②スポーツ施設利用人数				①文化施設利用人数・利用率 ②スポーツ施設利用人数			
目標	①1,628千人、76.88% ②5,236千人	①1,628千人、76.92% ②5,009千人	①1,628千人、76.96% ②4,860千人	①1,628千人、75.59% ②4,917千人	①1,628千人、77% ②5,000千人	①1,628千人、77% ②5,000千人	①1,628千人、77% ②5,000千人	①1,628千人、77% ②5,000千人
実績	①1,680千人、76.74% ②5,109千人	①1,678千人、74.76% ②4,902千人	①1,548千人、76.20% ②4,803千人	①1,532千人、75.15% ②4,531千人	①1,414千人、72.88% ②4,383千人	①534千人、47.2% ②集計中	—	—
1次評価	A	A	A	B	B	—	—	—

4 文化・スポーツ分野	政策4	生涯にわたる学びを支援し、まちづくりに関わる人材の養成を推進します
--------------------	------------	-----------------------------------

指標	生涯学習を行っている人の割合	現状値	30% (H25)	目標値 (H30)	40%	実績値 (H29.3時点)	34%	1次評価	A
-----------	----------------	------------	-----------	------------------	-----	----------------------	-----	-------------	----------

施策1	市民ニーズに合わせた学習機会の充実							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	講座参加者満足度				講座参加者満足度			
目標	80%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%
実績	86.7%	80%	89.8%	87.3%	83.5%	86.1%	—	—
1次評価	S	A	A	A	A	A	—	—

施策2	未来を創る人材の養成							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	人材養成塾の延べ修了者数(H27) シチズンシップが身についた人の割合(H28~30)				地域や社会のために行動した人の割合			
目標	50人	95%	95%	95%	85.5%	86%	86.5%	87%
実績	49人	100%	100%	98.9%	70%	100%	—	—
1次評価	A	S	S	A	A	A	—	—

施策3	生涯学習に親しむ環境整備							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	生涯学習施設利用人数				生涯学習施設の耐震化率			
目標	129万人	131万人	133万人	135万人	87.1%	89.7%	97.4%	100%
実績	128.5万人	127万人	128万人	123万人	87.1%	89.7%	—	—
1次評価	A	A	A	B	A	A	—	—

5 子ども・教育分野	政策1	しずおか総がかりで子ども・子育て家庭を支援し、子どもを産み育てやすいまちづくりを推進します
-------------------	------------	---

指標	子どもを産み育てやすいまちだと思ふ市民の割合	現状値	60.2% (H25)	目標値 (H30)	64%	実績値 (H30.3時点)	49.6%	1次評価	B
-----------	------------------------	------------	----------------	----------------------	-----	--------------------------	-------	-------------	----------

施策1	子どもを産み育てることに安心感と喜びを感じる環境づくり							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	子育て支援センターの満足度				①子育て支援センターの満足度②妊婦健康診査受診率(初期受診率) ③乳児健康診査受診率(10か月児)			
目標	65%	70%	75%	80%	①95%以上 ②99%③95%	①95%以上 ②99%③95%	①95%以上 ②99%③95%	①95%以上 ②99%③95%
実績	67.7%	68.5%	68.4%	84.5%	①97.3%以上 ②98%③94.6%	①94.6%以上 ②98.5%③97.2%	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

施策2	子どもの育ちへの支援の充実							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	放課後児童クラブと放課後こども教室の一体的実施校数				①幼児期の教育から小学校教育に円滑な接続がなされていると思う小学校1年のクラス担任の割合 ②市立園での研修実施回数 ③私立こども園、保育所に参加を呼びかけた研修会の回数			
目標	7校	19校	34校	50校	①60.6% ②60回③3回	①65.4% ②60回③3回	①70.2% ②60回③3回	①75% ②60回③3回
実績	6校	10校	17校	28校	①59.1% ②63回③2回	①68% ②68回③0回	—	—
1次評価	A	A	A	A	B	A	—	—

5 子ども・教育分野

政策1

しずおか総がかりで子ども・子育て家庭を支援し、子どもを産み育てやすいまちづくりを推進します

施策3	子育てと仕事の両立支援の充実							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	保育所待機児童数				①保育所待機児童数②放課後児童クラブの待機児童数			
目標	—	94人	47人	0人	①0人②90人	①0人②0人	①0人②0人	①0人②0人
実績	—	46人	40人	0人	①0人②86人	①0人②43人	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	B	—	—
施策4	子どもと子育て家庭を支える地域づくり							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	ファミリーサポートセンター事業の会員数				①ファミリーサポートセンター事業の会員数 ②静岡市子育て支援団体連絡会に加入している子育て支援団体の数			
目標	1,080人	1,160人	1,240人	1,320人	①1,090人②75団体	①1,110人②80団体	①1,130人②85団体	①1,150人②90団体
実績	1,041人	1,044人	1,061人	1,071人	①990人②83団体	①1,057人②83団体	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

5 子ども・教育分野

政策2

学校、家庭、地域が連携し、社会を生き抜く力をもった子どもたちを育てます

指標	人の役に立つ人になりたいと思う児童・生徒の割合	現状値	小94.3%中94.7% (H26)	目標値 (H30)	小94.5%以上 中94.8%以上	実績値 (H30.3時点)	小91.6% 中91.6%	1次評価	A
-----------	-------------------------	------------	-----------------------	----------------------	----------------------	--------------------------	------------------	-------------	----------

施策1	確かな学力・豊かな人間性・健やかな体の調和のとれた子どもの育成							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	学校に行くのが楽しいと思う児童・生徒の割合(H27) 全国学力学習状況調査における小学校 国語A・B、算数A・Bの平均正答率(H28～30)				①学習に対する関心・意欲・態度が見られる児童・生徒の割合 ②運動が好きだという児童・生徒の割合			
目標	小87.1%以上 中83.8%以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	①小80.9%以上 中70%以上 ②小90.5%中84.2%	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上
実績	小87.2% 中81.4%	全国平均以上 (102.1%)	全国平均以上 (101.1%)	全国平均以上 (101.5%)	①小80.2%中68.7% ②小89.2%中83.6%	—	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	—	—	—

施策2	教育力の向上							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	授業がわかると思う児童・生徒の割合				学力向上に向けた取組・指導を行った学校の割合			
目標	小 81.5%以上 中 73.0%以上	小 80.5%以上 中 71.8%以上	小 81.4%以上 中 72.1%以上	全国平均以上	小 92.4%以上 中 92.2%以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上
実績	小 79.5% 中 71.4%	小 77.7% 中 68.9%	小 79.7% 中 68.9%	全国平均を下回る	小 92.9% 中 89.4%	—	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	—	—	—

5 子ども・教育分野

政策2

学校、家庭、地域が連携し、社会を生き抜く力をもった子どもたちを育てます

施策3	学校・家庭・地域の連携強化							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	ボランティア活動の参加延べ人数が、在籍児童・生徒数を上回っている学校の割合(H27) 学校、地域の連携が実現していると考えられる学校の割合(H28～30)				地域の人材・施設の活用を行った学校の割合			
目標	73%以上	100%	100%	100%	小79.2%中68.6%	小79.2%中68.6%	小79.2%中68.6%	小79.2%中68.6%
実績	74.4%	98%	98%	97%	小84.2%中86%	—	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	—	—	—
施策4	安心・安全で充実した教育環境の整備							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	学校施設における重大事故の発生件数				①施設の不備により授業が実施できなくなった日数②普通教室への空調設置率			
目標	0件	0件	0件	0件	①0件②70%	①0件②100%	①0件	①0件
実績	0件	0件	0件	0件	①0件②70%	①0件②100%	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

5 子ども・教育分野 **政策3** 地域社会や世界で力を発揮できる人材を育成します

指標	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあると答える児童・生徒の割合	現状値	小40.9%中30.8% 高47.8%(H26)	目標値 (H30)	小42%以上 中32%以上 高51%以上	実績値 (H30.3時点)	小37.1% 中31.8% 高一	1次評価	A
-----------	---	------------	-----------------------------	------------------	----------------------------	----------------------	---------------------	-------------	----------

施策1	自己有用感を持ち、社会で力を発揮できる若者の育成							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	自分にはよいところがあると思う児童・生徒の割合(自己肯定感)				①住んでいる地域の行事に参加している児童・生徒の割合 ②自分にはよいところがあると思う児童・生徒の割合			
目標	小80.8%以上 中72.1%以上	小81.2%以上 中72.4%以上	小81.6%以上 中72.7%以上	小82%以上 中73%以上	①小64%中62.1% ②小87.1%中80.2%	①小64%中62.1% ②小87.1%中80.2%	①小64%中62.1% ②小87.1%中80.2%	①小64%中62.1% ②小87.1%中80.2%
実績	小79.2% 中72.4%	小79.4% 中73.5%	小81.6% 中73.3%	小87.1% 中80.2%	①小66.6%中64.3% ②小84.2%中75.8%	—	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	—	—	—

施策2	グローバルに活躍する人材の育成							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	中学校卒業時で英検3級相当以上の力をもつ生徒の割合				中学校卒業までに、英語能力に関する外部試験を受験したことがある生徒の割合			
目標	—	36.0%	41%	46%	44.8%以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上
実績	—	37.9%	32.8%	37.0%	25%	—	—	—
1次評価	A	A	B	B	B	—	—	—

施策3	未来へ向けた教育環境の整備							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	・ICT等を活用した協働学習や課題発見・解決型の学習指導を行う学校の割合(～H29) ・校務支援システムの導入による教職員が子どもたちに向き合う時間の創出(H30)				教員が大型提示装置等のICTを活用した授業を1クラス当たり1回/週以上行った学校の割合			
目標	小66.1%以上 中53.3%以上	小68.4%以上 中56.8%以上	小71.6%以上 中63.8%以上	100時間	小・中ともに70%	小・中ともに70%	小・中ともに70%	小・中ともに70%
実績	小56.4%中55.8%	小65.9%中64.2%	小54.7%中69.8%	170時間	小71.1%中57.2%	—	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	—	—	—

5 子ども・教育分野

政策4

すべての子ども・若者が置かれた環境にかかわらず、生き活きと輝く環境づくりを推進します

指標	将来の夢や目標を持っていると答える児童・生徒の割合	現状値	小87.6%中72.4% 高77.1%(H26)	目標値 (H30)	小89%以上 中73%以上 高78%以上	実績値 (H30.3時点)	小84.3%中67.8% 高一	1次評価	A
-----------	---------------------------	------------	-----------------------------	------------------	----------------------------	----------------------	--------------------	-------------	----------

施策1	困難を抱える子ども・若者とその家庭への支援							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	ひとり親家庭(児童扶養手当受給世帯)の子どもの高校等進学率				①ひとり親家庭の子どもの高校進学率 ②体制不備による児童虐待重大事例の発生数			
目標	93.2%以上	96.4%以上	97.2%以上	98%以上	①98%以上②0件	①98%以上②0件	①98%以上②0件	①98%以上②0件
実績	95.7%	97.4%	97.3%	97.6%	①98%②0件	①98%②0件	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

施策2	一人ひとりのニーズに応じた教育の推進							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	特別支援教育のための構内支援体制づくりに対する外部委員の学校評価(H27) 特別支援教育について、学校の実態に応じた校内支援体制づくりが行われていると外部評価された学校の割合(H28~30)				教員が特別支援教育について理解し、授業の中で児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った学校の割合			
目標	小2.56点以上 中2.36点以上	小100% 中100%	小100% 中100%	小100% 中100%	小95.1%以上 中92.6%以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上
実績	小2.77点 中2.60点	小100% 中100%	小100% 中100%	小100% 中100%	小95.2%以上 中90.4%以上	—	—	—
1次評価	A	A	B	A	A	—	—	—

5 子ども・教育分野

政策4

すべての子ども・若者が置かれた環境にかかわらず、生き活きと輝く環境づくりを推進します

施策3	いじめ・不登校・ひきこもり対策の推進							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	いじめの解消率				①いじめの解消率 ②不登校者の出現率 ③ひきこもりの改善率			
目標	小89.7%中83.4%	小89.8%中83.6%	小76.5%中64.0%	小76.5%中64.0%	①小76.5%中64% ②小0.36%中3.26% ③63.1%	①小76.5%中64% ②小0.34%中3.18% ③63.1%	①小76.5%中64% ②小0.32%中3.10% ③63.1%	①小76.5%中64% ②小0.3%以下 中3%以下③63.1%
実績	小78.0%中72.9%	小76.5%中45.6%	小82.4%中85.0%	小93.9%中76.2%	①小69.2%中70.6% ②小1.13%中5.48% ③63.3%	①小70.1%中75% ②小1.12%中5.31% ③71.4%	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—
施策4	社会的養護の充実							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	里親委託率				①里親委託率②児童養護施設、里親に措置している子どもの高校等進学率			
目標	39.5%	47.0%	48.5%	50.0%	①50%②100%	①50.4%②100%	①50.8%②100%	①51.2%②100%
実績	46.9%	45.5%	44.2%	48.5%	①49.6%②100%	①48.7%②100%	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

6 都市・交通分野 **政策1** 魅力と親しみのある「まちの顔」の創造を推進します

指標	中心市街地(静岡・清水)の賑わいが増したと感じる市民の割合	現状値	静岡46.5%清水7%(H25)	目標値(H30)	静岡50%清水10%	実績値(H30.3時点)	—	1次評価	A
-----------	-------------------------------	------------	------------------	-----------------	------------	---------------------	---	-------------	----------

施策1	都心・副都心の都市機能の高度化・集積化							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	①静岡 ②清水の中心市街地の歩行者通行量				①静岡 ②清水の中心市街地の歩行者通行量			
目標	①166,723人 ②22,036人	①166,723人 ②22,036人	①166,723人 ②22,036人	①166,723人 ②22,036人	①154,117人 ②32,429人	①154,117人 ②26,170人	①154,117人 ②26,170人	①154,117人 ②26,170人
実績	①149,150人 ②21,423人	①145,908人 ②25,670人	①154,117人 ②32,429人	①165,034人 ②28,877人	①161,161人 ②34,094人	—	—	—
1次評価	A	A	A	A	B	—	—	—

施策2	歩いて楽しめる都市空間の創造							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	静岡の中心市街地の滞在時間(2時間以上の割合)				①静岡②清水の中心市街地の滞在時間(2時間以上の割合)			
目標	72.0%	72.0%	72.0%	72.0%	①72.8%②62.6%	①72.8%②62.6%	①72.8%②62.6%	①72.8%②62.6%
実績	65.5%	75.4%	72.8%	72.0%	①73%②50.3%	①60%②47.1%	—	—
1次評価	A	A	A	A	B	B	—	—

施策3	官民協働で進める地域の特色を活かしたまちづくり							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	公共空間におけるまちづくり団体の活動数(H27~29) 公共空間を活用したまちの賑わいづくりに寄与する取組の実施日数(H30)				公共空間を活用したまちの賑わいづくりに寄与する取組の実施日数			
目標	205回	210回	235回	223日	231日	233日	235日	236日
実績	213回	231回	251回	230日	286日	221日	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	B	—	—

6 都市・交通分野 **政策2** 地域の魅力と活力を高めるまちづくりを推進します

指標	地域拠点における定住人口(安倍川・草薙駅周辺)	現状値	22,730人 (H26)	目標値 (H30)	22,960人	実績値 (H30.3時点)	23,439人 (参考H28)	1次評価	B
-----------	-------------------------	------------	------------------	----------------------	---------	--------------------------	--------------------	-------------	----------

施策1	都心の機能を補完する地域拠点の整備及び官民協働で進めるまちづくり							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	①JR安倍川駅 ②草薙駅の乗降客数				①JR安倍川駅 ②草薙駅の乗降客数			
目標	①9,141人 ②17,221人	①9,265人 ②17,433人	①9,390人 ②17,646人	①9,514人 ②17,858人	①9,708人 ②18,513人	①9,778人 ②18,578人	①9,848人 ②18,644人	①9,918人 ②18,709人
実績	①9,230人 ②17,024人	①9,436人 ②17,676人	①9,568人 ②18,382人	①9,662人 ②21,400人	①9,708人 ②21,922人	—	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	—	—	—

施策2	大規模社会資本や観光資源を活かした交流拠点の整備							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	日本平・三保松原観光入込客数				日本平・三保松原観光入込客数			
目標	2,523千人	2,547千人	2,572千人	2,597千人	2,624千人	2,649千人	2,674千人	2,699千人
実績	2,588千人	2,203千人	2,084千人	2,510千人	2,666千人	1,786千人	—	—
1次評価	A	A	B	A	A	—	—	—

6 都市・交通分野

政策3

安心とるおいのある住環境の整備を推進します

指標	(住環境に関して)安心・快適に暮らせると思う市民の割合		現状値	55% (H25)	目標値 (H30)	60%	実績値 (H30.3時点)	—	1次評価	A
施策1	災害に強いまちづくりの推進									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	建築物の耐震化率(①公共建築物 ②民間住宅)				建築物の耐震化率(①公共建築物 ②民間住宅)					
目標	①92.1%②90%	①92.8%②91%	①93.4%②92%	①94%②93%	①96.8%②93.8%	①97.2%②95%	①97.6%②92.1%	①98%②92.8%		
実績	①92.1%②88.9%	①92.5%②90%	①92.8%②91%	①93.9%②92%	①97%②90.5%	①97.8%②90.7%	—	—		
1次評価	B	A	A	A	A	A	—	—		
施策2	人や環境にやさしい住環境の整備									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	長期優良住宅の普及件数				①長期優良住宅の普及件数 ②市営住宅の住戸改善を実施した戸数					
目標	6,800件	9,100件	10,400件	11,600件	①11,046件②406戸	①12,114件②448戸	①13,182件②483戸	①14,250件②524戸		
実績	7,761件	9,124件	10,320件	11,489件	①10,882件②402戸	①11,815件②428戸	—	—		
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—		
施策3	調和のとれた都市景観と緑あふれる環境の創出									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	1人当たり公園面積				1人当たり公園面積					
目標	6.2㎡	6.4㎡	6.6㎡	6.7㎡	7.03㎡	7.33㎡	7.66㎡	8.00㎡		
実績	6.2㎡	6.27㎡	6.33㎡	6.51㎡	6.58㎡	6.62㎡	—	—		
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—		

6 都市・交通分野

政策4

多彩な交流と活動を支える交通環境の充実を推進します

指標	現状値			23.1% (H25)	目標値 (H30)	25%	実績値 (H30.3時点)	—	1次評価	A
施策1	拠点をつなぐ円滑な公共交通									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	公共交通の利用者数(1日当たり:JR,静鉄、バス)				公共交通の利用者数(1日当たり:JR,静鉄、バス)					
目標	198,392人	197,503人	196,614人	195,726人	192,170人	192,170人	192,170人	192,170人		
実績	205,100人	204,968人	205,876人	205,747人	205,876人	207,967人	—	—		
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—		
施策2	公共交通が利用しやすい環境の充実									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	バリアフリー化が必要とされている鉄道駅のうち実施されている割合				バリアフリー化が必要とされている鉄道駅のうち実施されている割合					
目標	62.5%	68.8%	75%	75%	82%	82%	82%	82%		
実績	62.5%	68.8%	68.8%	75%	76%	76%	—	—		
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—		
施策3	安全で快適に自転車が利用できる環境の整備									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	まちなかにおける放置自転車台数				まちなかにおける放置自転車台数					
目標	1,790台	1,710台	1,630台	1,560台	953台	889台	825台	760台		
実績	1,382台	1,226台	996台	969台	664台	606台	—	—		
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—		

7 社会基盤分野

政策1

地域連携や交流の拡大に貢献する道路の整備と活用を推進します

指標	主要道路における 旅行速度		現状値	29.8km/h (H25)	目標値 (H30)	31km/h	実績値 (H30.3時点)	—	1次評価	B
施策1	広域交通ネットワークの強化									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	高速道路ICアクセス道路の整備率				高速道路ICアクセス道路の整備率					
目標	6%	6%	100%	100%	45%	45.63%	45.63%	100%		
実績	6%	13.0%	22.3%	32.8%	45.63%	45.63%	—	—		
1次評価	A	S	B	B	A	A	—	—		
施策2	道路網の整備による交流機能向上									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	都市計画道路の整備率				都市計画道路の整備率					
目標	78.9%	79%	82.7%	83%	82.28%	82.28%	82.33%	83.9%		
実績	78.95%	78.99%	79.1%	82.3%	82.28%	82.33%	—	—		
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—		

7 社会基盤分野

政策2

道路利用者の安全性・快適性の向上のため、道路環境の改善を推進します

指標	歩道の歩きやすさの満足度			現状値	26% (H26)	目標値 (H30)	28% (30%)	実績値 (H30.3時点)	—	1次評価	A
施策1	道路の安全性の向上										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	小学校周辺の通学路における歩行空間整備率					小学校周辺の通学路における歩行空間整備率					
目標	48.9%	50.7%	52.5%	54.4%	56.2%	58.1%	60%	62%			
実績	49.0%	51.2%	52.5%	54.4%	56.2%	59.5%	—	—			
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—			
施策2	自転車走行空間の整備										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	自転車走行空間の整備率					自転車走行空間の整備率					
目標	33%	36%	45%	52%	56.3%	61.5%	66.7%	72%			
実績	35%	39%	45%	52%	55.5%	58.9%	—	—			
1次評価	S	S	A	A	A	A	—	—			
施策3	道路環境の快適性の向上										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	主要な生活関連経路のバリアフリー化率					主要な生活関連経路のバリアフリー化率					
目標	26%	32%	46%	62%	73%	81%	87%	100%			
実績	26%	32%	42.6%	69.4%	73%	79.1%	—	—			
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—			

7 社会基盤分野

政策3

ライフラインである上下水道を維持するために、効率的な事業運営を推進します

指標	適正な経常収支比率の維持(水道事業)		現状値	水道109.8% (H25)	目標値 (H30)	103%	実績値 (H30.3時点)	118.2%	1次評価	A
施策1	安全でおいしい水の安定供給									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	水道施設事故に伴う断水戸数が100戸を超える事故件数				管路の新設率					
目標	0件	0件	0件	0件	0.15%	0.19%	0.1%	0.05%		
実績	0件	0件	0件	0件	0.15%	0.15%	—	—		
1次評価	A	S	A	A	A	A	—	—		
施策2	汚水処理の推進									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	下水道整備率				下水道整備率					
目標	91.7%	91.9%	92%	92.3%	92.4%	92.7%	93%	93.3%		
実績	91.7%	91.9%	92.2%	92.4%	92.5%	92.8%	—	—		
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—		

7 社会基盤分野

政策4

持続可能な運営を図るため、維持管理・更新を計画的に推進します

指標	各施策の達成状況			現状値	—	目標値 (H30)	—	実績値 (H30.3時点)	—	1次評価	A
施策1	維持管理計画に基づいた対策の推進										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	維持管理の実施(①橋りょう修繕②トンネル補修③舗装維持水準)				①緊急措置段階の橋梁及びトンネル未対策箇所数 ②打換えが必要となる道路舗装の割合						
目標	①41%②43% ③15%未満	①50.7%②57% ③15%未満	①60.4%②71% ③15%未満	①70.1%②100% ③15%未満	①0件②15%未満	①0件②15%未満	①0件②15%未満	①0件②15%未満	①0件②15%未満		
実績	①36.8%②43% ③14.1%	①43.1%②57% ③14.7%	①45.8%②71% ③11.6%	①47.9%②100% ③13.8%	①0件②12.6%	①0件②11.6%	—	—			
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—			
施策2	環境・省エネルギー等を考慮した施設への転換										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	下水道焼却炉から炭化炉に更新することによるCO2排出量				既存道路照明灯のLED化した灯数						
目標	0	560t	2,430t	2,430t	165基	330基	495基	661基			
実績	0	492t	1,894t	2,630t	224基	452基	—	—			
1次評価	A	S	S	B	A	S	—	—			
施策3	市民・企業との協働・連携による維持管理・活用の推進										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	道路サポーター登録団体数				道路サポーター登録団体数						
目標	103団体	110団体	117団体	132団体	138団体	140団体	150団体	—			
実績	104団体	113団体	124団体	131団体	130団体	131団体	—	—			
1次評価	A	A	S	A	B	B	—	—			

7 社会基盤分野

政策5

自然災害に耐えうる社会基盤の強靱化を推進します

指標	各施策の達成状況				現状値	—	目標値 (H30)	—	実績値 (H30.3時点)	—	1次評価	A
施策1	施設の耐震化等の推進											
年度	H27	H28	H29	H30		R1	R2	R3	R4			
指標	橋りょう/橋脚がある橋りょうの耐震化実施数				①橋りょう/橋脚がある橋りょうの耐震化実施数 ②浜川水門かさ上げ及び特殊堤防の耐震化率							
目標	116橋	127橋	138橋	151橋		①132橋②100%	①138橋②100%	①143橋			①148橋	
実績	114橋	116橋	121橋	126橋		①131橋②95.5%	①135橋②100%	—			—	
1次評価	A	A	A	B		A	A	—			—	
施策2	浸水対策の推進											
年度	H27	H28	H29	H30		R1	R2	R3	R4			
指標	広域河川改修事業による浸水対策推進プラン対策完了地区数				浸水対策推進プラン浸水対策地区の完了地区数							
目標	0地区	1地区	1地区	1地区		27地区	27地区	28地区			28地区	
実績	0地区	1地区	1地区	1地区		24地区	26地区	—			—	
1次評価	A	A	A	B		B	A	—			—	

7 社会基盤分野

政策5

自然災害に耐えうる社会基盤の強靱化を推進します

施策3	湧水対策の推進							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	非常時の相互運用				年間給水制限日数(日)			
目標	3,000m ³ /日	3,000m ³ /日	3,000m ³ /日	10,000m ³ /日	—	0日	0日	0日
実績	3,000m ³ /日	3,000m ³ /日	3,000m ³ /日	3,000m ³ /日	0日	0日	—	—
1次評価	A	A	B	C	A	A	—	—
施策4	災害時の対策及び体制強化							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	地籍調査基本計画(短期計画期間)進捗率				地籍調査面積(市実施分)			
目標	40%	55%	70%	85%	11ha	21ha	12ha	7ha
実績	33%	66%	111%	138%	8ha	21ha	—	—
1次評価	A	A	A	A	B	A	—	—

8 健康・福祉分野	政策1	すべての人が住み慣れた地域で安心して共に暮らすことのできる地域社会を推進します
------------------	------------	---

指標	互いに助け合う暮らしやすいまちだと思ふ市民の割合	現状値	36% (H25)	目標値 (H30)	44%	実績値 (H30.3時点)	-	1次評価	A
-----------	--------------------------	------------	--------------	----------------------	-----	--------------------------	---	-------------	----------

施策1	地域福祉を担う人づくり							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	①子ども、②高齢者、③障がい者に関するボランティア活動に参加する割合				①子ども、②高齢者、③障がい者に関するボランティア活動に参加する割合			
目標	-	-	-	①23%②23%③13%	-	-	-	①18%②13%③8%
実績	-	-	-	①7.3%②11.4%③6.9%	-	-	-	-
1次評価	A	A	A	B	A	-	-	-

施策2	市民との協働による地域づくり							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	要援護者のうち、災害時要援護者避難支援制度への同意確認済の割合				①地域活動(防災訓練など)に参加する人の割合 ②S型デイサービス事業実施会場数 ③地域福祉交流拠点連携事業数			
目標	90%	91%	92%	93%	①- ②280会場 ③112事業	①- ②285会場 ③122事業	①- ②290会場 ③132事業	①38.2%②295会場 ③140事業
実績	94%	95%	92%	93.2%	①- ②277会場 ③118事業	①- ②221会場 ③107事業	-	-
1次評価	A	A	A	A	A	-	-	-

8 健康・福祉分野

政策1

すべての人が住み慣れた地域で安心して共に暮らすことのできる地域社会を推進します

施策3	一人ひとりに必要な支援を提供できる環境づくり							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	セーフティーネットが整備されているまちと思う市民の割合				①セーフティーネットが整備されているまちと思う市民の割合 ②家庭裁判所から市民後見人として選任された延べ人数			
目標	33%	34%	35%	36.6%	①40.5%②0人	①41.5%②1人	①42.5%②3人	①43.5%②6人
実績	35.7%	35.1%	39.1%	39.5%	①37.3%②0人	①43.3%②1人	—	—
1次評価	A	A	S	S	A	A	—	—

8 健康・福祉分野

政策2

高齢者が生きがいを持ち、地域で自分らしく生活を送ることができる長寿社会を推進します

指標	週4日以上外出している高齢者の割合			現状値	65% (H25)	目標値 (H30)	67.5%	実績値 (H30.3時点)	—	1次評価	A
施策1	健康長寿のさらなる推進と生きがい活動の充実										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	地域活動に参加している高齢者の割合					地域活動に参加している高齢者の割合					
目標	—	—	—	72%	73%	74%	75%	76%			
実績	—	67.4%	—	—	68.7%	—	—	—			
1次評価	A	A	A	A	A	—	—	—			
施策2	地域で支え合う体制の強化										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	地域包括支援センターの認知度					地域包括支援センターの認知度					
目標	—	—	—	59%	—	82%	—	90%			
実績	—	67.1%	—	—	63.6%	—	—	—			
1次評価	A	A	A	A	A	—	—	—			
施策3	安心できる生活を支えるサービス基盤の確保										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	介護保険制度の満足度					①医療・介護連携がうまくいっていると感じている専門職の割合 ②在宅で介護保険サービスを利用している人の満足度					
目標	—	—	—	88%	①—②—	①78.5%②77.5%	①—②—	①84.0%②80.0%			
実績	—	71.5%	—	—	①—②—	①—②—	—	—			
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—			

8 健康・福祉分野

政策3

障がいの有無に関わらず、地域で共に暮らすことができる社会を推進します

指標	障害がある人ない人の地域における共生が進んでいると思う人の割合				現状値	障がいのある人:14.5% 全体:12.8%(H25)				目標値 (H30)	障害のある人:22% 全体:18%				実績値 (H30.3時点)	-				1次評価	A			
施策1	充実した社会生活のための 支援の推進																							
年度	H27		H28		H29		H30		R1		R2		R3		R4									
指標	福祉施設から一般就労への移行者数								①福祉施設から一般就労への移行者数 ②移動支援事業の利用者数															
目標	対前年度17人増加		対前年度17人増加		対前年度17人増加		対前年度17人増加		①102人②716人		①108人②744人		①114人②772人		①120人②800人									
実績	18人減		18人増		21人増		19人増		①118人②717人		-		-		-									
1次評価	A		A		A		A		A		-		-		-									
施策2	障がいを理解し、支え合う環境づくり																							
年度	H27		H28		H29		H30		R1		R2		R3		R4									
指標	イベントへの来場者へのアンケートで、障がいへの理解が深まったと回答した人の割合								①障がいや障がいのある人に対して理解があると思う人の割合 ②ヘルプマークを知っている人の割合															
目標	80%		80%		95%		95%		①44%②20%		①48%②30%		①52%②40%		①55%②50%									
実績	-		99.3%		99%		98%		①49% ②障がいのある人35% 障がいのない人31.6%		-		-		-									
1次評価	A		A		A		A		A		-		-		-									

8 健康・福祉分野

政策3

障がいの有無に関わらず、地域で共に暮らすことができる社会を推進します

施策3	生涯を通じて、安心して生活できる支援体制の充実							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	入所施設からの地域生活移行者数				①(知的・身体)入所施設から地域生活移行者数 ②(精神)精神科病院入院後1年時点の退院率 ③相談支援事業における利用者満足度			
目標	15人以上	15人以上	15人以上	15人以上	①64人②90%以上 ③90%以上	①75人②90%以上 ③90%以上	①89人②90%以上 ③90%以上	①103人②90%以上 ③90%以上
実績	11人	17人	19人	6人	①65人②95.6% ③100%	①72人②86.5% ③—	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

8 健康・福祉分野

政策4

生涯を通じた健康づくりを推進します

指標	65歳時点の健康寿命				現状値	男性:17.15年 女性: 20.54年(H23)	目標値 (H30)	延伸	実績値 (H30.3時点)	—	1次評価	A
施策1	ライフステージに合わせた健康づくりの推進											
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4				
指標	がん検診受診率					①がん検診受診率 ②特定検診受診率 ③こころの相談機関の認知度						
目標	22.6%	23.6%	24.6%	25.6%	①22.9%②42% ③56%	①20.4%②34.1% ③—	①21.2%②34.9% ③—	①22.8%②35.7% ③59%				
実績	21.7%	21.2%	21.3%	21.1%	①20.4%②34% ③—%	①20.5%②32.5% ③—%	—	—				
1次評価	A	A	A	A	B	A	—	—				
施策2	健やかに暮らせる地域医療の充実											
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4				
指標	公的5病院における医師確保数					①市内の無医地区数 ②緊急医療受入可能日数・時間帯						
目標	5人	5人	5人	5人	①0地区 ②365日24時間	①0地区 ②365日24時間	①0地区 ②365日24時間	①0地区 ②365日24時間				
実績	2人	3人	9人	8人	①0地区 ②365日24時間	①0地区 ②365日24時間	—	—				
1次評価	S	A	A	A	A	A	—	—				

8 健康・福祉分野

政策4

生涯を通じた健康づくりを推進します

施策3	健康に関する危機管理の推進							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	①救急医療の受入可能日数 ②大規模食中毒(患者数100人以上)の発生件数				①救急医療の受入可能日数・時間帯 ②大規模食中毒(患者数100人以上)の発生件数			
目標	①366日②0件	①365日②0件	①365日②0件	①365日②0件	①365日24時間 ②0件	①365日24時間 ②0件	①365日24時間 ②0件	①365日24時間 ②0件
実績	①366日②1件	①365日②0件	①365日②0件	①365日②0件	①365日24時間 ②0件	①365日24時間 ②0件	—	—
1次評価	B	A	A	A	A	A	—	—

9 防災・消防分野 **政策1** 自助・共助・公助により、巨大地震に対する減災を推進します

指標	静岡市が災害に強く安心・安全に暮らせるまちだと思ふ、ある程度そう思うと回答する市民の割合	現状値	57% (H26)	目標値 (H30)	65%	実績値 (H30.3時点)	49.6%	1次評価	A
-----------	--	------------	--------------	---------------------	-----	-------------------------	-------	-------------	----------

施策1	市民や地域の防災・減災意識の向上							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	地域の防災訓練実施率				地域の防災訓練参加者数			
目標	71%	72%	73%	75%	214,000人	214,000人	214,000人	214,000人
実績	68.5%	65.6%	63.5%	87.1%	191,156人	80,448人	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

施策2	避難対策の充実・強化							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	津波避難タワーの建設が必要な空白エリアの解消率				津波避難困難区域の各エリア毎の解消率			
目標	52.3%	67%	84.2%	100%	59.6%	66.6%	73.6%	80.6%
実績	52.4%	73.7%	84.2%	94.7%	59.6%	61.4%	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

施策3	ライフライン・建築物等の耐震化							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	建築物の耐震化率(①公共建築物 ②民間住宅)				建築物の耐震化率(①公共建築物 ②民間住宅)			
目標	①92.1%②90%	①92.8%②91%	①93.4%②92%	①94%②93%	①96.8%②93.8%	①97.2%②95%	①97.6%②92.1%	①98%②92.8%
実績	①92.1%②88.9%	①92.5%②90%	①92.8%②91%	①93.9%②92%	①97%②90.5%	①97.8%②90.7%	—	—
1次評価	B	A	A	A	A	A	—	—

9 防災・消防分野

政策1

自助・共助・公助により、巨大地震に対する減災を推進します

施策4	大規模災害時の業務継続							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	受援計画の策定				全庁業務継続計画の策定			
目標	—	100%	—	—	100%	100%	100%	100%
実績	—	100%	—	—	100%	100%	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

9 防災・消防分野

政策2

多発する風水害に備え防災体制整備を推進します

指標	災害による死者数		現状値		0人 (H26)	目標値 (H30)		0人	実績値 (H30.3時点)		0人	1次評価	A
施策1	風水害に対する危機意識の向上												
年度	H27	H28	H29	H30		R1	R2	R3	R4				
指標	土砂災害訓練モデル箇所指定数					避難確保計画の作成率							
目標	3箇所	3箇所	3箇所	3箇所		82%	92%	100%	100%				
実績	2箇所	4箇所	2箇所	3箇所		83%	87%	—	—				
1次評価	B	A	A	A		S	A	—	—				
施策2	気象情報等の情報伝達体制の強化												
年度	H27	H28	H29	H30		R1	R2	R3	R4				
指標	静岡市防災メール登録者数					静岡市防災メール登録者数							
目標	40,500人	41,000人	38,000人	38,000人		35,000人	35,000人	35,000人	35,000人				
実績	38,000人	35,443人	34,056人	32,835人		31,907人	32,020人	—	—				
1次評価	A	B	B	B		A	A	—	—				
施策3	災害対策本部機能の強化												
年度	H27	H28	H29	H30		R1	R2	R3	R4				
指標	職員用防災メールの30分以内返信率					事前情報に伴うタイムラインの策定率							
目標	66%	67%	68%	68%		100%	100%	100%	100%				
実績	68%	65.5%	56.4%	47.9%		100%	100%	—	—				
1次評価	A	A	B	B		A	A	—	—				

9 防災・消防分野

政策2

多発する風水害に備え防災体制整備を推進します

施策4	風水害に強い社会基盤の整備							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	河川改修事業による浸水対策推進プラン対策完了地区数				浸水対策推進プラン浸水対策地区の完了地区数			
目標	19地区	20地区	21地区	21地区	27地区	27地区	28地区	28地区
実績	19地区	20地区	20地区	21地区	24地区	26地区	—	—
1次評価	A	A	A	A	B	A	—	—

9 防災・消防分野

政策3

火災、救急、救助に対し迅速・的確に対応するため、消防力の強化を推進します

指標	火災による死者数	現状値	5人(H25)	目標値 (H30)	0人	実績値 (H30.3時点)	13人	1次評価	B
施策1	火災予防の推進								
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
指標	総火災件数に占める建物火災の割合				総火災件数に占める建物火災の割合				
目標	53%	52.0%	51.0%	50.0%	50%未満	50%未満	50%未満	50%未満	
実績	54.4%	54.9%	54.6%	62.7%	52%	52.7%	—	—	
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—	
施策2	救命体制の充実								
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
指標	救命講習受講者数(延人員)				救命講習受講者数(延人員)				
目標	13万人	15万人	17万人	19万人	21万人	23万人	25万人	27万人	
実績	13万6千人	15万2千人	17万2千人	19万4千人	21万5千人	—	—	—	
1次評価	S	A	A	A	A	—	—	—	
施策3	緊急消防援助隊の受入体制の充実								
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
指標	屋内施設を有する活動拠点数				屋内施設を有する活動拠点数				
目標	3箇所	4箇所	5箇所	6箇所	6箇所	6箇所	6箇所	6箇所	
実績	3箇所	4箇所	4箇所	5箇所	5箇所	6箇所	—	—	
1次評価	A	A	B	B	B	A	—	—	

9 防災・消防分野

政策3

火災、救急、救助に対し迅速・的確に対応するため、消防力の強化を推進します

施策4	施設整備等の強化							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	消防施設・車両等の整備進捗率				消防施設・車両等の整備進捗率			
目標	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
実績	92.3%	100%	100%	100%	95.5%	100%	—	—
1次評価	A	B	A	A	B	B	—	—

9 防災・消防分野 **政策4** 様々な危機への体制整備を推進します

指標	危機管理責任者の危機管理意識定着度	現状値	91% (H26)	目標値 (H30)	100%	実績値 (H30.3時点)	93.7%	1次評価	A
-----------	-------------------	------------	--------------	---------------------	------	-------------------------	-------	-------------	----------

施策1	危機管理体制の強化							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	危機管理マニュアル整備率(H27) 危機管理に対する意識が定着している危機管理責任者の割合(H28~30)				危機管理マニュアル見直し率			
目標	90%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
実績	87%	98%	93.7%	92%	100%	100%	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

10 生活・環境分野

政策1

総合的に地球温暖化対策に取り組みます

指標	地球温暖化対策に取り組む市民の割合		現状値	55% (H26)	目標値 (H30)	67%	実績値 (H30.3時点)	—	1次評価	A
施策1	省エネルギーの推進									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	消費電力削減量				省エネルギーに取り組む市民の割合					
目標	—	124万kw/h	158万kw/h	182万kw/h	59.0%	60.1%	61.3%	62.4%		
実績	—	126万kw/h	158万kw/h	185万kw/h	49.9%	47.2%	—	—		
1次評価	A	A	A	A	B	A	—	—		
施策2	地域の特色を活かした再生可能エネルギーの普及促進									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	市内の電気消費量に対する再生可能エネルギーの構成割合				再生可能エネルギーの導入割合(平成25年度電気使用量比)					
目標	22.5%	22.7%	22.8%	23%	23.3%	24.0%	24.2%	24.4%		
実績	22.8%	22.9%	23.2%	23.4%	23.8%	24.0%	—	—		
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—		
施策3	災害に強く環境にやさしいエネルギーの分散化									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4		
指標	防災スマート街区の形成				分散型エネルギーを確保した住宅の割合					
目標	—	—	—	累計2街区	18.7%	19.1%	19.5%	20.0%		
実績	—	—	—	0街区	31.8%	50.8%	—	—		
1次評価	A	B	B	B	A	A	—	—		

10 生活・環境分野

政策1

総合的に地球温暖化対策に取り組みます

施策4	気候変動に適応した対策の推進							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	気候変動の影響に適応するための体制整備				気候変動に適応するための体制整備			
目標	計画策定	庁内体制整備	施策整理	全体体制整備	実施計画策定	庁外体制整理	庁外体制整理	全体体制整備
実績	計画策定	整備	整理	未整備	実施計画策定	庁外体制整理	—	—
1次評価	A	B	A	A	A	B	—	—

10 生活・環境分野

政策2

豊かな自然環境を守り、次の世代へ繋いでいきます

指標	静岡市は豊かな自然があるまち だと思ふ市民の割合				現状値	93% (H25)	目標値 (H30)	95%	実績値 (H30.3時点)	95.7%	1次評価	A
施策1	南アルプスなどの自然環境・生態系の保全											
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4				
指標	南アルプス主要地域(千枚小屋周辺)の高山植物数の維持				南アルプス主要地域(千枚小屋周辺)の高山植物数の維持							
目標	15種	15種	15種	15種	15種	15種	15種	15種				
実績	31種	35種	34種	31種	13種 (33種)	13種 (33種)	—	—				
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—				
施策2	持続可能な自然の利活用の推進											
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4				
指標	自然環境学習への参加者数				自然環境学習への参加者数							
目標	2,590人	2,600人	3,250人	3,260人	4,671人	4,696人	4,721人	4,746人				
実績	2,598人	2,815人	3,512人	3,322人	4,124人	2,635人	—	—				
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—				
施策3	自然を守る人材の育成											
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4				
指標	環境ボランティア数				河川環境アドプトプログラムの登録団体の延べ活動回数							
目標	5,040人	5,060人	5,080人	5,100人	94回	96回	98回	100回				
実績	2,508人	5,526人	4,665人	4,080人	85回	57回	—	—				
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—				

10 生活・環境分野

政策3

住み良さを実感できる生活環境をつくります

指標	各施策の達成状況			現状値	—	目標値 (H30)	—	実績値 (H30.3時点)	—	1次評価	A
施策1	みんなで取り組む地域防犯活動の推進										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	刑法犯認知件数					刑法犯認知件数					
目標	5,876件	4,920件	4,307件	4,200件	3,950件	3,900件	3,850件	3,800件			
実績	5,072件	4,517件	4,259件	4,004件	3,953件	3,295件	—	—			
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—			
施策2	自ら守る交通安全意識の向上										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	交通事故発生件数					交通事故発生件数					
目標	6,384件	5,660件	5,600件	5,250件	5,000件	4,144件	3,908件	3,685件			
実績	5,717件	5,537件	5,379件	5,049件	4,394件	3,592件	—	—			
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—			
施策3	自ら考え行動する「消費者市民社会」の実現										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	消費者市民ミニ講座等への参加人数(H27以降の累計)					消費者市民ミニ講座等への参加人数(累計)					
目標	3,500人	7,000人	10,500人	14,000人	17,500人	20,500人	24,250人	28,000人			
実績	2,706人	6,969人	11,368人	16,140人	19,486人	21,736人	—	—			
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—			

10 生活・環境分野

政策3

住み良さを実感できる生活環境をつくれます

施策4	安心安全な生活環境の確保と充実							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
指標	事業者の公害法令順守率				事業者の公害法令順守率			
目標	88.0%	89.0%	89%	90%	90.0%	91.0%	91.0%	92.0%
実績	91.2%	88.3%	91.3%	94.7%	91.2%	91.5%	—	—
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—

10 生活・環境分野

政策4

環境に配慮した廃棄物政策を推進します

指標	一人1日当たりのごみ総排出量			現状値	1,008g/人日 (H25)	目標値 (H30)	926g/人日	実績値 (H30.3時点)	928g/人日	1次評価	A
施策1	廃棄物のさらなる減量に向けた協働の推進										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	「もったいない運動」に取り組んでいる市民の割合					「もったいない運動」に取り組んでいる市民の割合					
目標	—	—	—	89%	—	—	—	95.0%			
実績	—	—	—	67.7%	—	—	—	—			
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—			
施策1	安定的な廃棄物処理体制の確保										
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4			
指標	搬入物の適正な全量埋立処理達成率(沼上最終処分場)					搬入物の適正な全量埋立処理達成率(沼上最終処分場、清水貝島最終処分場)					
目標	11,970t	11,530t	9,120t	7,390t	9,410t	9,800t	9,060t	9,060t			
実績	11,046t	10,989t	7,071t	7,309t	9,216t	8,209t	—	—			
1次評価	A	A	A	A	A	A	—	—			

